

バングラデシュ人民共和国  
農村婦人研修センター設立計画  
基本設計調査報告書

昭和60年6月

国際協力事業団

無計一

85 - 60



バングラデシュ人民共和国  
農村婦人研修センター設立計画  
基本設計調査報告書

JICA LIBRARY



1033939[8]

昭和60年6月

国際協力事業団

国際協力事業団	
受入 月日 '85. 7. 22	101
登録No. 11769	81
	GRF

## 序 文

日本国政府は、バングラデシュ人民共和国政府の要請に基づき、同国の農村婦人研修センター設立にかかる基本設計調査を行うことを決定し、国際協力事業団がこの調査を実施した。当事業団は、1985年3月21日より4月8日まで外務省経済協力局政策課田中和夫氏を団長とする基本設計調査団を現地に派遣した。

調査団は、バングラデシュ人民共和国政府関係者と協議を行うとともに、プロジェクトサイト調査及び資料収集等の調査を実施し、帰国後の国内作業を経て、ここに本報告書完成の運びとなった。

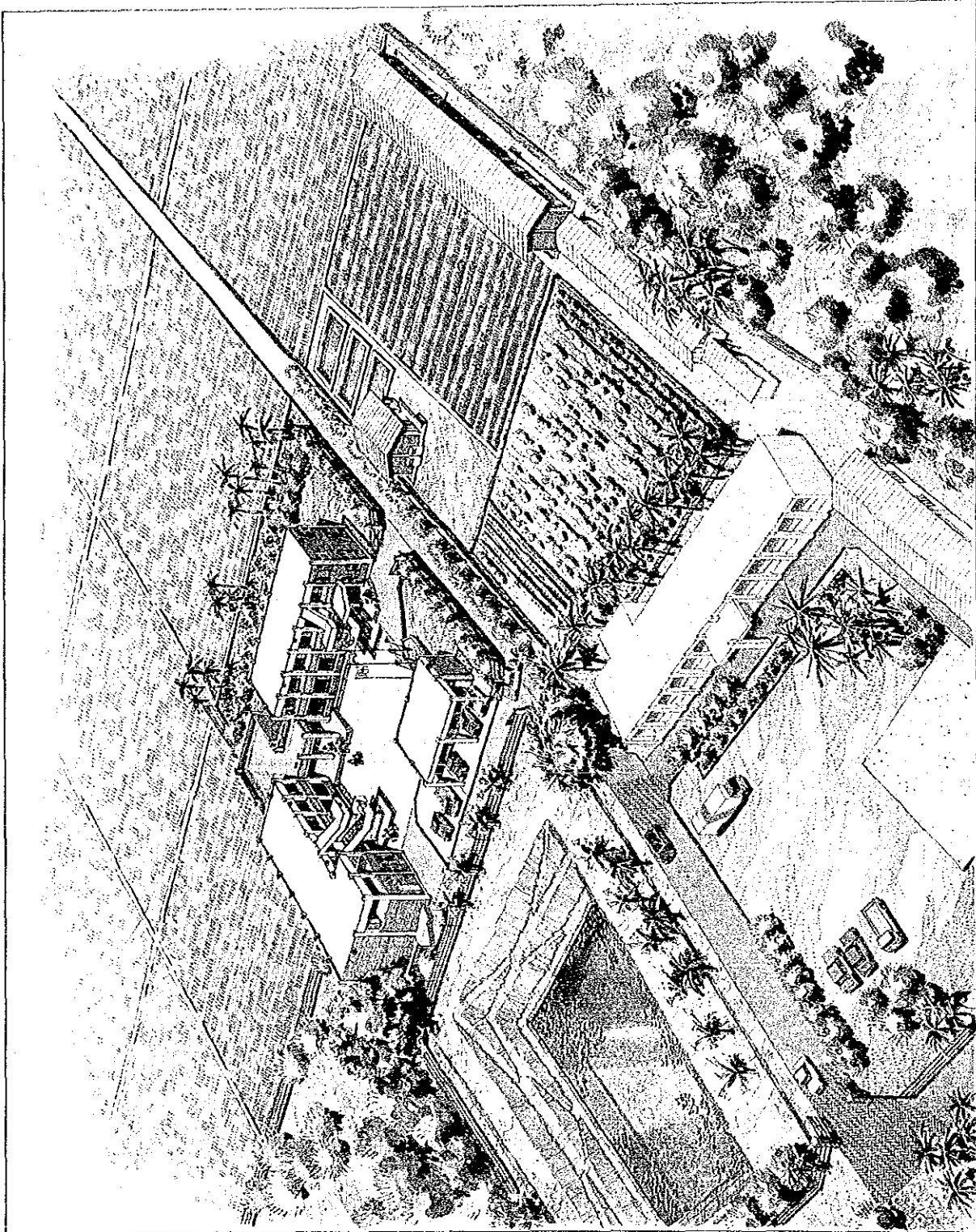
本報告書が、本プロジェクトの推進に寄与するとともに、バングラデシュ人民共和国における農村婦人の育成に多大な成果をもたらし、ひいては両国の友好・親善の一層の発展に役立つことを願うものである。

終りに、本件調査にご協力とご援助をいただいた関係各位に対し、心より感謝の意を表すものである。

昭和60年6月

国際協力事業団  
総裁 有田 圭 輔





**THE AGRICULTURE  
TRAINING CENTER  
FOR WOMEN**

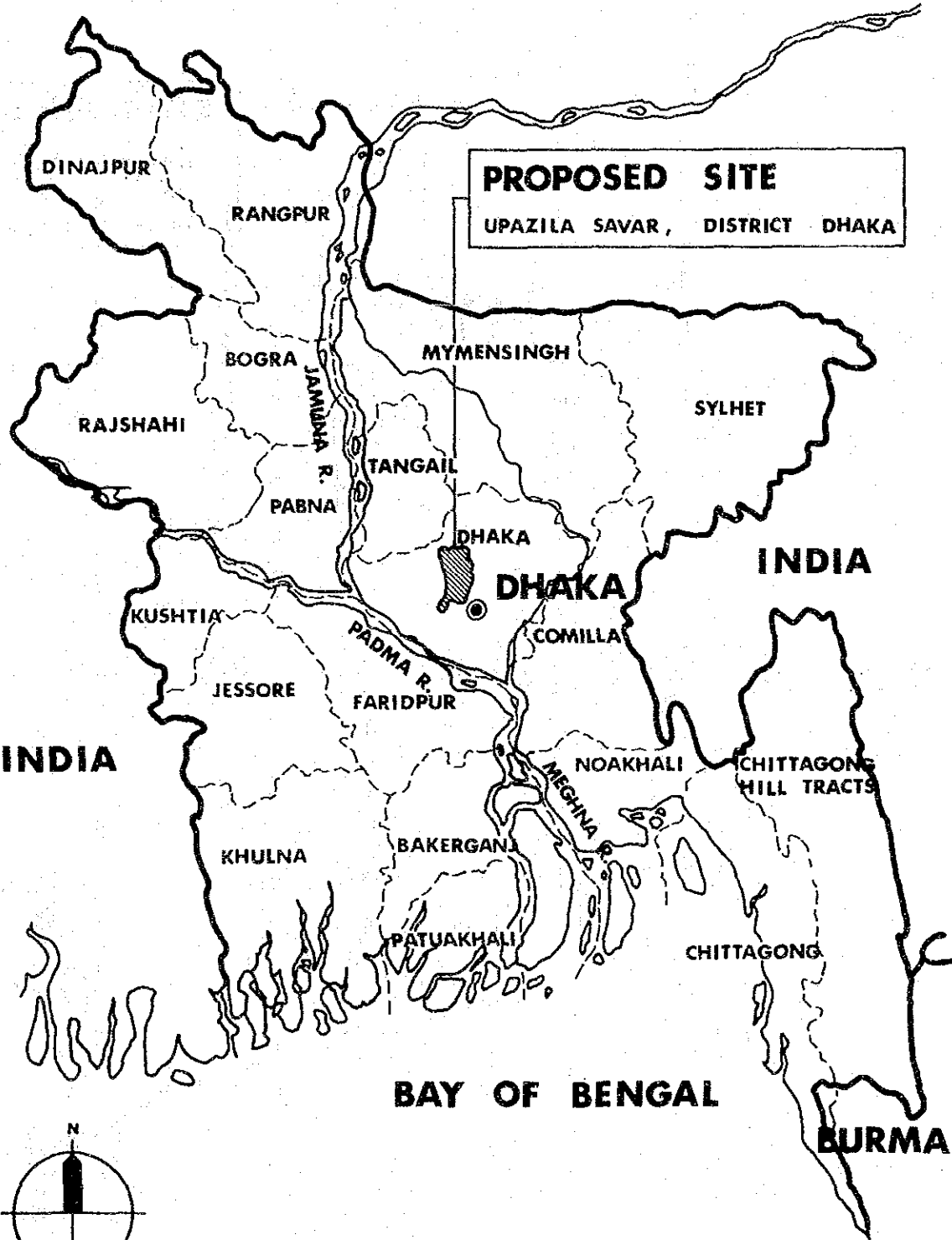
**THE PEOPLE'S REPUBLIC  
OF BANGLADESH**

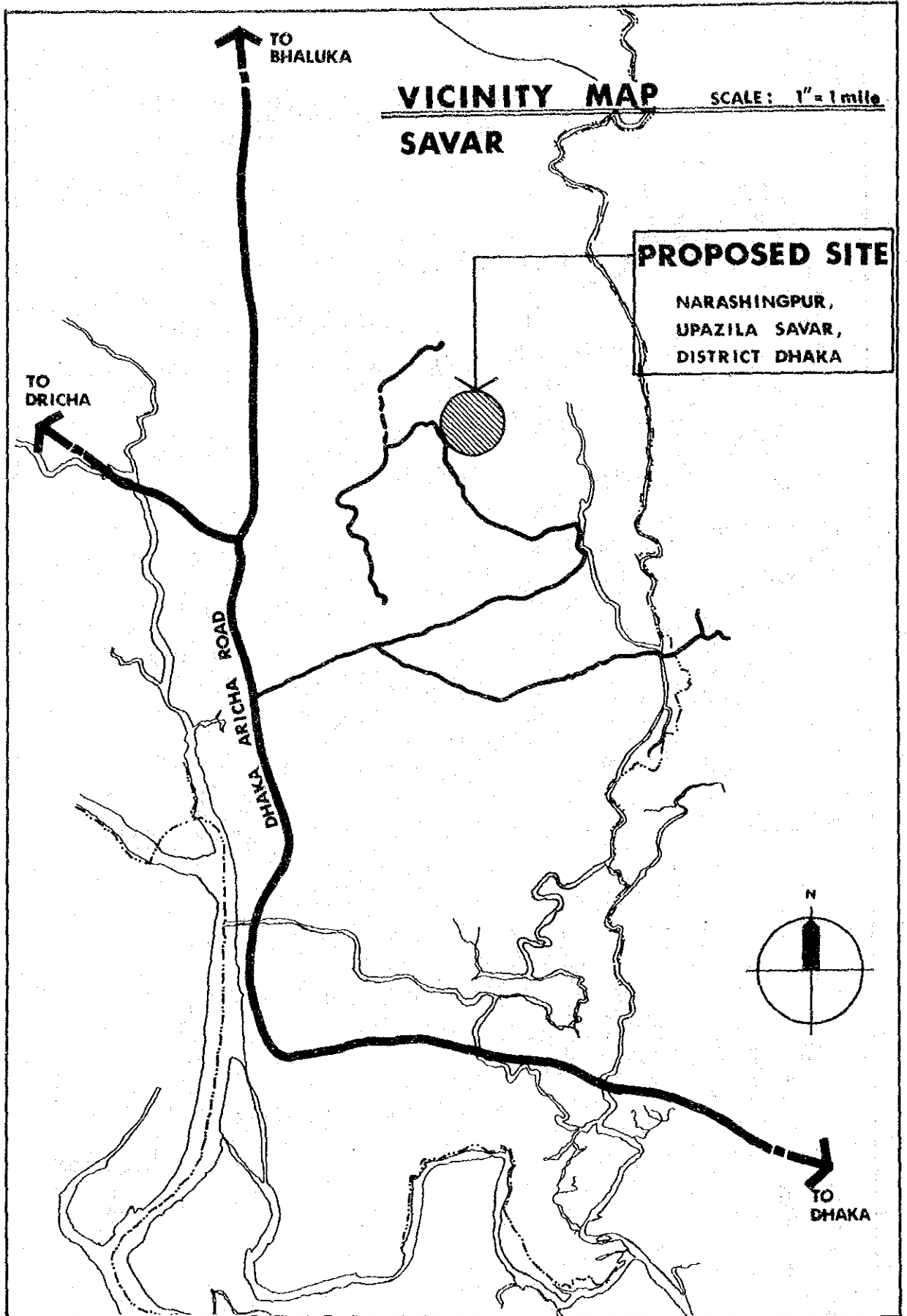




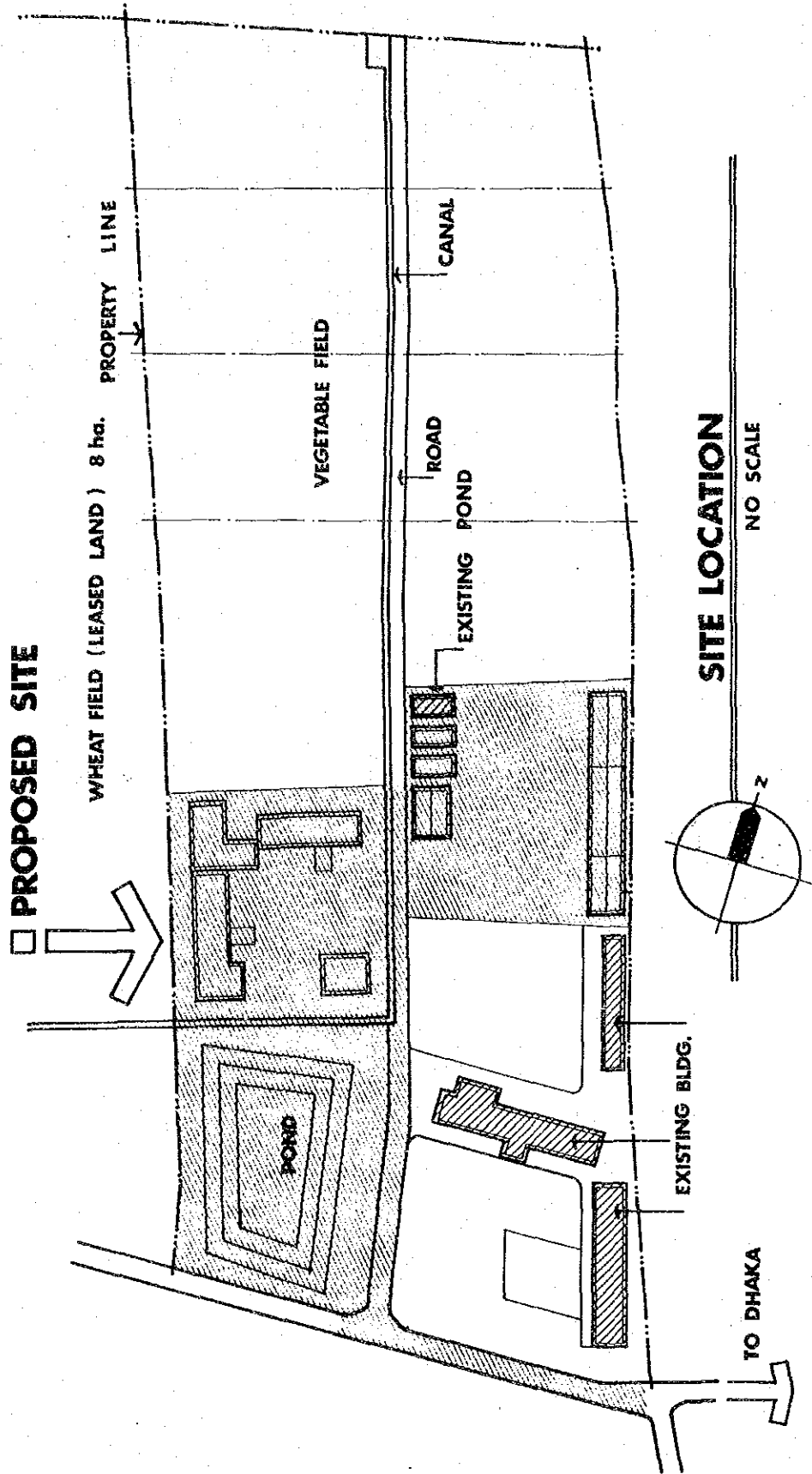
# MAP OF BANGLADESH

NO SCALE





# AGRICULTURE TRAINING CENTER FOR WOMEN





## 要 約

バングラデシュ人民共和国政府は、第2次5ヶ年計画(1980年~1985年)の中で、適切な経済成長を掲げ、国民の87%が生活する農村地域の振興を政策目標としている。また、農村地域の具体的な開発課題として、貧困の減少、生産の増大、雇用の促進、インフラストラクチャーの整備及び人材の育成を掲げている。中でも、国民の約半数を占める婦人の育成を重点課題とし、社会福祉婦人省を担当省とし、育成のためのプログラムの実施に当たらせている。

農村婦人の現状は、低識字率、低就学率、早婚および大家族の中での低い地位等の要因により、社会参加には無縁の存在となっており、生産活動からも離れている。農村婦人の育成のためのプログラムは、農村生活における婦人の家族レベルからの改善について、必要に迫られている。

社会福祉婦人省は、プログラム実施の過程でNGO(NON-GOVERNMENTAL ORGANIZATION)の活動を評価し、これまで農業省に協力してダッカ研修センターを運営し、農村リーダーを育成している(財)オイスカ産業開発協力団(以下「オイスカ」という)に対し本分野における、協力を要請した。これを受けて、オイスカは、社会福祉婦人省の農村婦人研修センター設立に関する計画立案に参加した。この計画に基づき、バングラデシュ人民共和国政府は、農村婦人研修センターの施設の建設及びその設立に必要な資機材の供与について、無償資金協力を日本国政府に要請してきた。

この要請に応じて、日本国政府は、上記無償資金協力に係る基本設計調査を行うことを決定し、国際協力事業団が、昭和60年3月21日より4月8日までバングラデシュ人民共和国に基本設計調査団を派遣し、現地調査を行った。

農村婦人研修センターは、農村婦人の役割の啓蒙、生活改善、保健衛生、環境の改善、そして生産性の高い農業の研修を目的とし、長期・短期の2コースの実施が計画されている。長期コースは、全国レベルでの農村婦人リーダーの養成、短期コースは、周辺地域の農村婦人に対する生活改善意識の改革と簡単な技術・知識の習得を目的としている。

長期コースは、1年間20名を対象とし、農業、畜産、家政、一般教養の研修、短期コースは1週間30名(10~15回/年)に、稲作、そ菜の管理、裁縫、編物からひとつのコースを選択させ、あわせて、簡単な一般教養の研修を実施する。

研修は、規則正しい集団合宿制による共同生活を通じて実施され、実用的な技術や知識の習得に加え、精神面の改善・高揚を図ろうとするものである。

本計画の敷地は、ダッカ市内より北西約4.2kmのサバル郡ナラシンプール村に位置し、現在オイスカがダッカ研修センターとして、管理、運営している敷地(約12ha)の一部であり、本センター用地として良好な土地が確保されている。

基本設計調査団は、本センター設立に必要な講義室、実習室、管理室、宿舍、畜舎等の施設建設並びに研修用機材の供与等が社会福祉婦人省の要請であることを確認し、帰国後、現地調査結果の検討・分析により、基本設計を実施した。その結果、本計画実施に必要なと判断される施設・資機材は、次の通りである。

- (1) 本館棟 1,250  $m^2$ 
  - ・管理室
  - ・講義室、実習室
  - ・宿泊室
  - ・共用室（食堂、ホール、トイレ、etc.）
- (2) 附属棟及び設備 490  $m^2$ 
  - ・機械整備所
  - ・畜舎
  - ・鶏舎
  - ・穀物倉庫
  - ・ハッチエリー
  - ・養魚用セメント他
- (3) 研修資機材
  - ・教材作成用資機材
  - ・研修用資機材
  - ・研修補助用機材

本計画の施設と機材整備に要する概算事業費は、約260,000千円（日本国側負担分のみ）と見積られ、工期は、交換公文締結後、詳細設計期間を含めて約14ヶ月と算定されている。

バングラデシュ人民共和国側負担分については、同国政府が、必要な措置を行うことが確認されており、また、オイスカは、カーテン・シートなどの内装品や、台所用品、研修用小機材や消耗品等をオイスカ支援者の協力を得て賄う予定であり、現地に於ても、ナラシンプール村の地域住民のボランティア活動により、温室・柵造り、池整備等を行うことを計画している。

本センターは、バングラデシュ人民共和国社会福祉婦人省が実施機関となるが、施設完成後は、同省とオイスカとの協約に基づき、オイスカにより運営される。本計画の運営面については、運営に携わる人事面では、所長・副所長・事務長・インストラクターなど、既に過半の要員が決定しており、予算面でも、適正な額がオイスカによって予算計上され、確保される予定である。また、オイスカは、すでに隣接地で農村男子を対象に同規模のダッカ研修センターを運営しており、実験的に4人の婦人が研修中であり、本計画も運営方式が既存センターと同様のことからも、運

営、管理上問題はないと判断される。

本計画の実施により、本研修センターで研修した農村婦人リーダーが地元の農村地域での組織活動、個人活動を通じ知識、技術の普及および農村婦人の社会活動への参加促進等の効果が期待できる。また、サバル郡周辺地域の農村婦人に対する短期研修による生活改善への意識改革は、インストラクターの巡回によるアフターケアによって、さらに確実に広がっていく事が期待される。

また、この研修効果をさらに増大させるためには、バングラデシュ人民共和国政府およびオイスカの相互協力を深め、バングラデシュ人民共和国政府としても、オイスカと協力し、研修員の募集業務に加え、研修終了後の活動や活動先についても支援し、研修の有効性とその波及効果の促進を図ることが望まれる。

本計画は、バングラデシュ人民共和国政府と日本の民間ボランティア組織の計画に、日本国政府が無償資金協力の要請に応じて、協力するというものであり、バングラデシュ人民共和国政府のみならず、本センターの敷地周辺の地域住民も設立に強い関心を持ち、本センターの地域活動に対し、多大の期待を寄せている。

本計画は、バングラデシュ人民共和国政府の計画実現に向けての熱意、オイスカの管理・運営能力、周辺地域住民の期待等に鑑み、無償資金協力の効果は、充分期待されるため、協力の早期実施が望まれるものである。





# 目 次

序文

農村婦人研修センター完成予想パース

バングラデシュ人民共和国全土図

サバール郡周辺図

敷地配置図

要約

第1章 緒論	1
第2章 計画の背景	2
2-1 農村開発の状況	2
2-2 婦人の育成	3
2-3 婦人育成に対するNGOの役割とオイスカの活動状況	5
2-4 要請の経緯と内容	7
第3章 計画の内容	9
3-1 計画の目的	9
3-2 要請内容の検討	9
3-3 計画の概要	9
第4章 基本設計	16
4-1 設計方針	16
4-2 設計条件の検討	16
4-3 基本計画	22
4-4 施工計画	49
4-5 維持管理費用	53
4-6 概算事業費	54
第5章 事業評価	55
第6章 結論と提言	57
附属資料	59



## 第 1 章 緒 論

バングラデシュ人民共和国政府は、婦人の育成を農村地域開発の重要な課題として位置づけている。婦人の育成について、同国政府は、日本の NGO (NON-GOVERNMENTAL ORGANIZATION) の 1 つであるオイスカと協力し、農村婦人研修センターの設立を計画し、施設建設、設備・機材の整備について、我が国に無償資金協力の要請を行ってきた。

上記要請に基づき、国際協力事業団は、1985年3月21日より同年4月8日までの19日間にわたり、外務省経済協力局政策課田中和夫氏を団長とする基本設計調査団を、バングラデシュ人民共和国に派遣した。同調査団は、同国において、以下の内容について確認、調査、協議を行った。(調査日程、調査団員リストは、附属資料 3.4.参照)

- (1) バングラデシュ人民共和国政府の要請内容の確認
- (2) オイスカのバングラデシュ人民共和国における活動内容、方針の確認
- (3) 建設予定地の踏査、インフラストラクチャー整備状況の調査
- (4) 既存ダッカ研修センターおよび類似施設の調査
- (5) 本計画実施上の運営組織、研修計画および運営計画について確認・協議
- (6) 農村婦人研修センターの施設内容および訓練資機材についての確認・協議
- (7) 日本国およびバングラデシュ人民共和国の分担業務範囲についての確認
- (8) 婦人問題、NGO活動状況等の調査
- (9) 関連法規調査
- (10) 建設事業調査

これらの調査および協議の結果、バングラデシュ人民共和国政府と基本設計調査団双方の合意事項を1985年4月2日、MINUTES OF DISCUSSIONSにて確認した。(附属資料 1.参照)

本報告書は、これらの調査結果に基づき国内分析を行った結果、作成したものである。

## 第2章 計画の背景

### 2-1 農村開発の状況

Bangladesh 人民共和国の総人口は、約 9,600 万人 (1985 年現在) であり、その内の 87% が農村で生活している。主要農産物として、ジャウト、米、砂糖キビなどがあり、これらの農産物で GNP の約 50% を占めている。しかし、低い生産性、過剰人口、失業、そしてこれらの悪循環として生じる低い所得水準が、農村経済の進展を阻んでいる。

今や土地所有が 200 m<sup>2</sup> 以下の農民層は、農村人口の約 51% を占め、失業者や臨時雇いは、労働力の 30% 以上に達している。

また、インフラストラクチャー (道路、排水、マーケット、倉庫、病院、学校等) の絶対数の不足も、もう一方で農村経済の発展を阻害している。

Bangladesh 人民共和国政府は、同国の社会経済の発展のために、農村地域の開発を重要政策の一つとして位置づけ、第2次5ヶ年計画では、農村地域開発の主要目的として、

- (1) 貧困の減少、生産物と収入の増加、適正な所得分配
- (2) 零細農民や農業労働者、職人、一般労働者の雇用の確保
- (3) 必要なインフラストラクチャーの整備、保全
- (4) 自主性の確立のための農民組織の育成、リーダー養成、技能・潜在能力の開発

などを掲げ、諸政策を展開している。

行政区分としては、1984年8月現在4のDIVISION、21のREGION、64のDISTRICT、495のUPAZILA/THANA、4,472のUNION COUNCIL、60,215のMOUZA、85,650のVILLAGEよりなっており、政治的には、現エルシャド政権が、この3月21日信任投票で信任を得ており、戒厳令下ではあるものの、行政業務は平穏に行われている。なお、社会福祉婦人省の新しい大臣には、女性の Mrs. BARRLSTER RABEYA BHUIYA が就任した。

国民の大部分が、イスラム教徒 (86.6%) であり、他にヒンズー教徒 (12.1%)、その他の宗教 (1.3%) となり、宗教的慣習も、婦人の社会参加等に影響を与えている。

Bangladesh 人民共和国の社会活動に対する婦人の参加は、特に農村地域においては、長い間行われなかった。その原因としては農村婦人の多忙さが挙げられる。農村地域における婦人の多くは、一日の大部分を、男性が行う農作業を除く他の一切の仕事、即ち家事、育児、畜産、養鶏、養魚や農作物の栽培、脱穀、湯通し、乾燥、貯蔵等の作業に費やしている。

この情況が文盲及び社会的訓練の欠如を生み、婦人の地位をさらに弱体化させている。また社会的には、娘、母、妻の立場として、男性に頼らざるを得ない状態を作り出している。婦人の識字率は、男性の 25.8% に対して、13.2% であり、小学校に通う女性は、全体の約 39%、中学校では 18% となり、上級学校では、男女間の差はさらに大きくなっている。

バングラデシュ人民共和国における農村地域の婦人は、7、8才で母の手伝いとして仕事を始め、就学してもすぐやめてしまうことが多い。結婚年齢は年々上昇しているが、それでも一般に早婚で、平均1.8才である。

このような状況にもかかわらず、近年婦人の生産活動への参加にも変革の兆しが見え始めている。その原因として、大家族主義の崩壊、土地なし農民層の拡大などによる家計の圧迫に対し、働き手としての婦人の必要性が挙げられている。

## 2-2 婦人の育成

バングラデシュ人民共和国第1次5ヶ年計画(1973-78年)の中で、婦人の育成(Women's Development)が課題として取り上げられたが、具体的な国家総合開発事項には位置づけられなかった。しかし、開発過程において、婦人問題の総合的な取組みが重要であるとの判断から、1976年に3つの婦人のための組織(WOMEN'S AFFAIRS CELL、NATIONAL ACADEMY FOR WOMEN、BANGLADESH WOMEN'S REHABILITATION & WELFARE FOUNDATION)を統合して、大統領府の下に、婦人局(WOMEN'S AFFAIRS DIVISION)が設置された。1978年、同局は、婦人の育成の担当省として社会福祉婦人省となった。

第1次5ヶ年計画の終り頃に、幾つかの生活改善のためのプログラムが実施されたが、婦人の参加協力を得て広く展開するまでには、至らなかった。しかしながら、今日では、開発過程における婦人の参加は、有意義であると認識され、よりダイナミックで、改善されたプログラムが求められている。

バングラデシュ人民共和国第2次5ヶ年計画は、下記の7項目を主要目標としている。

- (1) 適切な経済成長により、生活水準を改善し、生活必需品を確保する。
- (2) 食糧自給を短期間に達成する。
- (3) 有給雇用を拡大し、生活改善の足掛りをつくる。
- (4) 文盲追放と初等教育の普及達成により、人材開発の足掛りとする。
- (5) 人口増加率を抑制する。
- (6) 地方自治体への行政権の委譲とローカル施設の充足により、開発活動への住民参加を促進する。
- (7) 国内資産の運用努力と国際収支の改善により、外国援助依存度の低下を図る。

そして、この計画の主眼とするところは、収入と雇用の拡大による貧困の減少である。

これに基づき、婦人関連分野としては、下記の4つの目標が掲げられている。

- (1) 開発活動への女性の参加を容易にする社会環境の整備
- (2) 教育を受ける機会と専門訓練の増大
- (3) 現金収入のための施設数の増大

(4) 子供の健康と予防

この目標達成のため、社会福祉婦人省は、下記の方策を行っている。

- (1) 国家開発活動への婦人の参加促進を図るため人口、保健、教育、雇用部門を含む他部門との関係強化。
- (2) 識字、健康、家族計画、農業振興、自助努力等に対する民間レベルの研修・生産プログラムの作成。
- (3) 婦人の現金収入への道と失われつつある伝統技術改善のための新プログラムの立案。
- (4) 基本単位を家族とする小規模製造業のプログラムの立案。  
また、職業婦人のための宿泊施設や育児施設の立案。
- (5) 婦人に対する低金利貸付。また、職業婦人・婦人共同組合に対する貸付計画。
- (6) 開発活動における地方公共団体、農業協同委員会やNGOと婦人組織の協力関係の確立。
- (7) 婦人組織の活動の調整と経済的、法的地位改善と向上に関し、政府に対する調整機関として、NATIONAL COUNCIL の設置の検討。

かかる方策に基づき、社会福祉婦人省は、下記のプロジェクトを実施し、または、新規案件として登録している。

(1) 村レベルでの婦人用家内工業研修・生産センター

研修により婦人の自助努力の意識を高揚させ、雇用の機会を与えるため、290のユニオンに220の家内工業研修・生産センターを設立する。

センターでは、識字、縫製、農業、生活改善、藤細工やクラフトを研修する。

(2) 婦人のための家族計画、生活改善、職業訓練

農村地域の婦人に対し、経済上の自立を実現するため、職業訓練の場を与える。また、意識改善のための状況作りや家族計画の土壌作りを行う。

(3) 小学校婦人教師のための集中研修プログラム

小学校の婦人教師に対し、集中研修を行う。

(4) 職業婦人宿舍

婦人の社会参加を促進する上で障害となっている住宅問題の解消を図るため、ダッカに6階建の職業婦人用の宿舍を、他の主要都市にも小規模の職業婦人用宿舍を建設する。

(5) 貧困婦人層のためのNGOコミュニティ・サービス

貧困婦人層と子供に対する最低限のサービスを行うため、UNICEF の支援とNGO 6組織の協力を得て、

- ① 初歩的医療と栄養改善
- ② 家族計画
- ③ 実践教育
- ④ 生産活動の促進

を実施するものであり、計画の第一段階としては農村地域の812人の婦人とその子供達を対象としている。

(6) 保育サービスの充実

UNICEFの支援の下に子供の体質を改善し、様々な生活環境に耐え得るようにするため、保育・幼児教育・環境サービスを改善する。この目的実現のため、32のセンターで1～6才児2560人に対し、医療や保育を向上させる。

(7) 婦人の生活環境改善

生活環境を改善し、社会的、経済的、また文化的にも婦人の地位向上を図る。

(8) 婦人のための農村地域開発農業プロジェクト

養鶏研修と農業実習を通し、現金収入の道をつけると共に、団体生活を身につけさせる。

(9) オイスカ農村婦人研修センター

今年度新規案件として登録されており、日本国政府に無償資金協力が要請されている本計画である。

これらのプログラムは、各国及び国際機関の援助を得て運用されており、その内容は生活改善、幼児教育等、家庭生活の中での婦人の役割と自覚についての教育プログラムと、婦人の技能、研修並びに環境整備による雇用機会の拡大や生活改善のための訓練プログラムに分けられる。

バングラデシュ人民共和国の現状から、この教育・訓練プログラムの活用は、今後もさらに拡大していくものと思われる。

## 2-3 婦人育成に対するNGOの役割とオイスカの活動状況

### (1) NGOの役割と活動状況

NGOの活動は、社会の底辺の人々に目を向け、彼らが自ら進んで、相互扶助・自立の精神を培い、社会的、経済的に自らの立場を高めていくように、共に歩みつつ開発に係わっていくところにその特徴がある。

バングラデシュ人民共和国政府は、第2次5ヶ年計画においてNGOが特に婦人の育成プログラムの中で重要な役割を果たすことを期待している。

同国において活動しようとするNGOは、社会福祉婦人省へ登録する義務があり、現在、国内外のNGOが約630団体登録されており、この内、主要な団体だけでも約240団体が各地で活発な活動を行っている。

同国で活動しているNGOの主眼は、人材育成であり、その研修プログラムとしてa)社会参加、b)技術研修がある。a)では、住民意識の改革と共同作業などによる自助努力を目指し、b)では、農業、養魚、畜産、家内工業の技術指導や保健衛生、識字教育を行っている。

中でも、母子保健、公衆衛生、家族計画、養魚、養鶏、裁縫、編物などが識字教育と共に婦人に対して行われている。

現在、同国には、ADAB (ASSOCIATION OF DEVELOPMENT AGENCIES IN BANGLADESH) が主要なNGOにより組織され、NGO活動の情報提供とコーディネートを行っている。

日本からのNGOとしては、オイスカ、SHAPLA NEER等が人材派遣、資金援助等を通じて活発な活動を行っている。(附属資料8参照)

## (2) オイスカのバングラデシュ人民共和国における活動状況

オイスカは1961年、開発協力と国際交流の推進を目的として設立され、1963年より海外からの研修員受入を行い、1967年からは、中部日本、富山、四国、西日本、関西の各地に建設された各研修センターで組織的受入れ業務を行い、農業研修を主とした研修活動を実施している。バングラデシュ人民共和国からは、1974年以来、研修員を受入れており、1984年までの研修員受入数は173名に上っている。

1979年、日本で研修し、帰国したバングラデシュ研修員より、オイスカに対して下記のような強い要望があった。

- (a) 日本で学んだ技術と開発に取り組む姿勢・考え方をバングラデシュ人民共和国の青年達に伝えたい。その為の施設を造ってほしい。
- (b) 帰国研修員が全国に散り、その地で活動しているが、互いの情報交換や新しい技術・知識を得る場所がほしい。

かかる要望に応え、同財団は、ダッカ研修センターの設立に向けて1979年より、日本国内で資金を募るとともに、バングラデシュ人民共和国で準備に入り、1981年3月オイスカの名の下に、社会福祉婦人省にNGOとして登録申請を行い承認された。

それと前後して、ダッカ北西約42kmのナラシンプール村に土地を購入し、村民のボランティア活動を得て、1981年ダッカ研修センター(OISCA TRAINING CENTER BANGLADESH)を設立した。(附属資料7参照)

このダッカ研修センターでは、1年コース15名について稲作、野菜、畜産、養魚などの実務研修プログラムを実施し、さらに精神面でも集団合宿制による共同生活とリーダーの率先垂範を通し、自助努力精神の涵養と愛国精神の高揚を図り、農村青年リーダーを育成している。従って、このダッカ研修センターにおいても研修員は、個室ではなく、大部屋集団合宿(8~10名)を特徴としている。加えて近隣の村より強い要請があり、通学形式の研修員も受入れている。

1981年の開設以来、今日までにダッカ研修センターは、87名の研修員を送り出している。これら87名の内、20名が日本に研修にきており、10名が国外で、また国内では28名が、依頼心を持たず、自分達のことは自分達で協力しあって解決しようというジョニボール運動(自助努力運動)や農村地域リーダーとして、12名が自らの土地でデモンストラーション活動をし、残り17名が民間等で働いている。

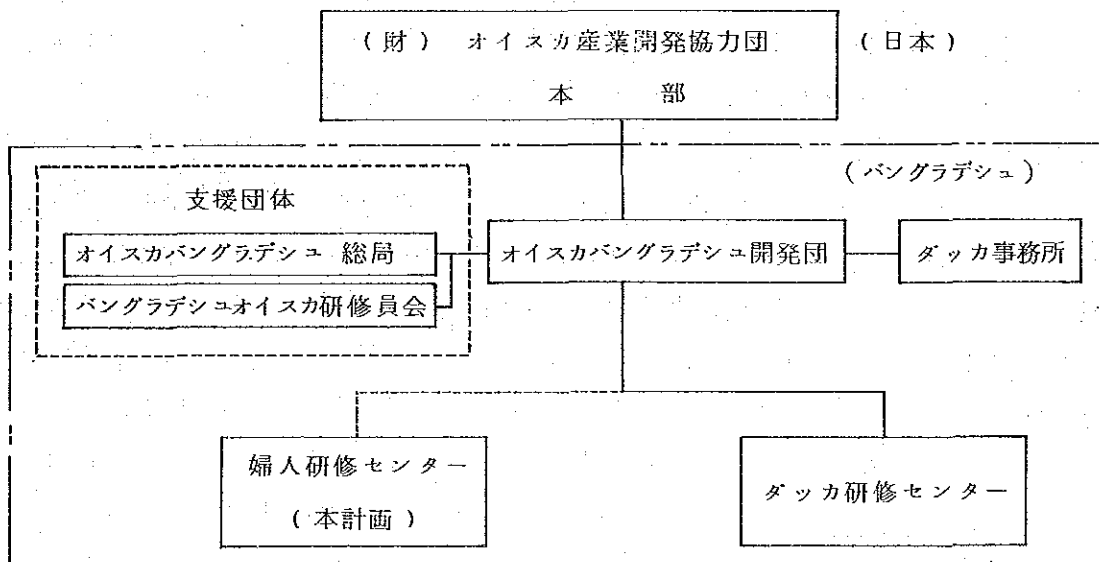


デモンストレーション活動をし、残り17名が民間等で働いている。

また、婦人研修の第一歩として、1984年より日本のオイスカ中部研修センターでは指導員として2名の婦人を研修中であり、バングラデシュ人民共和国のダッカ研修センターでも4名の婦人研修員を受入れ、研修中である。

現在、オイスカはサバル郡ナラシンプール村でダッカ研修センターを運営する一方、連絡の便を図ってほしいという農業省の要請により、ダッカにダッカ事務所を開き、関係省庁との折衝に当たらせている。また、ダッカ事務所は、地の利が良いことから、現在では、日本よりの帰国研修員による地域開発に対する情報交換の場ともなっている。このオイスカの活動を側面より支援している団体として、バングラデシュ人民共和国名士によるオイスカバングラデシュ総局と日本のオイスカ研修センターで研修した帰国研修員によるバングラデシュオイスカ研修員会がある。

オイスカ バングラデシュ 開発団組織図



## 2-4 要請の経緯と内容

### 2-4-1 要請の経緯

バングラデシュ人民共和国政府は、オイスカが農業省の協力のもとに運営し、男性農村リーダーの育成を行っているダッカ研修センターに関して、その成果を評価し、農村婦人の育成を目的とする婦人研修センターの設立を計画し、オイスカに協力を要請してきた。

要請内容を両者で検討した結果、オイスカが本センターの運営に関し、全面的に協力し、実施することとなったが、センター設立にあたり、その施設と資機材の整備については、日本国政府の無償資金協力を要請するものとし、ここにバングラデシュ人民共和国政府は1984

年、かかる要請を行った。

#### 2-4-2 要請の目的

バングラデシュ人民共和国政府は、婦人の社会的役割を重視し、婦人に対する教育や職業訓練を行ってきた。本要請は、これらの婦人育成政策に対する一環として、オイスカの協力を得て、全国の農村婦人を対象にそのリーダーの育成と、本センター周辺地域の婦人を対象に生活改善、向上のための意識改革を行い、自助努力の高揚と生活改善・向上を図ろうとするものである。

#### 2-4-3 要請の内容

社会福祉婦人省からの当初の要請内容は、全国より選抜された20名の婦人に対し、農村婦人リーダーとなるための1年間の研修を行う、という計画につき、施設、設備及び機材の整備を要請するものであった。この要請につき検討していた事前準備段階で、オイスカより地元サバール地区の住民からも地元民の研修受入れに対する強い要望があるため、日本国政府の無償資金協力が実施されるのであれば、長期20名に加え、サバール地区婦人を対象とした短期30名コースを設け、本計画に添えたいとの意向が表明された。

また、現地調査の際、同省より、同省が実施している他計画との釣合いや、婦人育成に関する同省の強い熱意から、当初要請時の長期20名を長期50名にしてほしい旨、基本設計調査団に対し要望が出されたが、長期研修員数20名、短期研修員数30名、短期研修は、初年度でも年10回行うという研修計画が、同省の最終要請とされ、この計画を実現するための施設、機材にかかる無償資金協力の要請が下記の通りであることが確認された。

##### (1) 本館棟

- ・管理室
- ・講義室、実習室
- ・宿泊室
- ・共用室（食堂、ホール、トイレ等）

##### (2) 附属棟及び設備

- ・機械整備所
- ・畜舎
- ・穀物倉庫
- ・池
- ・井戸

##### (3) 研修資機材

## 第3章 計画の内容

### 3-1 計画の目的

本婦人研修センターでは、社会・経済開発への婦人の参加と自助努力への足掛りを得るための基礎知識と技術の習得に加え、生活改善への意識の高揚を研修目的としている。

具体的達成目標としては、

- (1) 現金収入に直結する技術の習得
- (2) 生活改善
- (3) 保健衛生環境の改善
- (4) 生産性の高い農業の習得

の4項目である。

### 3-2 要請内容の検討

社会福祉婦人省からの研修員増員要請に対し、オイスカとしても、オイスカの研修方針、研修方式の枠内において可能な限り、研修員を受入れたいとの意向を持っており、加えて、本計画周辺地域住民より地域住民の婦人にも門戸を開いてほしいという強い要望がオイスカに寄せられていた。オイスカの方針、運営計画に基づき検討した結果、長期20名、短期30名、合計50名の研修員の受入れが妥当であると判断した。

長期20名については、当初の計画通り、農村婦人リーダーの育成を目指し、短期30名については、サイトのあるサバル郡地域住民の婦人層を対象に研修を行い生活改善、向上のための意識改革を主目的とする。

短期研修期間は、1週間と短いのが、研修内容を限定すると共に、4つのコースに分け、同じ人が任意のコースを履修後、別のコースを研修出来るなど配慮がなされる。また、初年度は、年に10回、以降開催回数を増す予定であり、短期研修履修者数は、初年度だけで単純に計算して300人になる。

また長期コースの研修、研修内容はオイスカの研修方針、研修方式より、短期コースの研修期間、研修内容はオイスカの研修方針から、研修回数については社会福祉婦人省の要望とオイスカの運営計画を検討の結果、決定した。

### 3-3 計画の概要

#### 3-3-1 実施機関・運営体制

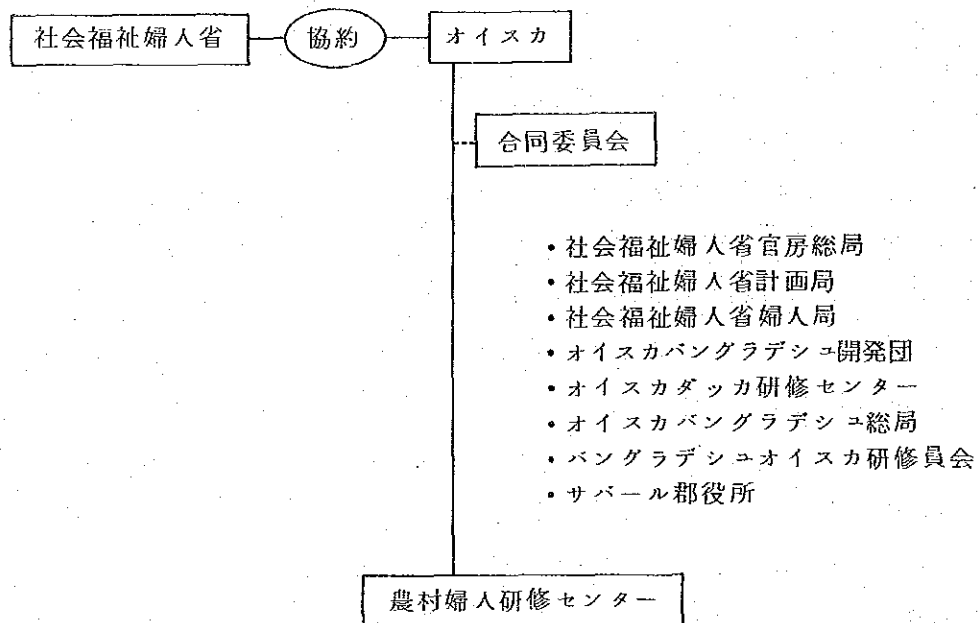
本計画の実施機関は、一義的には社会福祉婦人省であり、本センターは設立後社会福祉婦人省とオイスカとの間に交される協約に基づき、オイスカによって運営される。

また、社会福祉婦人省官房総局、社会福祉婦人省計画局、社会福祉婦人省婦人局のそれぞれ

れの代表者、オイスカ Bangladesh 開発団の所長、ダッカ研修センターの代表者、オイスカ Bangladesh 総局、Bangladesh オイスカ研修員会のそれぞれの代表者及びサバル郡役所の代表者によって合同委員会が構成される計画である。この合同委員会は、本センターの運営に対し、適切なアドバイスを与え、研修員の募集に協力し、運営上不都合が生じた場合には、調整する機能を持つ予定である。

協約は E/N 締結以前に社会福祉婦人省とオイスカの間で交される予定であり、その中に合同委員会の運営方式も記載される予定である。

実施機関組織図



### 3-3-2 研修計画

#### 1) 研修コース

研修コースとして、長期1ケ年(7月1日～翌年6月30日)と短期1週間(年間10～15回開催)の2コースとする。

#### 2) コースの目的

- 長期コースは、研修員数20名で農村地域の婦人リーダーの養成を目的とする。
- 短期コースは、研修員数30名で、生活改善、向上のための意識の改革と簡単な技術・知識の習得を目的とする。

#### 3) 資格

- 長期コースは、18～25才の未婚婦人、離婚婦人及び未亡人で10ケ年教育卒業以上。

- 短期コースは、サバル地区周辺農村婦人を対象とする。

#### 4) カリキュラム

カリキュラムは、本計画実施機関であるオイスカの研修カリキュラムによる。

- 長期コース：農業、畜産、養魚、家政（裁縫、編物、料理、手芸、保健衛生）、一般教養（歴史、地域開発、算数、家族計画等）
- 短期コース：短期コースは、下記のとおり、4つの選択課目コースとし、そのコース毎に上述の一般教養を合わせ学ばせる。
  - a) 稲作と管理
  - b) そ菜と管理
  - c) 裁縫
  - d) 編物

また、共同生活を通し、相互扶助、率先垂範等精神面の覚醒も図る。

#### 5) 研修方法

長期、短期研修員共、集団合宿制で研修される。従って、長期研修員は、1年間、短期研修員は、1週間センター泊込みとする。

#### 6) 募集方法

- 長期：全国規模で募集する。
  - a) 社会福祉婦人省、合同委員会及びオイスカが公募する。
  - b) 地方行政機関及び民間婦人団体に協力を要請する。
  - c) オイスカ Bangladesh 総局、Bangladesh オイスカ研修員会による推薦
  - d)パンフレット配布（ベンガル語）
  - e) スライド、映写会等、視聴覚を利用した巡回により研修内容の紹介を兼ねた宣伝活動
- 短期：サバル郡レベルで募集する。
  - a) 周辺地域への宣伝
  - b) サバル郡役所への協力要請
  - c) 周辺地域住民の代表からの推薦

### 3-3-3 計画地の概況

#### (I) 建設予定地の概況

- 1) 建設予定地は、ダッカ市内より北西に約 4.2 km のサバル郡ナラシンプール村の中に位置している。現在オイスカが管理・運営しているダッカ研修センター用地は、農地を含め約 12 ka（内、所有地 4 ka、借地 8 ka）である。

本プロジェクトの婦人研修センター用地としては、上記所有地のうち約1haが確保されている。

本プロジェクトの予定地に隣接して、レンガ造1階建のダッカ研修センターが建設されている。このダッカ研修センターの研修・宿泊棟は、東西に位置し、その東側に南北に沿って、倉庫・穀物棟、畜舎棟があるが、現研修・宿泊棟が手狭のため、穀物棟が、女性宿泊室・研修室・男性宿泊室等に使われている。

現在、この研修センターでは、男性研修員15名に加え、女性研修員4名が研修中である。主として男性は稲作、女性はそ菜を研修しているが、研修活動そのものは、男女同一条件である。

## 2) 土質

資料によれば、敷地のあるサバル地区は、赤褐色 (RED-BROWN TERRACE SOIL) の段丘層よりなっている。この土質は、適度の排水性と強い酸性を示している。また、表層 (0～1.0 m間) は、よく締った粘土層、下層は、MOTTLED CLAY となっている。

## 3) 地下水位

サバル地区は、海拔約7.62 mにある。この地区の井戸測定による最高地下水位は2月で7.11 m、最低は、9月で2.06 mが記録されている。

## (2) インフラストラクチャーの整備状況

### 1) 道路概況

ダッカ市内より車でDHAKA ARICHA ROAD (アスファルト舗装) を北西に約3.2 km程下り、右折してレンガ敷道路を約9.3 km程走り、更に左折して未舗装道路を約0.5 km弱行くと、右手に本プロジェクト予定地のあるOISCA TRAINING CENTER BANGLADESHがある。レンガ敷道路には、途中未舗装道路が約200 mあるが、現在レンガ敷工事中である。

また、レンガ敷道路より、オイスカ研修センターまでの未舗装道路は、オイスカ研修センター及び近隣農民の所有地であり、私道となっているが、本計画遂行上問題はない。DHAKA ARICHA ROAD には、バスが走っているが、本件敷地よりそこに至るまでの約10 kmの間は交通機関としては、力車だけである。

### 2) 燃料

バングラデシュ人民共和国では、天然ガスが産出され、ダッカ市内に引込まれている。しかし、当敷地周辺には、ガス管は敷設されていない。プロパンガスもダッカ市内で購入可能とのことであるが、プロパンガス用のボンベが不足しており、オイスカとしても以前より申し込んでいるが調達出来ていないとのことである。現在、研修センターでは、煮炊用に薪やケロシンを使用しているが、安くはない。

また、冬季には10℃近くに下ることもあり、この時期の風呂或いはシャワーにはダッカ研修センターと同じように温水設備を考慮する必要がある。

### 3) 電気、電話、給排水

本計画への引込み工事としては、電気のみが考えられるが、現在11,000Vの高圧電気がダッカ研修センターのために配線されており、これを利用することに支障はない。しかし、送電のコントロール状態が悪く、屢々停電や電圧変動を起こしている。

電話については、引込みの予定がなく、給水については、新設井戸により地下100m前後で十分な水量を確保出来る。

汚水排水については、肥料としての利用を計画している。

## 3-3-4 管理計画

### (1) 運営管理

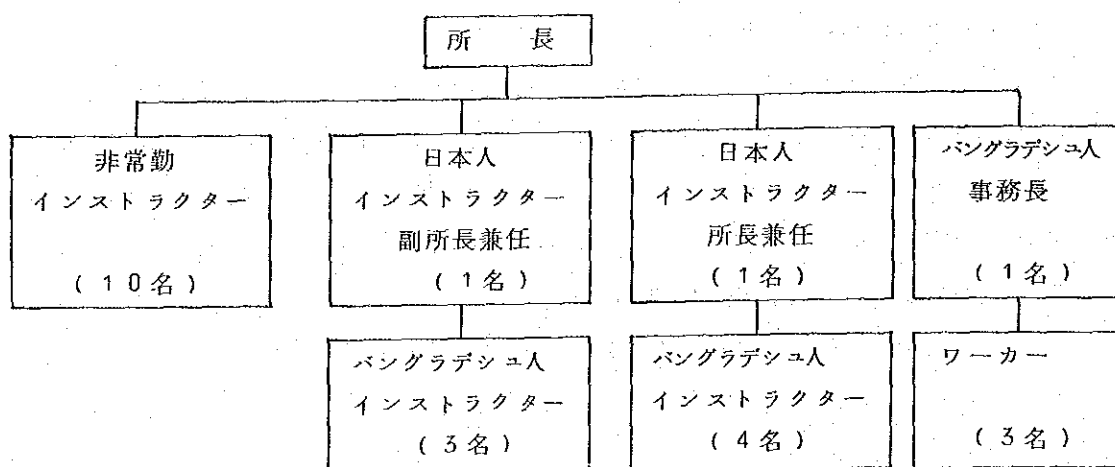
本センターの運営管理は、一義的には、社会福祉婦人省が責任を持つものであるが、実際は、同省とオイスカの間でとりかわされる協約に記載される予定であり、オイスカは、この協約に基づいて本センターの運営管理を行うこととなる。

オイスカは隣地ですでに、ダッカ研修センターを運営しており、この中で現在4名の婦人に対する研修も実施している。本センターは、このダッカ研修センターの経験を踏まえ運営される。また、オイスカでは、本センターの運営に参加するインストラクターの人選にも入っており、既に過半の人々が決定している。

### (2) 人的配置

本センターの要員は、9名のインストラクター（内、日本人所長1名、日本人副所長1名）、バン格拉デシュ人事務長1名と、日本人・バン格拉デシュ人あわせて10名の非常勤インストラクター、3名のワーカーにより運営、管理が行われる。常勤のインストラクターは、日本人を含む5名が農業関係を担当し、残り4名が生活改善関係を担当する。非常勤インストラクターは、ボランティアで参加し、専門分野の研修活動を行う。

本センターの組織図は、下図となる。



### (3) 研修予算

オイスカは、本センター運営、管理費として年9,745,400千円を計上している。収入の殆どは、日本にあるオイスカからの送金であり、残りは、農業研修活動による農産物収入で、同一敷地内にあるダッカ研修センターと分割して計上される。

この農産物収入は、農産物を市場に卸した場合の市場評価額であり、実際は、この多くが研修員に現物支給される。

#### 農村婦人研修センター初年度予算

(単位 円)

収 入		支 出	
(財)オイスカよりの送金	7,922,400	センター運営費	6,473,000
農 産 物	1,823,000	研修・管理費	3,272,400
合 計	9,745,400	合 計	9,745,400

### 3-3-5 施設・研修資機材概要

#### (1) 前提条件

##### 1) 配置人員

- ・常勤職員10名、その内訳は、所長1名(日本人)、副所長1名(日本人)、事務長1名(バングラデシュ人)、インストラクター9名(所長、副所長各1名を含む)
- ・ワーカー3名(バングラデシュ人)
- ・非常勤インストラクター10名(内、一時期に会する最大インストラクター数は6名)
- ・研修員長期1年コース20名



- ・研修員短期1週間コース(10~15回/年)30名

以上の人員が集団合宿制という形態をとりながら研修を行う。

## 2) 施設のグレード

研修施設で研修内容も実用に即したものであるため、それに相応しい施設グレードとする。また、隣接してダッカ研修センターがあるので、そのグレードも参考にする。

## (2) 施設の概要

現地での確認事項及び前提条件に即し、国内分析した結果、必要となる施設は以下の通りである。

### 1) 本館棟

- a) 管理部門：所長室、インストラクター室、印刷室および会議室から成り、会議室は多目的に利用される。
- b) 研修部門：講義室1、実習室2の3室から成るが、長期(20人)、短期(30人)の互換性のため、各室30人用とする。
- c) 宿泊部門：本研修センターは、共同生活により、規律ある生活を含めた研修を行うので、宿舎も研修活動の場として、欠く事の出来ない施設である。宿泊部門は、研修員ブロックと教員ブロックから成り、警備上2階部分に設ける。

### 2) 附属建物及び施設

畜舎、鶏舎、機械整備所、穀物倉庫、池、井戸からなり、背後に約8haの農場があり、これらの附属建物及び施設と一体となって実地研修の場となる。

## (3) 研修資機材

研修資機材は、下記の3つの大分類によって構成される。

- 1) 教材作成用資機材：タイプライター、印刷機
- 2) 研修用資機材：簡易医療器具、スライド、ミシン、編機、トラクター、耕運機、カッター、精米機、脱穀機、散布機、魚網、配合機、一輪車、リヤカー
- 3) 研修補助用資機材：冷蔵庫、ポータブルポンプ、孵卵器、水槽、電気溶接機、3tトラック、ピックアップ、オートバイ

特に、研修補助用資機材は、研修のための人や物の運搬等、二義的な資機材であるが、研修の効率および新知識の習得上重要なものである。

## 第4章 基本設計

### 4-1 設計方針

本プロジェクトの施設設計について、バングラデシュ人民共和国の実情、気候、サイト状況等を踏まえ、以下の基本方針に基づいて設計する。尚、本施設は、NGOであるオイスカの研修センター及び宿舎として使用されることから、地域住民に受け入れられやすく、違和感のない施設となるよう配慮する。

- 1) 計画地の自然環境、周辺環境、景観等を配慮し、既存ダッカ研修センターとの区分及び相関を充分配慮する。
- 2) 施設規模及び附属設備は、オイスカの運用人員及び運営コストで充分賄えるものとする。
- 3) 施設は、維持管理の容易なものとし、既存ダッカ研修センターを参考とし、メンテナンスコスト及びランニングコストの低減を図る。
- 4) インストラクター、研修員が共同生活を通じて、研修活動を行う上で、安全で、十分な施設とする。
- 5) インストラクターは、最大で16名、長期研修員20名、短期研修員30名という人数規模及び研修内容を踏まえ、機能的に施設設計を行う。
- 6) 施設設計に際しては、宗教上の慣習に配慮する。
- 7) 動線の単純化を図り、インストラクター、研修員の動線の錯綜を避け、円滑な移動を確保する。
- 8) 建設機材、工法については、現地方法を採用する。

### 4-2 設計条件の検討

以下の項目について、充分検討を進め、設計を行うこととする。

#### 4-2-1 自然及び地理的条件

- 1) 気温は、冬季に10℃前後、夏季には、35℃前後になり、6～10月のモンスーン期には、集中的な豪雨があることから、通風、換気及び建物配置、防水等を考慮する。
- 2) 地質（ラテライト）に適合した設計を行う。

#### 4-2-2 設計基準

設計に当たっては、以下の法規・規準を参考とし、使用する。

1) バングラデシュ人民共和国関係法規・基準

- a) BUILDING ACT
- b) ARCHITECTS RULE
- c) BDS (BANGLADESH STANDARD)

2) その他

- a) JIS (Japanese Industrial Standard)
- b) HASS (Heating, Air-Conditioning and Sanitary Standard)
- c) JSWAS (Japan Sewage Works Association Standard)
- d) JEM (The Standard of Japan Electrical Manufacturers Association)
- e) JEAC (Japan Electric Association Code)
- f) JASS (Japan Architectural Standard Specification)

4-2-3 確認申請

バングラデシュ人民共和国では、4階建以下の建築物については、建築主名で必要書類を関係機関に提出することになっており、資格のある建築士による申請は必要としない。

4-2-4 施設内容・規模

本プロジェクトは、共同生活による実務研修を目的としている。

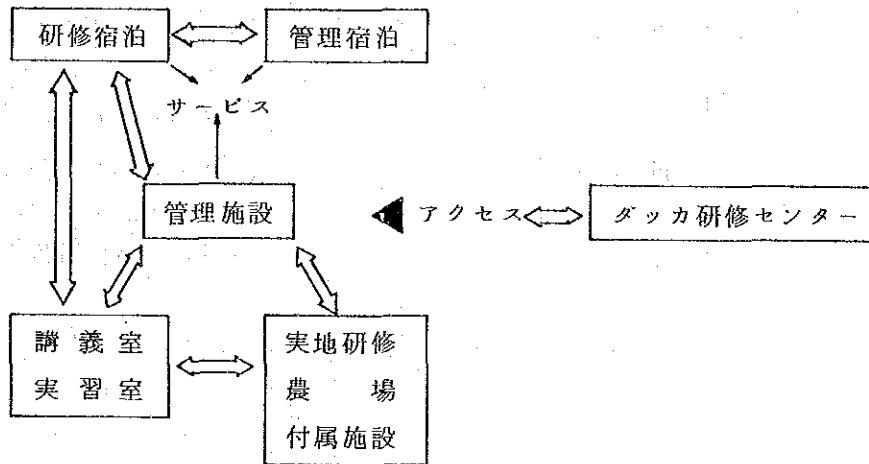
この目的・内容を踏まえ、下記要件を満たすように計画する。

施設項目	施設内容	室名
1. 本館棟 a 管理部門	<p>管理・研修・宿泊施設からなる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指揮・管理・運営を行うため、要員計画に合わせて所長の執務室と、副所長事務長を含むインストラクター（常勤・非常勤）室</li> <li>・多目的に利用する会議室</li> <li>・その他の共用スペース</li> </ul> <p>機材の盗難防止のための機材収納室等</p>	<p>所長室</p> <p>インストラクター室</p> <p>会議室</p> <p>収納室</p> <p>トイレ・シャワー室（男性用）</p> <p>廊下、階段、ホール</p>

<p>b 研修部門</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村婦人に必要な一般知識及び家政等に関する座学・技術を研修する為の施設、長・短期研修の互換性及び掲示、展示のスペースを考慮し、それに対応するために、30人収容可能な講義室（1室）、実習室（2室）を設ける。実習室は、机の配置等により講義室にもなるようにし、効率を高める。</li> <li>・その他の共用スペース</li> </ul>	<p>講義室（1室） 実習室（2室）</p> <p>トイレ・シャワー室 廊下、ホール</p>
<p>c 宿泊部門</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同生活による研修を目的とする為、長期・短期コース全て寄宿生活とする</li> <li>・対象研修員が婦人である事を配慮する</li> <li>・宿泊室は、インストラクター専用と研修員専用とに分け、且つ、保安管理が容易となるよう配置する。</li> <li>・短期研修員宿泊室は、長期のそれに対し、収容人員1人当り面積を若干低減する。</li> <li>・付帯施設として、食堂、厨房、洗濯場等を備えて寄宿生活に支障のないものとする。</li> <li>・その他の共用スペース</li> </ul>	<p>所長室1室（1人/室） インストラクター室6室（2人/室） 長期研修員用3室（7人/室） 短期研修員用3室（10人/室）</p> <p>食堂、厨房、洗濯場</p> <p>階段、廊下、倉庫</p>
<p>2. 付属建物</p> <p>a 畜舎</p> <p>b 鶏舎</p> <p>c 穀物倉庫</p> <p>d 機械整備所</p> <p>e ハッチェリー</p> <p>f セメント池</p>	<p>実地研修を行うのに必要な施設とする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修室以外行う農業等に関する実務的知識・技術を教育するための施設とする。</li> </ul> <p>牛3頭、ヤギ20頭の飼育の実地研修を行う。</p> <p>300羽（成鳥100羽）の飼育の実地研修を行う。</p> <p>穀物の貯蔵を主とする。</p> <p>農機、車輛の整備スペースとし、一部メンテナンスも行う。</p> <p>種苗を生産する。</p> <p>淡水魚養殖の研修を行う。</p>	

#### 4-2-5 機能関連

前記の施設の機能関連について管理運営、教育内容等を考慮した上で検討すると次のようになる。



管理施設は、入口近くと施設全体を管理出来る位置に配置し、また、ダッカ研修センターとの連絡上からもアプローチ道路近くに配置する。研修施設は、使用上講義室と実習室いずれにも利用出来、管理施設及び附属研修施設との関連を考慮した位置に設ける。宿泊施設は、インストラクターと研修員の為の宿泊とし、安全上から2階に配置する。特に、研修員宿泊施設は、保安上管理しやすいものとする。附属建物は、それぞれの機能と敷地の利用状況に合わせて配置され、畜舎、鶏舎、倉庫等は、既存類似施設と並べて設ける。ハッチェリー、セメントポンドは既存セメント池に隣接して設ける。

#### 4-2-6 施設概要

##### 規模算定の基礎値

オイスカの行い研修施設における必要諸室の規模に関して、オイスカと十分に打ち合せた結果を踏まえ、又、既存ダッカ研修センター及び他オイスカの諸事例を参考に、実情に合わせて各室の面積規準を設定した。

##### 1) 各室の概要

###### a) 管理施設

管理諸室は、既存ダッカ研修センターに準じ、インストラクター室には、資料作成の為の印刷機を置くスペースをとる。会議室は、講師全員(16名)の打ち合わせができるスペースをとり、多目的に利用する。

室名	規模 ( $m^2$ /人)	必要面積 ( $m^2$ )	設計値 ( $m^2$ )	備考
1. 所長室	18 $m^2$ /人×1人	18	18	賓客や他のインストラクターとの対応上個室として必要である。
2. インストラクター室	5×15	75	85	周囲に棚、黒板等のスペースを考慮する。 常勤9名、非常勤6名
3. 会議室	1.5×16	24	22	常勤10名、非常勤6名が入れるものとする。但し、利用率を高めるため、図書閲覧室等の兼用を考える。
4. 共用スペース			75	収納室、トイレ、シャワー室、廊下、ホール、階段
合計面積			200	

b) 研修施設

室名	規模 ( $m^2$ /人)	必要面積 ( $m^2$ )	設計値 ( $m^2$ )	備考
1. 講義室	2.1×30	63	63	講義室と研修室の収容人員、ディメンションを同じにし、互換性をもたせる。
2. 実習室	2.1×30×2室	126	126	
3. 共用スペース			171	倉庫、廊下、ホール
合計面積			360	

(注) 教室、研修室の面積算定については、既存オイスカダッカ研修センターの事例を参考とし、収容人員1室30名・3室であるが、実技研修を行う研修室の機材レイアウトを基本に、教室は、机(1机2名)のレイアウトに加え、掲示、展示スペースとしての利用を考え、3室同規模とした。

c) 宿泊施設

室名	規模 ( $m^2$ /人)	必要面積 ( $m^2$ )	設計値 ( $m^2$ )	備考
1. 宿泊室(研修員)	4.5×7×3室 3×10×3室	94.5 90	94 94	(長期研修員用) 7人部屋×3室=21人 (短期研修員用) 10人部屋×3室=30人 長期・短期の各室のディメンションを同じにし、互換性をもたせる
2. 宿泊室 (インストラクター)	10×2×7室	140		2人部屋×6室=12 1人部屋×1室=1
3. 食堂	1.5×46	69	63	48名収容可能であり、研修員については、2シフトとする。大会議室等としての兼用も考える。
4. 厨房	69/2	34.5	31	食堂×0.5
5. 調理人室		25	24	3名のワーカー用とする。
6. 共用スペース			230	トイレ、シャワー室、廊下、倉庫等
合計面積			690	

研修員用宿泊室は、短期研修員用と長期研修員用とに分け、長期研修員用は、ややゆとりを持たせる。食堂は、短期・長期研修員の利用を2交替制(MAX30人)とし、これにインストラクターを加え、約46席を確保する。

d) 附属施設

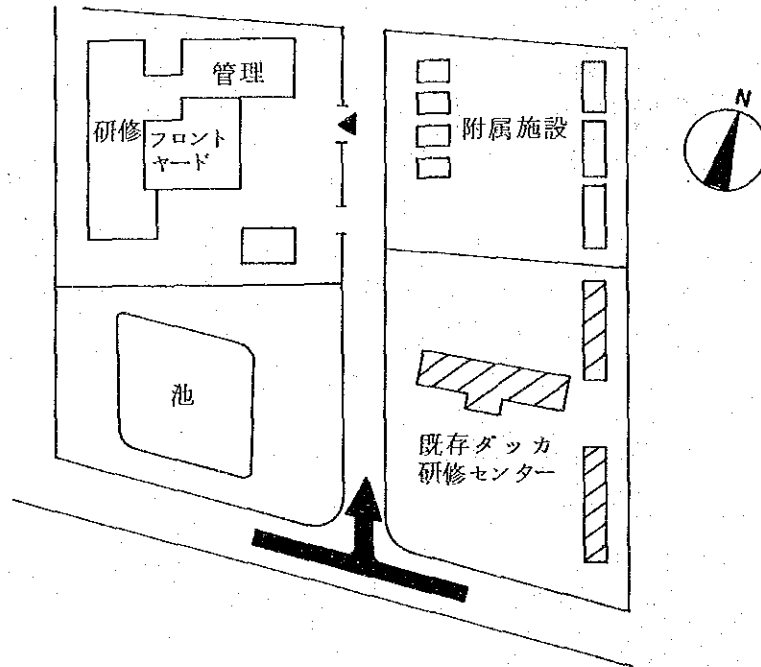
室名	施設内容	必要面積 ( $m^2$ )	設計値 ( $m^2$ )	備考
1. 畜舎	牛3頭ヤギ20頭収容	100	100	用具類収納の為の倉庫を設ける
2. 鶏舎	ニワトリ300羽収容 35 $m^2$ /100羽×3	125	126	用具収納の為の倉庫及び孵卵室を設ける
3. 穀物倉庫		84	84	ネズミ等の対策と、W=1200程度の棚類を位置する
4. 機械整備所	用具、工具類の収納、 10 $m^2$ 程度の整備スペース	54	54	用具収納の為の倉庫を設ける
5. ハッチェリー	種苗生産、養魚	70	72	用具収納の為の倉庫を設ける
合計面積			436	

各収容内容に加えて必要な倉庫を、レイアウト及び既存ダッカ研修センターの使用状況に合わせて設計する。

### 4-3 基本計画

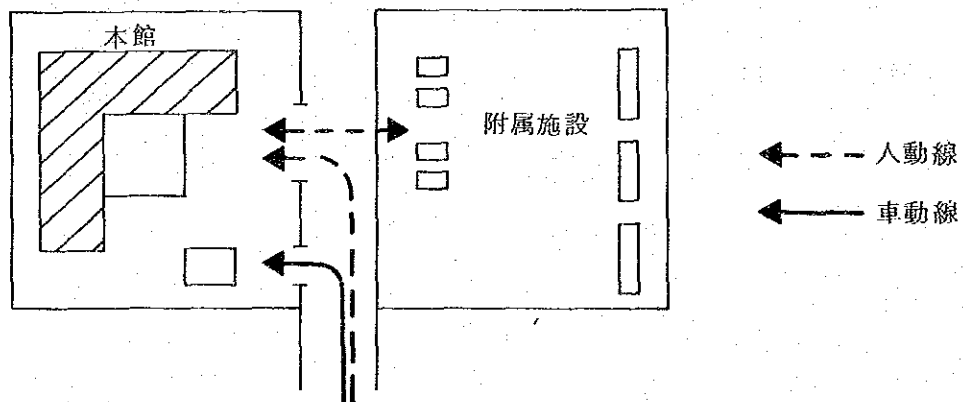
#### 4-3-1 敷地・配置計画

敷地は、ダッカ市北西約4.2kmのナラシンプール村に位置する。敷地のレイアウトについてはダッカ研修センターと区分し、全体の機能及び既存の使用状況に合わせて配置計画を設定する。



#### 1) 動線計画

管理室棟は、外部、ダッカ研修センターとの連絡及び他施設の管理等の中心施設といった性格上、アプローチに最も近い位置に配置する。講義室、実習室に関しては、諸附属施設からの騒音等を配慮し、フロントヤードをはさみ、西北側に配置した。





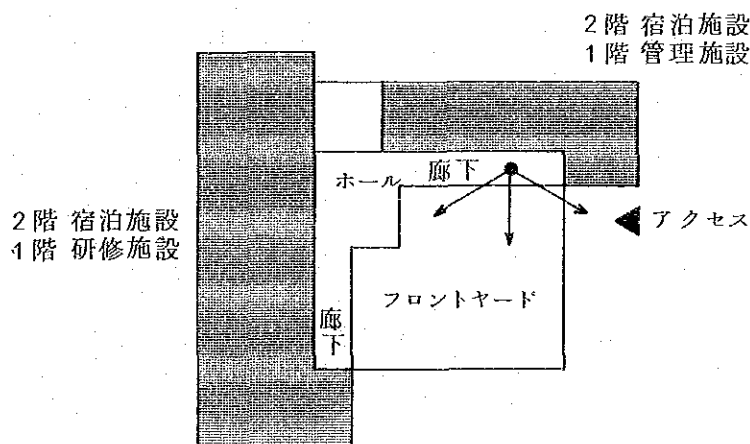
#### 4-3-2 建築計画

設計・デザインにおけるコンセプトは、以下のとおりである。

- a) 本研修センターで行われるカリキュラム内容に充分に適合する研修施設の設計を行う。
- b) 研修センター全体をまとめる中心的空間としてフロントヤードを設ける。
- c) フロントヤードは、脱穀作業のドライエリアとして使用する他、地域住民を集め広報活動等地域のコミュニティの場としても活用される。
- d) 既存ダッカ研修センターとのバランスを考慮し、機能的に計画する。
- e) 仕上材料については、バングラデシュ人民共和国一般に使用されているものを原則とし、補修・管理の容易なものとする。
- f) 長い雨期、夏季・冬季の温度差など気候条件を考慮し、通風・換気に充分に気を配った計画とする。

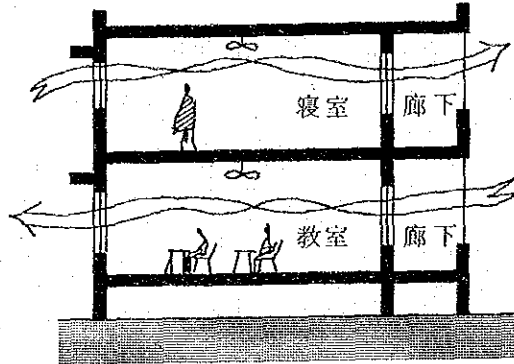
##### (1) 平面計画

計画による建物構成の特色は、ホールを中心としてL字型に管理施設と研修施設を分けて配置し、外廊下をはさんでフロントヤードを設けていることである。L字型の建物を配置することにより、各施設からの移動が非常に容易になると同時に人の動きが把握できる為、管理上も有利である。また、施設とフロントヤード間に開放廊下を設けることにより、雨期における通風、換気にも効果的である。管理施設及び研修施設の宿泊室は、動線を短くコンパクト化し、安全・保安の上からもそれぞれの施設の上階に設ける。



(2) 断面計画

通風、換気を考慮し、階高を 3.5 m と高くとり、換気が室内にこもらないように、ゆとりを持たせる必要がある。又、1階床高も高くして、排水性、湿気防止を図り、雨期に対処する。



(3) 仕上げ

主な仕上材は、次の通りである。

- 外部仕上 屋根 鉄筋コンクリート
- 壁 レンガ
- 建具 スチール製

• 内部仕上

室名	床	壁	天井
講義室、実習室	テラゾータイル	レンガ積モルタルペンキ	モルタルペンキ
所長室、	テラゾータイル	レンガ積モルタルペンキ	モルタルペンキ
インストラクター室、会議室	テラゾータイル	レンガ積モルタルペンキ	モルタルペンキ
宿泊室、食堂	テラゾータイル	レンガ積モルタルペンキ	モルタルペンキ
厨房、トイレ、シャワー	テラゾータイル	レンガ積モルタルペンキ	モルタルペンキ

(4) 構造計画

1) 基本方針

- a) 建物の規模・形態・使用目的に適した構造・工法とする。
- b) 工法は、バングラデシュ人民共和国において一般に普及している建設工法とし、日

本の管理技術で監理する。

c) 資材は、原則としてバングラデシュ人民共和国内で調達可能な資材とし、技術レベルの維持を図ると共に、建設費の抑制に務める。

d) 建物は耐久性のあるものとする。

## 2) 設計荷重

設計荷重については、JIS、BSIの基準を採用する。また、下記事項に変更のある場合及び他の部屋に関しては、実施設計において考慮する。

### a) 固定荷重

i) 鉄筋コンクリート	2,400 kg/m <sup>2</sup>
ii) コンクリート	2,300 kg/m <sup>2</sup>
iii) レンガ	2,200 kg/m <sup>2</sup>
iv) その他仕上材料等については、実施設計段階で設定	

### b) 積載荷重

i) 講義室、実習室	306 kg/m <sup>2</sup>
ii) ホール	510 kg/m <sup>2</sup>
iii) 管理室(事務室)	357 kg/m <sup>2</sup>
iv) 収納庫	500 kg/m <sup>2</sup>
v) 食堂	204 kg/m <sup>2</sup>
vi) 厨房	350 kg/m <sup>2</sup>
vii) 宿泊室	204 kg/m <sup>2</sup>
viii) 便所	204 kg/m <sup>2</sup>
ix) 廊下	408 kg/m <sup>2</sup>
x) 機械整備所	510 kg/m <sup>2</sup>

### c) 風荷重

風荷重については、日本の建築学会規準式を参考にし、下記の通りとする。

建物高さ h (m)	基準速度圧 q <sub>0</sub> (kg/m <sup>2</sup> )
0 ~ 10	120 E
10 ~ 30	120 E + 8 (h - 10)

ここに、E：環境係数であり、サイクロンの影響を考慮し、E = 1.1 とする。

設計用速度圧は、

$$q = q_0 \times Z \times L \times I \quad Z: \text{地域係数} \quad Z = 1.2 \text{ とする}$$

L : 受圧面係数

I : 用途係数 I = 1.0 とする

とし、設計用荷重の大きさは

$P = C \times q \times A$  とする。 C : 風力係数

q : 設計用速度圧 ( $kg/m^2$ )

A : 建物の見付面積 ( $m^2$ )

### 3) 基礎構造

敷地周辺の表層部は、褐色のラテライト層より成っている。また、隣接する既存建物基礎図面より、地耐力は、かなり期待出来ると思われるが、雨季の地下水位上昇を考慮し、地反力を設定する。

以上により、基礎は直接基礎とし、地反力は、 $10 t/m^2$  とする。

### 4) 上部構造

躯体 : 鉄筋コンクリートラーメン造

床 : 鉄筋コンクリート造

壁 : レンガ積

屋根 : 鉄筋コンクリート造、附属棟については、一部木組垂鉛鉄板葺

### 5) 構造材料

a) コンクリート : F C =  $180 kg/cm^2$  ( J I S 規格 )

b) セメント : 普通ポルトランドセメント ( J I S 規格 )

c) 鉄筋 : S R 2 4 又は、同等品 ( J I S 規格 )

d) レンガ : 1 0 ホールズレンガ、コモンレンガ

### (5) 設備計画

#### 1) 基本方針

本プロジェクトの設備計画にあたっては、以下の方針に従う。

a) バングラデシュ人民共和国及び計画地の自然条件、生活習慣等を考慮し、現地の条件にあった設備計画を行う。

b) 運転操作を単純化し、維持管理を容易にするとともに、低いランニングコストとなるように計画する。

また、メンテナンス上、建物内、給排水管は露出管方式とする。

c) 将来の取替え、補修を考慮し、機器類は、入手の容易な標準品を主に使用する。

2) 給水計画

給水方式は、重力給水方式とする。

水源は、建設予定地内の新設井戸（地下100m前後）とする。井戸用ポンプにて、屋上に設置する高架水槽へ直接揚水した後、給水個所へ重力給水を行う。

a) 給水量の算定

$$Q_d = N \times q_e \quad Q_d : \text{1日当りの給水量} (\ell / \text{日})$$

$$N : \text{計画人員} (\text{人})$$

$$q_e : \text{1人1日当り給水量} (\ell / \text{日} \cdot \text{人})$$

$$Q_T = Q_d \div T \quad Q_T : \text{時間当り給水量} (\ell / \text{H})$$

$$T : \text{使用時間} (\text{H})$$

	N	qe	Qd	T	QT
研 修 員	50	120	6,000	8	750
インストラクター	10	120	1,200	8	150
計	-	-	7,200	-	900

1日当りの給水量（ $Q_d : \ell / \text{日}$ ）の総量は、7200  $\ell$ となる。

時間当りの給水量（ $Q_T : \ell / \text{H}$ ）は、900  $\ell$ となる。

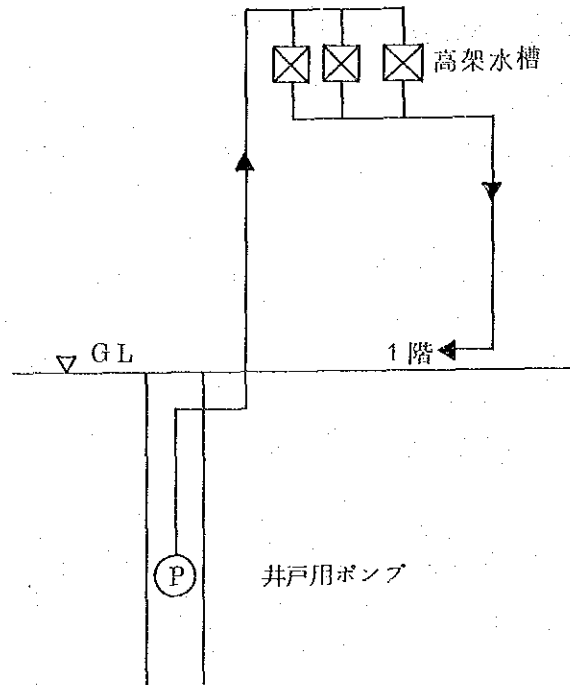
時間当りの最大給水量（ $Q_T : \ell / \text{H}$ ）は、ピークロード係数を2.0として $Q_T$ に  
乗して算出し、1800  $\ell / \text{H}$ となる。

3) 高架水槽計画

高架水槽容量は、1日当り給水量の1/2とする。

$$V_H = Q_d \times 1/2 \quad V_H : \text{高架水槽容量} (\ell)$$

これにより、3600  $\ell$ となることから、高架水槽は、1500  $\ell \times 3$ 基とする。なお、このための井戸ポンプは1台とし、高架水槽の水位により、自動運転とする。



#### 4) 排水計画

屋内の汚水、雑排水は、分流式とする。

汚水は、浄化槽で処理した後、肥料としての利用を計画する。

雑排水は、浄化槽で処理した後、敷地内の池へ放流する。

浄化槽は、汚水、雑排水、各々設置するものとする。

##### a) 排水量の算定

1日当りの給水量 (  $Q_d$  ) の80%とする。

$$\text{生徒} \quad 50 \text{人} \times 120 \text{ℓ/日} \cdot \text{人} \times 0.8 = 4800 \text{ℓ/}$$

$$\text{職員} \quad 10 \text{人} \times 120 \text{ℓ/日} \cdot \text{人} \times 0.8 = 960 \text{ℓ/}$$

$$4760 \text{ℓ/}$$

$$\rightarrow 5 \text{m}^3/\text{日}$$

これにより、1日当りの排水量は  $5 \text{m}^3/\text{日}$  となる。

#### 5) 給湯計画

給湯方式は、局所方式とし、シャワー室、洗濯室、厨房に各々瞬間湯沸器を設置し、給湯を行う。熱源は、電気とする。

#### 6) 換気計画

各室共、自然換気とし、天井扇にて空気の循環を促す。

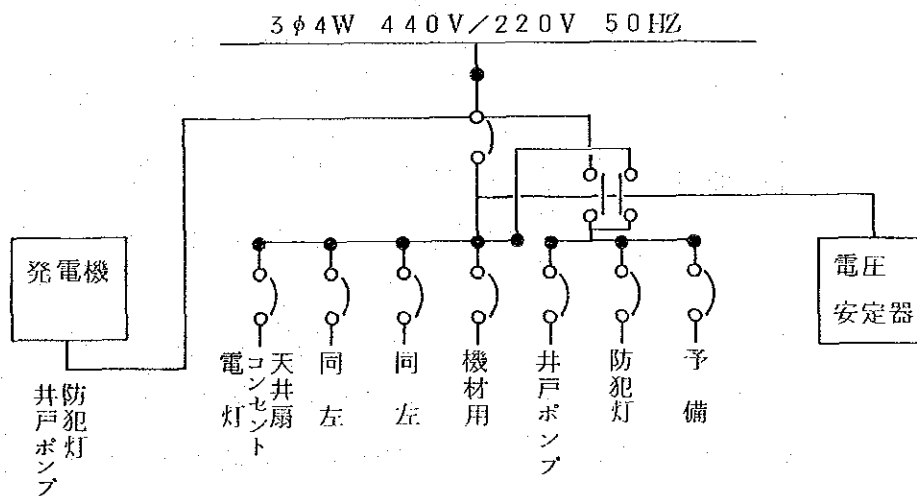
7) 電気設備計画

a) 電気負荷容量の算出

負荷名称	算出条件	負 荷 計 画	
		面積×面積当り負荷×1/力率×1/効率×同時使用率	負荷容量
電灯コンセント 講義室・実習室	40W/m <sup>2</sup>	$589 \times 40 \times 1 / 0.9 \times 1 / 1 \times 0.7$	18.3 KW
同 管理室	35	$235 \times 35 \times 1 / 0.9 \times 1 / 1 \times 0.7$	6.4
同 宿泊室	30	$502 \times 30 \times 1 / 0.9 \times 1 / 1 \times 0.8$	13.4
同 機械整備所	30	$54 \times 30 \times 1 / 0.9 \times 1 / 1 \times 0.6$	1.1
同 畜舎・鶏舎	10	$234 \times 10 \times 1 / 0.9 \times 1 / 1 \times 0.6$	1.6
同 穀物倉庫	10	$96 \times 10 \times 1 / 0.9 \times 1 / 1 \times 0.6$	0.6
井戸ポンプ	給水計画より	$11.2 \text{ KW} \times 1 / 0.7 \times 1 / 0.8 \times 0.4$	8.0
計			49.4 KW

b) 受電設備

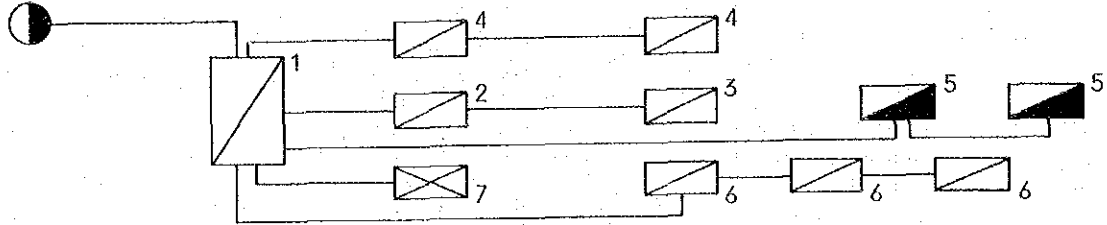
既存のダッカ研修センターに設置されている受変電設備より3相4線400V/230V50HZにて引込柱を経て計画建物の受電盤に引込む。



受電盤結線図

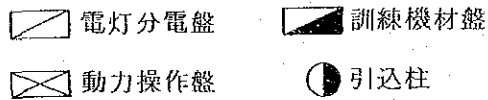
c) 幹線設備

受電盤以降の幹線配線は、管路内配線、ケーブル配線等によって各分電、動力盤へ電源を供給する。



1. 受電盤    2. 管理施設    3. 講義室・実習室    4. 宿泊室

5. 訓練機器盤    6. 整備所、他附属棟    7. 動力操作盤



幹線系統図

幹線電圧降下の最大許容量は下記による。

200 m以下 5%以下    200 m以上 6%以下

d) 電灯、コンセント設備

照明は、主として蛍光灯とし、各室の照明は下記とする。

室名	照度 (LX)
インストラクター室	300
講義室	300
実習室	300
共用スペース	150
宿泊室	50~100
食堂	300
厨房	300

コンセントは、バンラデシュ人民共和国内規格の形状とし、適所に設け、必要に応じて接地極付とする。

電圧は、220Vを一般とし、実習機材で100Vを必要とするものは、各分電盤に小型変圧器を設置し、100Vを供給する。尚、100Vコンセントは、日本工業規格とする。



e) 動力設備

井戸ポンプ(3.7 KW×1台、7.5 KW×1台)に電源を供給する。

f) 放送設備

管理室にアンプを設置し、外部に対し放送を行う。但し、アンプ及びスピーカー本体は、機材設備で計画する。尚、非常時には、サイレンを鳴らすものとする。

g) 避雷設備

落雷による事故を防ぐため建屋の最上部に避雷針を設置し、地中に設置の接地極に導線を継ぎ込む。

h) 発電機設備

井戸ポンプと防犯用照明、エアーポンプ、孵卵器等必要最小容量の負荷に対し、非常時に電源を供給する。

(6) 建築資材計画

殆どの建築資材は、バングラデシュ人民共和国内で調達可能である。しかし、砂利については、北東部及び北西部より持込まれるため、輸送料が高く、一部の建物を除いて、砕いたブリックを砂利の代わりに使用している。また、鉄筋は再生棒鋼のため構造計算の際は、注意を要する。但し、品質精度を要求されるベンキ等については、日本で調達する。

4-3-3 機材計画

研修地の状況、研修対象者層、研修レベル、研修方針を勘案し、その目的に合致した機材グレードとする。また、地域状況から備品・消耗品についても考慮する。

1) 教材作成用資機材

教材及び教育資料、研修員募集、対官庁書類作成のために必要な機材を整備する。

2) 研修用資機材

研修センターで行われる実習訓練及び座学教育のために必要な機材を備える。当研修センターでは、実習を通じ現行バングラデシュ農法の改善、改良とその普及を目指しているため、それに対応できる機材が必要である。殊に本プロジェクトのあるサバル地区は、酸性土で、土壌が痩せており、且つ、乾期は固く締まっているので、土の掘起しと土壌作りは、重要な研修課題であり、その為の機材は、最も求められるものである。尚、草刈機は、堆肥作り用のカッターであることが確認されたので、それに変更する。

また、座学教育を通じて、生活改善、意識改革を図るため、視聴覚機材、簡易な保健衛生機材も配慮する。

### 3) 研修補助用資機材

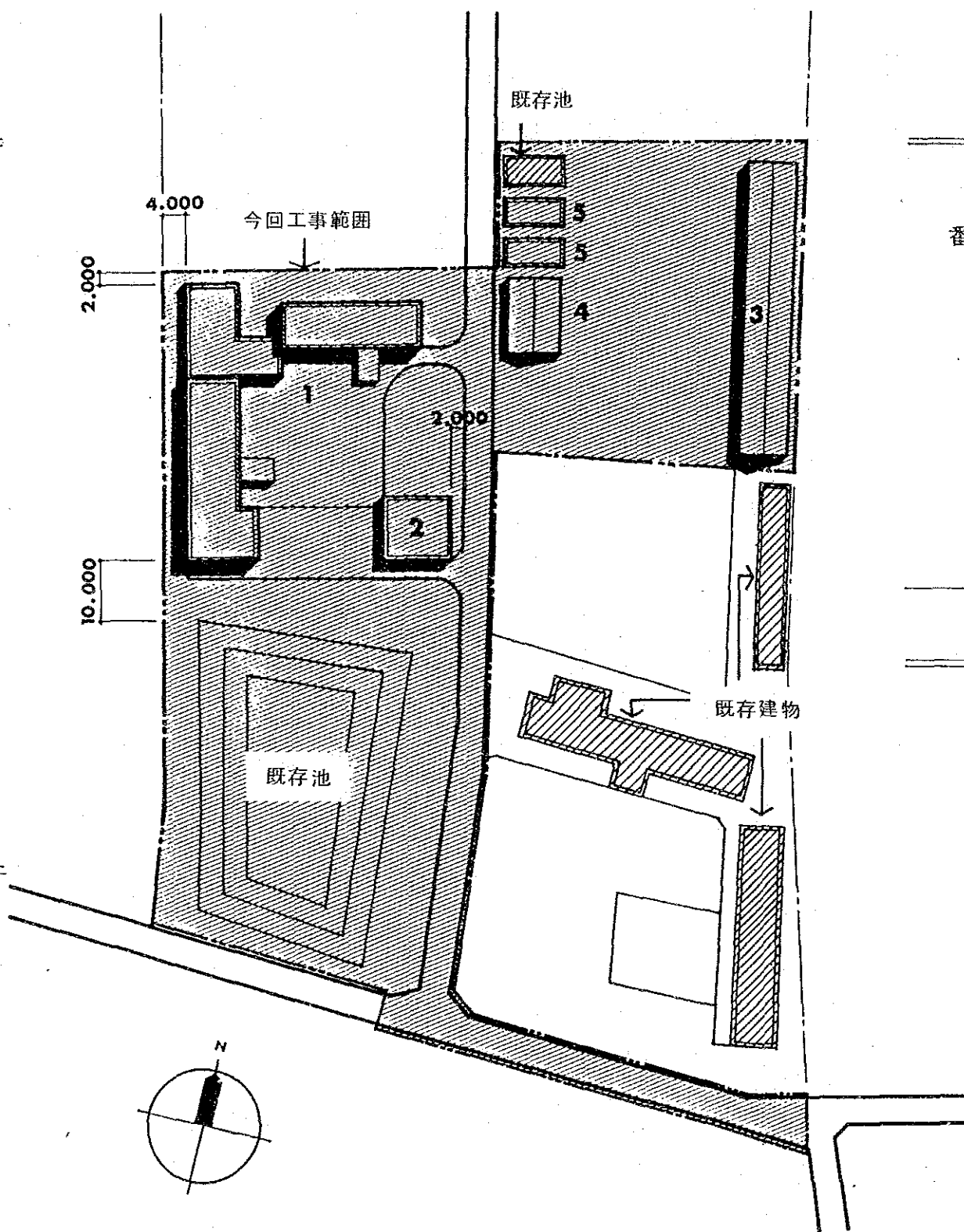
実習訓練を円滑に行うための前段階とし、魚の種苗生産、堆肥の生産、運搬、散布、機械修理などに必要な資機材を揃える。

また、周辺地域の住民に対する教宣活動、短期履修者に対するアフターケア、研修員り送迎用、堆肥・種苗の運搬用としてトラック、ピックアップを用意する。また、オイスカダッカ事務所との連絡用としてオートバイを考慮する。トラックは、研修員の収容数を増すため3.0 tとする。また、少量の堆肥・種苗運搬にも利用出来るよう、ライトバンをピックアップに変更する。

項 目	数量	備 考
① 教材作成用資機材		
1. タイプライター (英語)	1	手 動
2. タイプライター (ベンガル語)	1	手 動
3. 印刷機	1	インキ、 etc
② 研修用資機材		
4. 簡易医療器具	一式	
5. スライドプロジェクター	一式	スクリーン、カメラ、 etc
6. ミ シ ン	30	足踏式
7. 編 機	30	
8. トラクター (35HP)	1	アタッチメント: トレーラー、プロウ、ロータリー ディスクハロー
9. 耕運機 (10HP)	1	アタッチメント: トレーラー、プロウ
10. 小型耕運機	1	アタッチメント: プロウ、ロータリー、カルティベーター、 リッジャー
11. カッター	1	
12. 精 米 機	1	
13. 脱 穀 機	1	
14. 散 布 機	1	
15. ハンディ散布器	1	粉末用、液体用
16. 魚 網	一式	3 mm、20 mm
17. 配 合 機	1	
18. 一 輪 車	10	
19. リヤカー	2	
③ 研修補助用資機材		
20. 冷蔵庫	1	種子保存用
21. ポータブルポンプ	1	汚水用、池用
22. 孵 卵 器	1	
23. 水 槽	6	ブ ー ス タ ー、 etc
24. 電気溶接機	1	
25. トラック	1	3 t
26. ピックアップ	1	4WD
27. オートバイ	1	125 cc

図面リスト

1. 配置図
2. 仕上表
3. 第1棟（研修センター本館）及び第2棟（機械整備所）  
1階平面図
4. 第1棟 2階平面図
5. 第1棟 立面図及び断面図
6. 第1棟及び第2棟 立面図、断面図
7. 第3棟（畜舎及び穀物倉庫）
8. 第4棟（ハッチェリー棟）及び第5施設（養魚用セメント池）



配置図

SCALE 1/1000

建物

番号	建物	床面積（平方米）
1.	本館棟	1,250
2.	機械整備所	110
3.	畜舎及び穀物倉庫	310
4.	ハッチェリー棟	70
合計		1,740
5.	養魚用セメント池（2ヶ所）	100

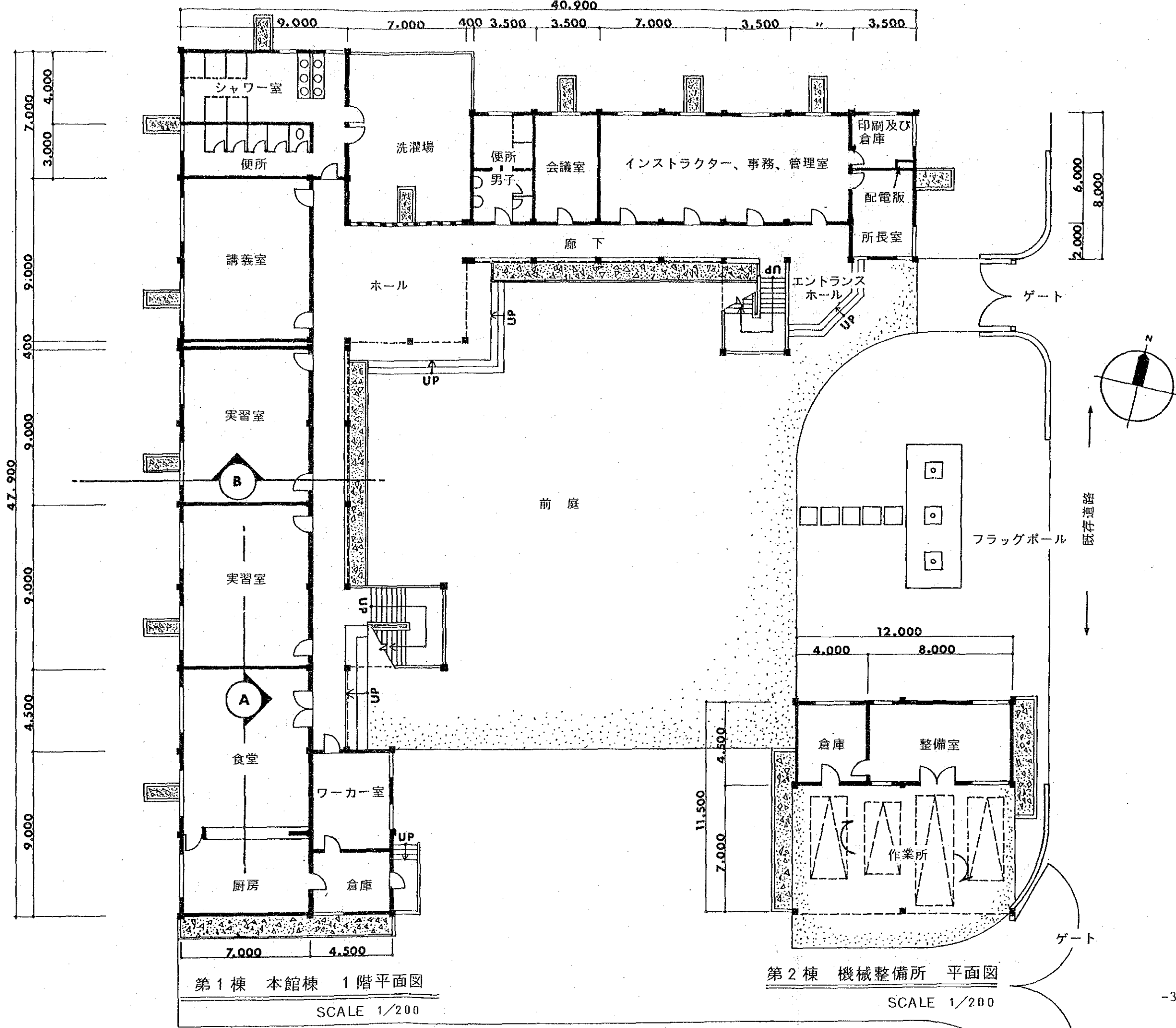
仕上表

外部仕上

棟名	壁				屋根			床		備考
	ブリック A.E.P 塗布	ブリック シリコン塗布	穴開きブリック	モルタル金ゴテ仕上	ライムコンクリート上へ 砕石ブリックコンクリート仕上	ライムコンクリート上へ モルタル仕上	着色 液型鉄板	コンクリート 木ゴテ仕上	同 金ゴテ仕上	
1. 本館棟	●	●	●		●	●		●	●	
2. 機械整備所	●	●	●			●			●	
3. 畜舎及び穀物倉庫	●	●	●				●	●		
4. ハッチェリー	●							●		
5. 養魚用セメント池				●					●	

内部仕上

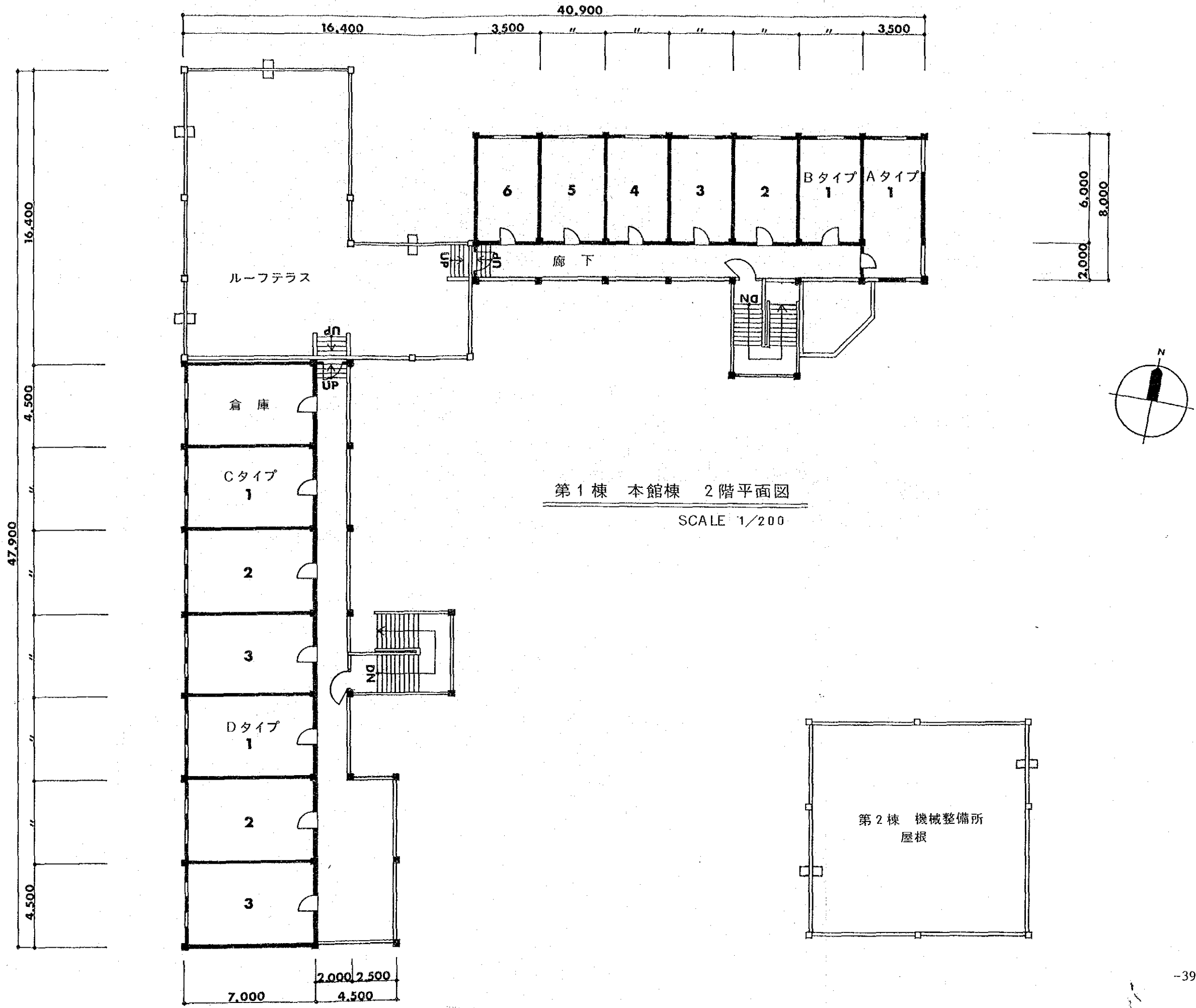
室名	床		巾木		腰壁		壁		天井		備考
	テラゾー 現場テラゾー仕上 コンクリート 同上	金ゴテ仕上 木ゴテ仕上	H=100 H=150 H=100	テラゾー 現場テラゾー仕上 モルタル金ゴテ仕上	現場テラゾー仕上 ブリック 穴開きブリック	モルタル A.E.P 塗布 ブリック A.E.P 塗布 モルタル シリコン塗布 穴開きブリック パンチメタル	モルタル A.E.P 塗布	モルタル A.E.P 塗布	カーテンボックス(木製)		
第1棟 本館棟 階段 所長室 インストラクター、事務、管理室 会議室 シャワー室及び便所 講義室及び研修室 印刷室及び貴重品倉庫 食堂 厨房 調理人室 ワーカー室 収納倉庫 宿泊室	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	プレキャスト手摺 ステンレス製カーテンパイプ ブリックパーティション 衛生陶器 配電版、スチールドア テラゾー製カウンター
第2棟 機械整備室棟 整備室 倉庫 作業所	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
第3棟 畜舎及び穀物倉庫 作業所と倉庫 鶏舎 畜舎 穀物倉庫 野菜倉庫	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	穴開きブリック上にワイヤーメッシュ 木組界壁
第4棟 ハッチェリー棟 倉庫 ハッチェリー	●	●	●	●		●	●	●	●	●	



BLDG. No.1 (TRAINING CENTER)  
 BLDG. No.2 (MAINTENANCE SHOP & WORKSHOP)

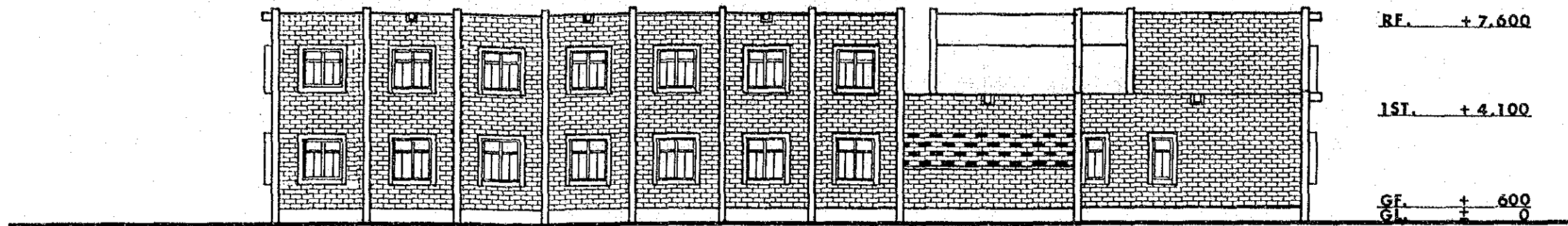
3

GROUND FLOOR PLAN

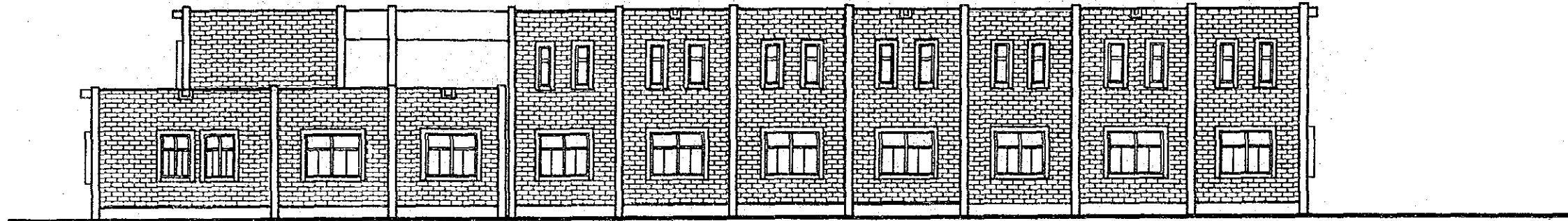


第1棟 本館棟 2階平面図  
SCALE 1/200

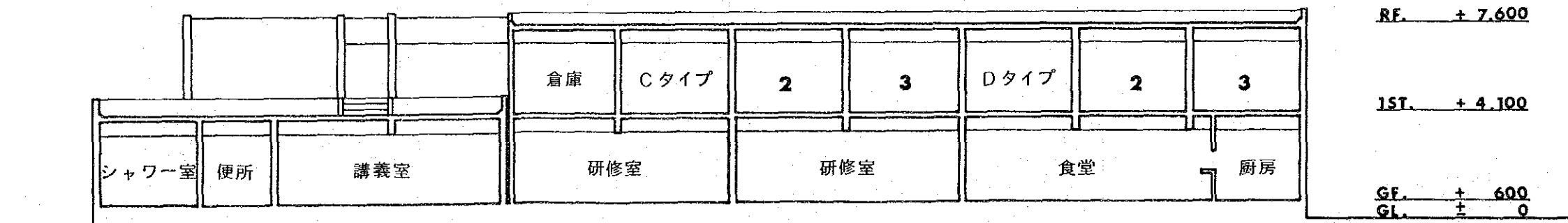
4 BLDG. No.1 1ST FLOOR PLAN



北側立面図



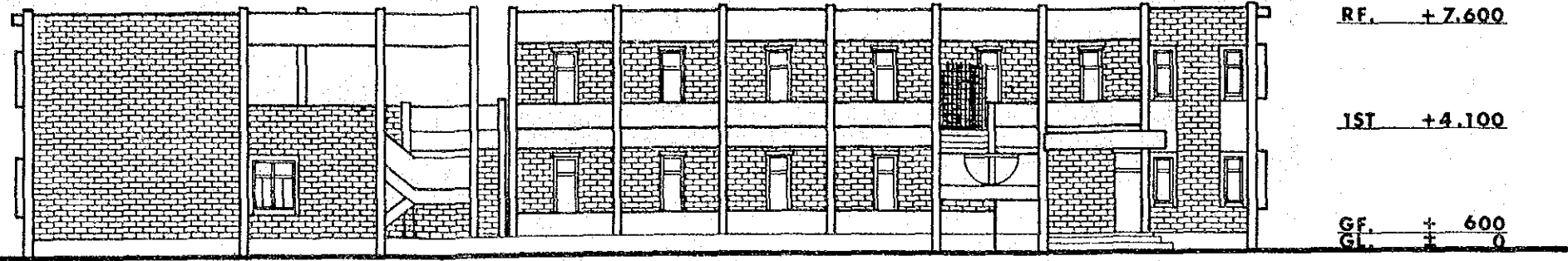
西側立面図



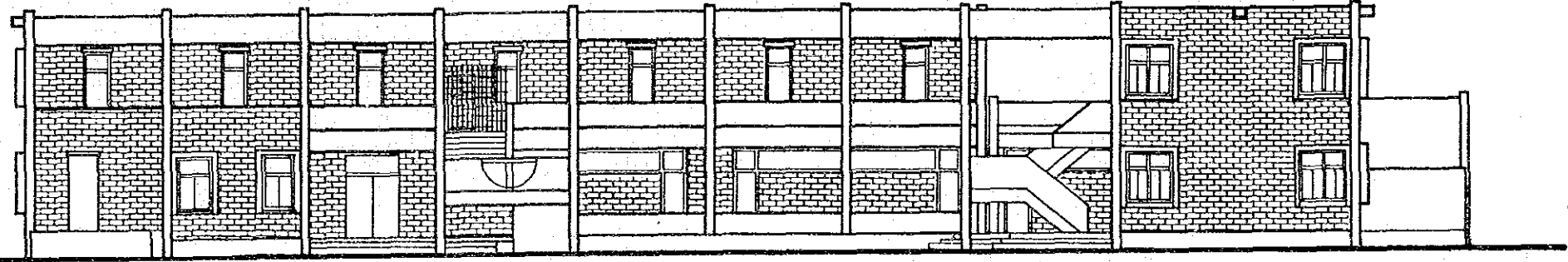
A-A断面図

第1棟 本館棟 立面図及び断面図

SCALE 1/200

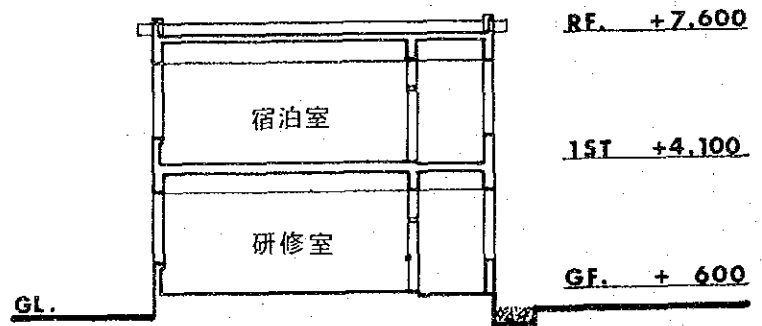


南侧立面图



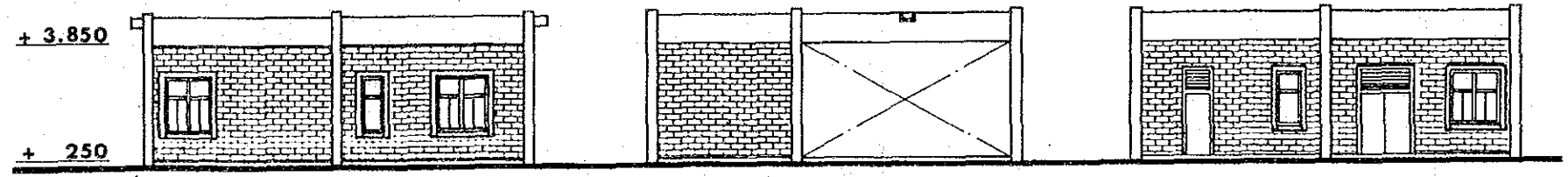
东侧立面图

第1棟 本館棟 立面图  
SCALE 1/200



B-B断面图

第1棟 断面图  
SCALE 1/200



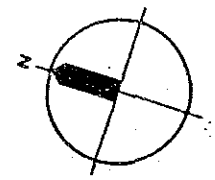
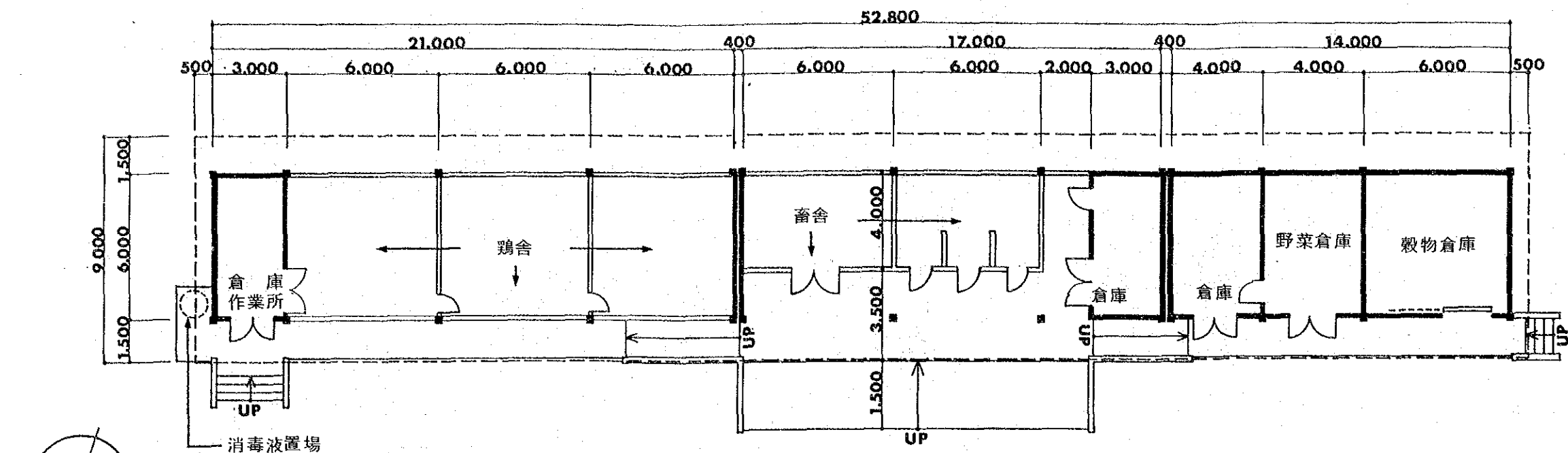
北侧立面图

西侧立面图

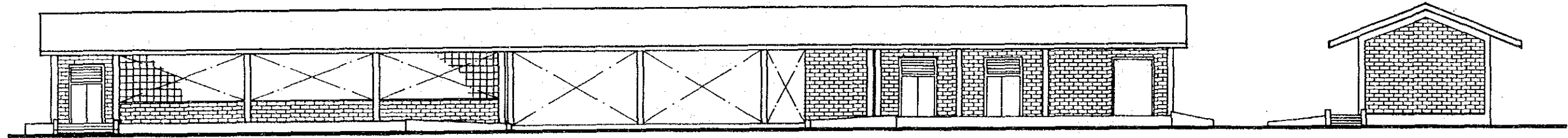
南侧立面图

第2棟 機械整備所  
SCALE 1/200



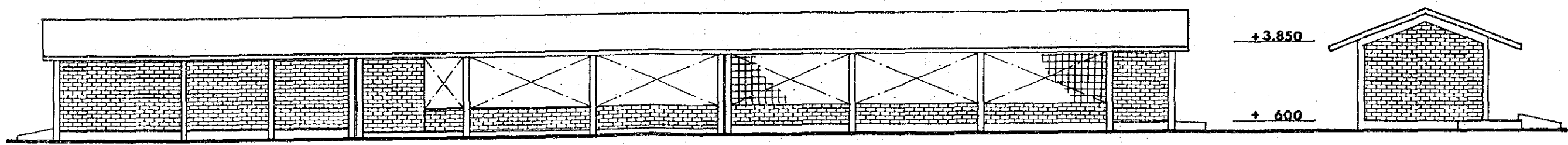


第3棟 畜舎及び穀物倉庫 平面図  
 SCALE 1/200



西側立面図

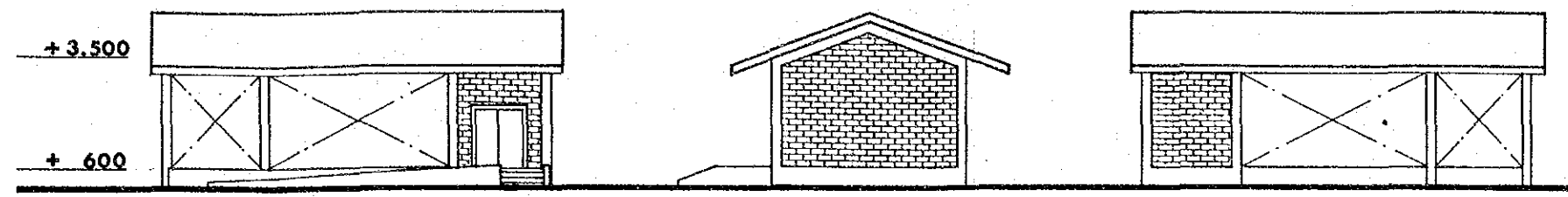
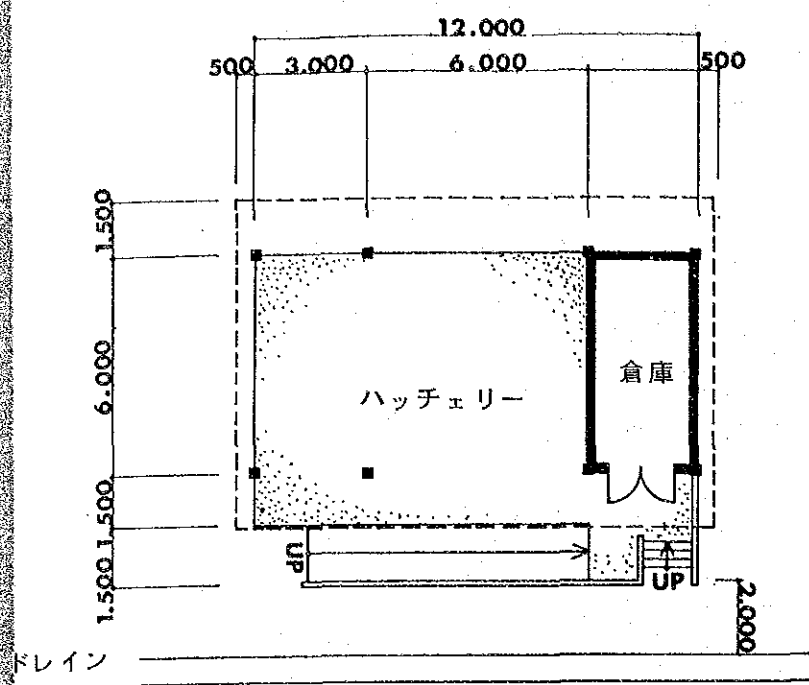
南側立面図



東側立面図

北側立面図

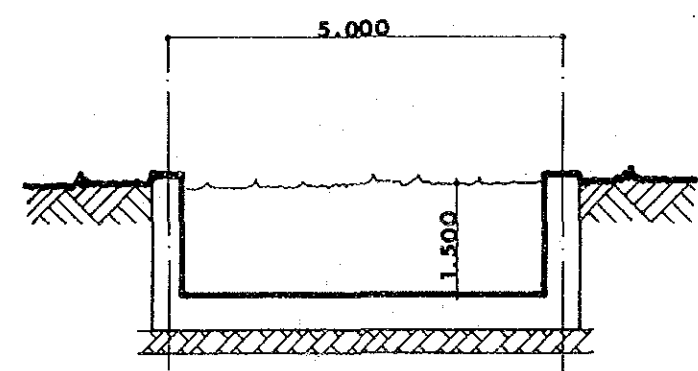
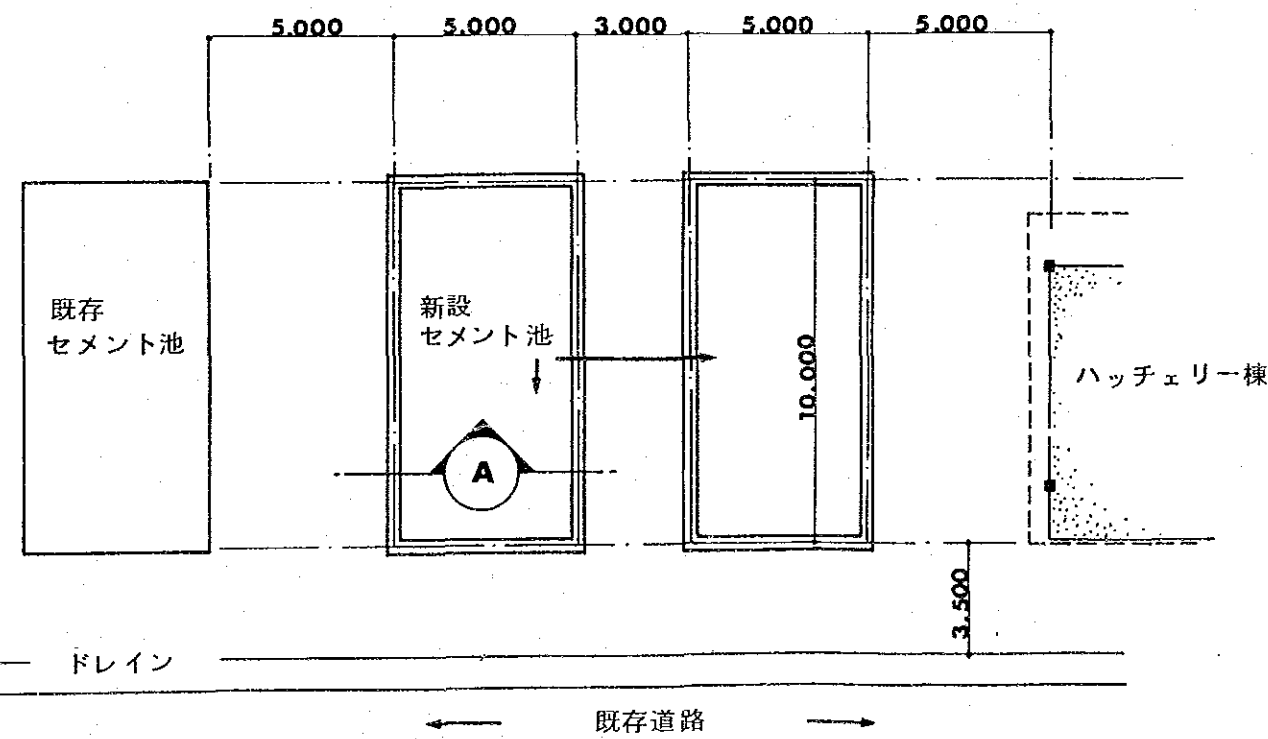
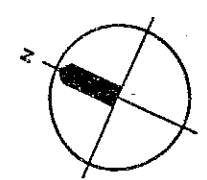
第3棟 畜舎及び穀物倉庫 立面図  
 SCALE 1/200



西側立面図                      南側立面図                      東側立面図

第4棟 ハッチェリー棟 平面図及び立面図

SCALE 1/200



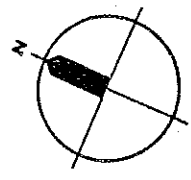
A - A 断面図

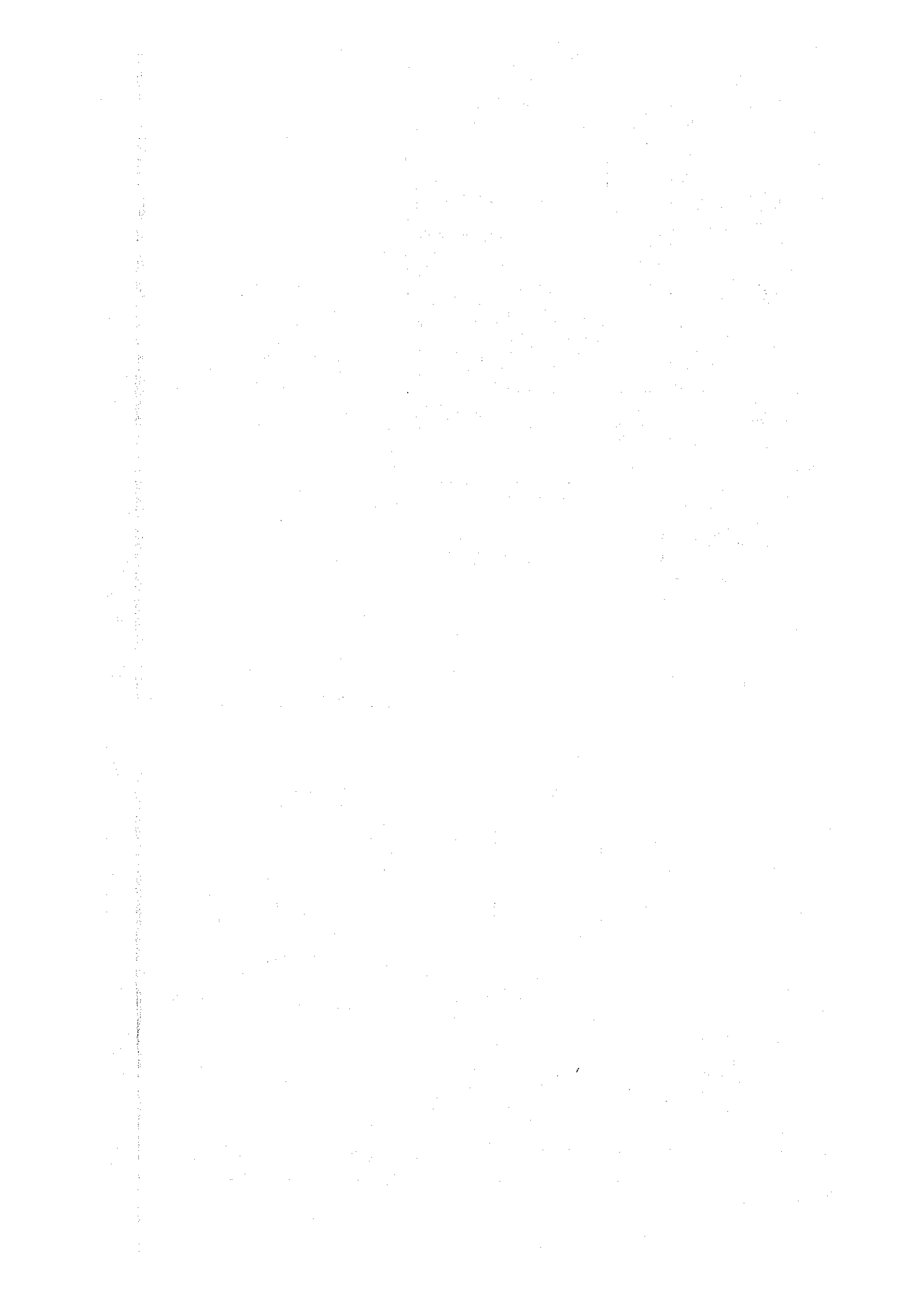
第5施設 養魚用セメント池 平面図

SCALE 1/200

第5施設 断面図

SCALE 1/200





#### 4-4 施工計画

施工監理及び施工は、事業主体である社会福祉婦人省とコンサルタント、コントラクター各々との契約に基づいて実施される。

##### 4-4-1 建設事情及び施工方針

本施設は、サバル郡にある村の中に建設されるので、建設に当っては、敷地までに通過する地域の住民感情を刺激しない配慮が必要である。

また、建設資機材は、ダッカより搬入されるが、レンガ敷道路、未舗装道路を迂回するため、運搬車両を小型化することは無論のこと、傷めた道路の補修についても配慮する必要がある。

施工に関しては、現地材料を使用し、現地工法にて行う。また、雨季があるため、雨季前に躯体を仕上げ、雨期中は、内装、内部工事を行い、雨季明け以降に外装、補修工事という計画にする。

##### 4-4-2 負担区分

###### (1) 日本国側負担分

農村婦人研修センター建設にかかわる施設、資機材で、具体的には、下記となる。

- ・敷地内外構工事
- ・建築工事
- ・設備工事
- ・研修機材

###### (2) バングラデシュ人民共和国側負担分

日本国側工事を円滑に行うため、バングラデシュ人民共和国側負担分として下記の措置を取る。

- ・敷地の確保及び整地
- ・インフラストラクチャーの整備
- ・日本の行う無償資金協力（以下無償資金協力という）により実施される施設・資機材以外の施設・資機材の負担及び整備
- ・銀行取極に係る A/P 発行手数料の負担
- ・A/P による支払手数料の負担
- ・本プロジェクトのために、日本国より持込まれる資機材に対し、関税、内国消費税、陸揚げ費用、貨物保管料、その他通関に必要な費用の負担
- ・バングラデシュ人民共和国政府との契約に基づき、資機材及び役務の提供に係わる日

本国民に対するバングラデシュ人民共和国内での関税、各種税金の一切の免除措置の確保とその手続

- バングラデシュ人民共和国政府との契約に基づき役務に携わる日本国民に対し、バングラデシュ人民共和国の入出国、滞在に必要な手続
- 無償資金協力により整備された施設・資機材の効果的な運営と管理
- 無償資金協力実施のため、技術面、行政面の相互で、十分な人数と適切な能力のあるカウンターパートの確保
- 本件プロジェクト遂行のための建設工事に必要な仮設電力、給水等の提供

なお、バングラデシュ人民共和国側負担分のうち、次の項目については、オイスカの協力が予定されている。

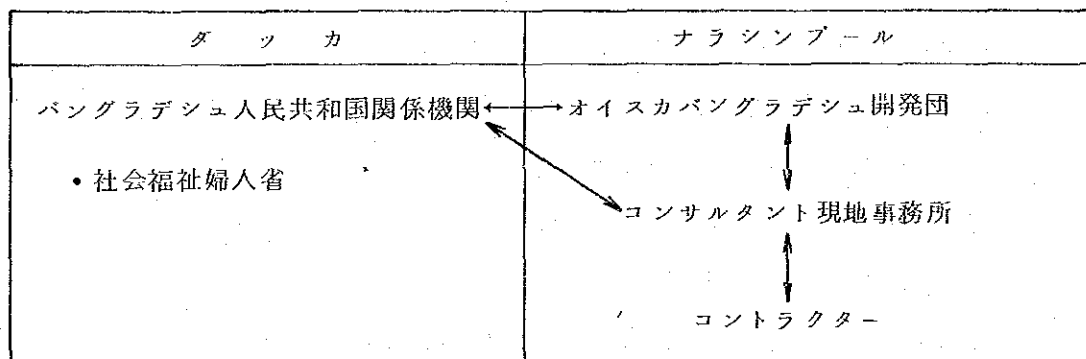
- 敷地周辺住民のボランティアを得て、池の補修工事
- 敷地周辺住民のボランティアを得て、柵の補修工事
- 敷地周辺住民のボランティアを得て、温室の建設
- 日本国内ボランティアによるシート、カーテン、料理用機材、台所用品、消耗品等の提供

#### 4-4-3 施工監理計画

施設規模より、施工期間中のコンサルタントによる監理は、簡易監理とする。但し、節目毎に技術者を派遣し、内容の充実を図ると共に、進捗状況を日本及びバングラデシュ人民共和国の関係機関に報告する。

コントラクターによる管理は、常駐管理とし、そのための現場事務所、宿舍を敷地近くに確保する。

日本と現地の関係機関、コンサルタントとコントラクターとの関係は下図とする。



#### 4-4-4 資機材調達計画

下記事項を勘案し、機材調達及び輸送計画を立案する。

##### (1) 建設資材

建設資材は、原則として、バングラデシュ人民共和国内調達とする。

鉄筋コンクリート等に品質上の問題はあるが、構造計算で安全をみることにより解決される。

設備機器についても井戸用ポンプ、発電機等一部を除いて、現地調達とする。

##### (2) 機 材

研修用機材については、バングラデシュ人民共和国内生産品を除き、バングラデシュ人民共和国内での調達は価格高となるためベンザル語のタイプライターを除き、他は日本で調達する。なお、研修用機材の機種選定に当っては、現地のメンテナンスの可否を検討する。

##### (3) 海上輸送と通関

日本からの海上輸送品は、チッタゴンで陸上げされる。海上輸送機関は、横浜港を出て約1ヶ月。定期便はあるが、1ヶ月に1便とのことである。

また、従来、通関に時間を要しているので、本件プロジェクト機材に関しては、バングラデシュ人民共和国関係機関の迅速な対応と社会福祉婦人省の支援が望まれる。

##### (4) 内陸輸送

日本からの資機材は、チッタゴンより陸送され、現地調達資材については、ダッカ南東のナラヤンガンジーにある集荷地より陸送される。

国道は、舗装されており、6.0tトラックの走行に支障はないが、国道より敷地までの約10kmは、道路損傷を生じ易いので小型(3t)トラックに積替えて搬入する。ただし、全行程3tトラックによる陸送は、効率が悪いので考慮しない。

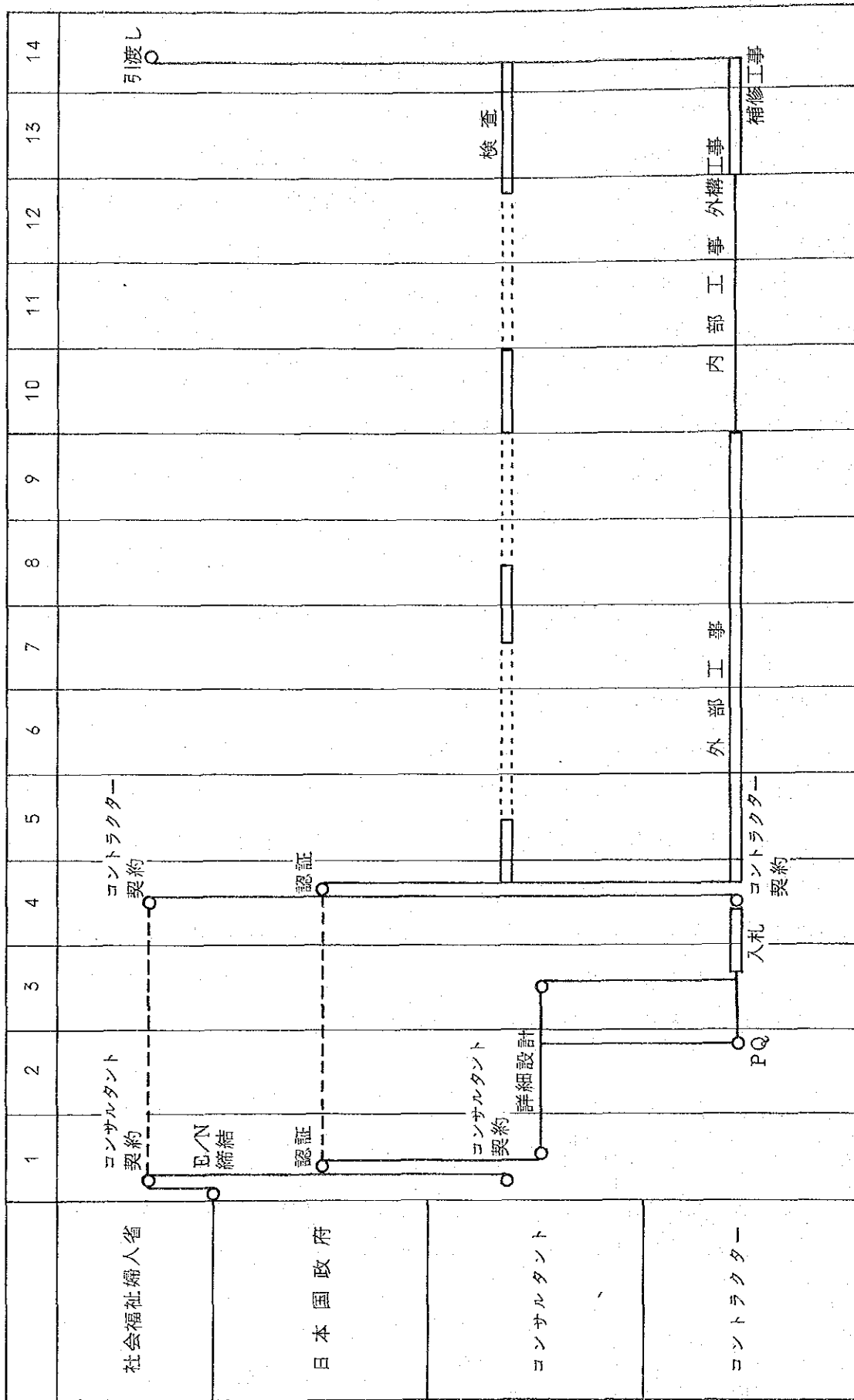
#### 4-4-5 本計画実施スケジュール

##### (1) 工期は、E/N(交換公文)締結後14ヶ月と見込まれる。

当初の3ヶ月間は、設計契約、入札図書の作成、PQ、入札、業者決定等に最小限必要な日数のため、また、最後の1ヶ月間は引渡し手続のため、実質工事期間は、10ヶ月となる。

この期間の中には、5ヶ月間に及ぶモンスーン季が含まれており、この時期、資機材の敷地への搬入及び建物の躯体工事は、雨と搬入路の冠水・汚濁等により殆ど出来ない。また、

(2) 実施スケジュール



竣工検査・補修引渡しに1ヶ月は必要である。本スケジュールは、モンスーン季前迄に建物の躯体(屋根まで)を完成させ、モンスーン季中は、内部工事を行い、モンスーン季后半から補修、外装、外構工事を行うことを前提としている。

#### 4-5 維持管理費

本プロジェクトの運営は、日本及びバングラデシュ人民共和国の人々のボランティア活動を中心として運用される予定であり、人件費等についても、活動に参加する人々の負担によることが期待されている。ここでは、運営に直接影響を及ぼす、施設・資機材等の運用コストについて算出する。

##### (1) 電気料金

使用電力×平均使用時間×30日/月

研修施設	18.3 KW × 4 h × 30 日 = 2,196.0 KWH (夜間、雨期に使用)
管理施設	6.4 × 4 × 30 = 768.0 (夜間が中心)
宿泊施設	13.4 × 2 × 30 = 804.0
機械整備所	1.1 × 8 × 10 = 88.0
畜舎・鶏舎	1.6 × 2 × 10 = 32.0
倉庫	0.6 × 1 × 10 = 6.0
井戸ポンプ	8.0 × 3 × 30 = 54.0
	<u>3,948.0 KWH</u>

$$250 \times 0.65 + 150 \times 0.90 + 3538 \times 2.30 = 8,275.4 \text{ TK/日}$$

$$\times 12 \text{ ヶ月} = 99,304.8 \text{ TK/年} \cdots (1)$$

$$\text{税金} \quad 3,948 \text{ KWH} \times 0.05 \text{ TK} \times 12 \text{ ヶ月} = 2,368.8 \text{ TK/年} \cdots (2)$$

$$\text{メーターレンタル料} \quad 1.5 \text{ TK} \times 12 \text{ ヶ月} = 18 \text{ TK/年} \cdots (3)$$

$$\text{電気料金} = (1) + (2) + (3) = 99,304.8 + 2,368.8 + 18 \doteq 101,691 \text{ TK/年}$$

##### (2) 発電機用ディーゼルオイル

停電は、平均すれば月3日であり、主として井戸ポンプを対象としているため、井戸ポンプ3日分の運転として見込む。

$$7.5 \ell/h \times 3 h/\text{日} \times 3 \text{ 日} \times 12 \text{ ヶ月} = 810 \ell/\text{年}$$

$$810 \ell / 4,564 \times 32.81 \text{ TK/G} \doteq 5,823 \text{ TK/年}$$

##### (3) 厨房用燃料

燃料は灯油を使用する。



$$0.1 \ell / \text{人} \cdot \text{日} \times 66 \text{人} \times 30 \text{日} \times 12 \text{ヶ月} = 2,376 \ell$$

$$2,376 \ell / 4,564 \times 32.81 \text{TK/G} = 17,081 \text{TK/年}$$

(4) 車 輛 ガソリン・軽油

		TK	ℓ	
3トラック	600 ℓ/月 × 9 ヶ月	×	32.81 / 4,564	= 38,820 TK/年
ピックアップ	200 ℓ/月 × 9 ヶ月	×	32.81 / 4,564	= 12,940
オートバイ	60 ℓ/月 × 9 ヶ月	×	66.7 / 4,564	= 7,892
トラクター 耕 運 機	100 ℓ/月 × 3 ヶ月	×	32.81 / 4,564	= 2,157
				61,809 TK/年

維持管理費

(1) 電気料金	101,691 TK
(2) 発電機用ディーゼルオイル	5,823
(3) 厨房用燃料	17,081
(4) 車 輛	61,809
維持管理費計	186,404 TK/年
	( 1,817,439 円/年 )

4-6 概算事業費

日本側分担は、本計画にかかる建設費及び研修資機材の供与であり、バングラデシュ人民共和国側分担は、建設敷地の確保と整備に加えて、施設、機材の引き渡し後、カリキュラムの整備等に従って、運用面で必要になってくる施設、機材を手当する。

つまり、当初の概算事業費としては、バングラデシュ人民共和国側では、関税措置等の費用だけであり、直接的な施設・機材費は必要ない。

(1) 日本側設立費概算内訳

1. 建設費	195,200,000 円
2. 研修資機材費	25,400,000
3. コンサルタント料	39,400,000
合 計	260,000,000 円

(2) 積算前提条件

1. 建設、研修資機材単価は、昭和60年6月現在とした。
2. バングラデシュ人民共和国の通貨であるTK対円換算レートは、1TK=9.75円とした。

## 第5章 事業評価

バングラデシュ人民共和国政府は、農村地域振興とその政策の重要項目に掲げ、その施策の一つとして、「農村婦人の育成」を位置づけ、本プロジェクトを計画している。本計画は、社会・経済開発への婦人の参加と自助努力への足掛りを得るための基礎知識と技術の習得に加え、生活改善への意識の高揚を研修目的としている。

具体的達成目標としては、

(1)現金収入に直結した技術の習得 (2)生活改善 (3)保健衛生環境の改善、そして、(4)生産性の高い農業の習得の4項目である。その成果については、婦人の社会参加を通じ農村婦人の雇用の促進、現金収入、さらには、種々の社会・経済的效果が期待できる。

全国レベルとしては、長期コース20名の研修によって、農村婦人リーダーを養成するものであり、農村地域での農村婦人による相互協力、婦人団体活動への協力等、卒業生の活動が期待される。また、ダッカ研修センターで研修した研修員が、ショニポール活動で、36,000人を動員して相互協力活動を行ったり、地域住民を指導して、住民の為の学校を作ったりと、活動の成果は、地道であるが非常に実効性のあることが明らかになっており、本センター卒業生がダッカ研修員の活動や婦人団体、NGO団体等と相互に協力する可能性も大きく、効果は、実地的活動と結びついて、充分期待できるとともに、普及活動に伴い農村婦人の意識改革を含めるとその波及効果も大である。

サバル地区周辺としては、ナランブール村を中心とする建設予定地周辺地域に対して、本センターは、周辺地域の村づくりのコアとなり、グラスルーツレベルの活動により、周辺地域に対し種々の還元をもたらす。地域還元の一つとして、短期コース30名(10~15日/年)が計画されており、研修後もアフターケアを通じて、村づくりの地域活動を行う。

NGOの一つであるオイスカは、グラスルーツレベルで地域開発の試行錯誤を行い、種々の開発について、近隣の村の代表と対話を行って来ており、周辺地域の村づくり、婦人の社会参加等についても、地域の理解が深まりつつあり、直接的効果が大きいものと期待できる。

地域活動の盛り上がりは、既存ダッカ研修センターにも見られる。既存ダッカ研修センターは近隣住民のボランティア活動で設立しており、本センターにおいても、池の補修、柵の補修、温室の建設等が同様のボランティア活動で計画されている。

また、長期コースの研修員にとっても、地域活動を目のあたりにする事は、リーダー養成上必要であり、将来の自らの活動のモデルともなる。短期コースは300名~450名/年の研修を行うものであり、研修後のアフターケアとあいまって周辺地域の活動の輪がさらに拡大すれば、婦人の意識改革が与える影響は、多大なものとなる。

運営・管理の面からも、直接それを担当するオイスカは、既にダッカ研修センターを運営しており、現地の習慣、行政にも精通し、運営上の問題は無いと判断できる。また、本計画の経費に

についてはダッカ研修センターと別枠で予算を計上しており、維持管理費の点からも問題はない。

本計画は、バングラデシュ人民共和国政府とそれに協力するNGOの1つであるオイスカの「農村婦人の育成」に対する計画を実現するために、日本国の無償資金協力で支援し、その施設と研修資機材を整備するという新方式のプロジェクトであり、効果を十分に期待できると判断することができる。

NGO活動の形態の特徴として、1つのボランティア活動の布石が、地域住民に拡がりを持つて効果を与え、その中の人材がまた、次の布石になるというねずみ算式の浸透があり、長期コース20名、短期コース30名の研修員の確保についても充分に見通しがある。現在ダッカ研修センターにて、4名の婦人に対して研修を行っており、募集、カリキュラム等に不安はない。さらに、オイスカの能力からも長期コース20名、短期コース30名は過大ではなく適切である。

## 第6章 結論と提言

- (1) 研修員数については、現地調査前、オイスカより、長期コース20名及び短期コース30名の要望がでていた。また、社会福祉婦人省と打合せでは、長期コース50名の要望が出たが、研修内容を含めて、詳細な打合せ検討の結果、オイスカの当面の運営能力及び本センター建設予定地のサバル地区周辺（短期コースの対象地域）の婦人の研修の効果等の観点から、現地調査派遣前の各省会議での内容に従って長期コース20名、短期コース30名を研修員数とした。
- (2) 研修員の募集（長期20名、短期30名）については、オイスカとしては、関係官庁等の協力の下に長・短期各々の員数が確保される見通しである。社会福祉婦人省も計画地域指導者達も全面的な協力を申し出ており、夫々の募集方法が効を奏する可能性が大である。
- (3) 本婦人研修センターは、既述の通り、長期コースによって、全国的に募られた農村婦人リーダーを養成し、短期コースでは、主にサバル地区周辺の農村婦人に対し、基本的な知識と簡単な技術研修を通じて生活改善意識の高揚を図るものであるが、これまでのオイスカダッカ研修センターの実績及び、婦人研修センターのために既に始められているオイスカ側の諸状況を勘案すると、オイスカによる本センターの管理・運営能力は充分あるものとみられる。

結論としては、これまでのバングラデシュ人民共和国政府およびオイスカの活動、さらには4名の婦人に対するテスト・ケースから長期コース20名、短期コース30名は、募集により集められる研修員数及びオイスカの運営能力を鑑みて、適切な規模である。

また、長期コースの農村婦人リーダーによる全国レベルでの地域活動に加えて、短期コースによって本センターをコアとするサバル地区周辺での地域活動は、農村地域の住民に対し、グラスルーツレベルで直接効果が期待され、無償資金協力との相乗効果でNGO活動がさらに活発かつ広がりを持つことが期待できる。

本件婦人研修センター計画は、バングラデシュ人民共和国政府がNGOのひとつであるオイスカとの協力により計画が策定され運営されるもので、日本国政府がバングラデシュ人民共和国政府の要請を受けて本センターの施設、機材の整備について、無償資金協力を行うという新方式のプロジェクトである。かかるセンター設立計画及びその成果につき、バングラデシュ人民共和国政府のみならず、本センター敷地周辺の地域住民も本センター設立に強い関心を示し、大きな期待を寄せている。

本件婦人研修センターの設立により、上記オイスカの管理・運営能力、バングラデシュ人民共和国政府、同センター周辺地域住民等の協力等を鑑み、その目的とする農村婦人リーダーの養成及び周辺地域の農村婦人の意識改革に対し、その研修を通じ、直接効果及び波及効果を充分期待出来る。従って、本センター設立に対し、日本国政府の無償資金協力を実施することは、妥当であると判断されるため、本計画の早期実現が望まれる。

提言としては、本計画はバングラデシュ人民共和国政府の協力により、オイスカが管理・運営するものであるが、オイスカの活動が円滑に行く様にバングラデシュ人民共和国政府が充分配慮する必要がある。

研修後のリーダー活動についても、地域での民間、政府等の組織活動等に対して、バングラデシュ人民共和国政府の理解と支援が期待される。

## 附 属 资 料



## 目 次

1. MINUTES OF DISCUSSIONS .....	63
2. 面会者リスト .....	70
3. 基本設計調査団員リスト .....	71
4. 現地調査作業日報 .....	72
5. 社会福祉婦人省組織図 .....	74
6. COUNTRY DATA OF BANGLADESH .....	81
6-1. 基本指標 .....	81
1) 一般事項 .....	81
2) 地域別人口増加率 .....	84
3) 平均寿命 .....	85
4) ダッカ DISTRICT の UNION、MOUZA の数 .....	86
5) 地域別人口密度 (Per sq. mile) .....	87
6) ダッカ DISTRICT の世帯数、人口及び人口密度 (Per sq. mile) .....	88
7) ダッカ DISTRICT の人口推移と増減率 .....	89
8) 地域別識字率 .....	90
9) 就学率 .....	92
10) 婚姻状態、性別、年齢別区分 .....	93
11) 車輛の種類と数 .....	96
12) ダッカ DISTRICT に於る平均小売価格及び 政府公室価格 (ガソリン、ディーゼル、ケロシン) .....	97
13) 通貨・レート .....	98
6-2. 社会経済指標 .....	99
1) GDP (名目 実質) .....	99
2) 部門別GDP率 (名目 実質) .....	101
3) 就労人口、失業率 .....	102
4) 国際収支 .....	107
5) 通貨準備高 .....	108
6) 対外債務返済 .....	108
7) 対日貿易 .....	109



8) 財政収支 .....	110
9) 外国援助のコミット額と支出額の推移 .....	111
6-3 開発指標 .....	112
1) 現況 .....	112
2) 20世紀計画 .....	112
3) 第3次5ヶ年計画 .....	113
7. ダッカ研修センターの概要 .....	120
8. NGOの活動状況図 .....	123
9. 資料リスト .....	125

1. MINUTES OF DISCUSSIONS

MINUTES OF DISCUSSIONS  
ON  
THE ESTABLISHMENT PROJECT  
ON  
THE AGRICULTURE TRAINING CENTER FOR WOMEN  
IN  
THE PEOPLE'S REPUBLIC OF BANGLADESH

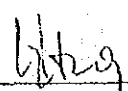
In response to the request made by the Government of the People's Republic of Bangladesh for grant assistance for the establishment of the Agriculture Training Center for Women (hereinafter referred to as "the Project"), the Government of Japan had sent, through Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") which is an official agency implementing the technical cooperation of the Government of Japan, a team headed by Mr. Kazuo TANAKA, Aid Policy Division, Economic Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs, to conduct a basic design study for 19 days from March 21st to April 8th, 1985.

The team had carried out field surveys, held a series of discussions and exchanged views with the authorities concerned of the Project.

On the basis of the study and discussions, both parties have agreed to recommend to their respective Governments to examine the results of the study attached herewith towards the realization of the Project.

Dhaka, April 2nd 1985

  
\_\_\_\_\_  
Mr. Kazuo TANAKA  
Leader, Basic Design Study Team,  
JICA.

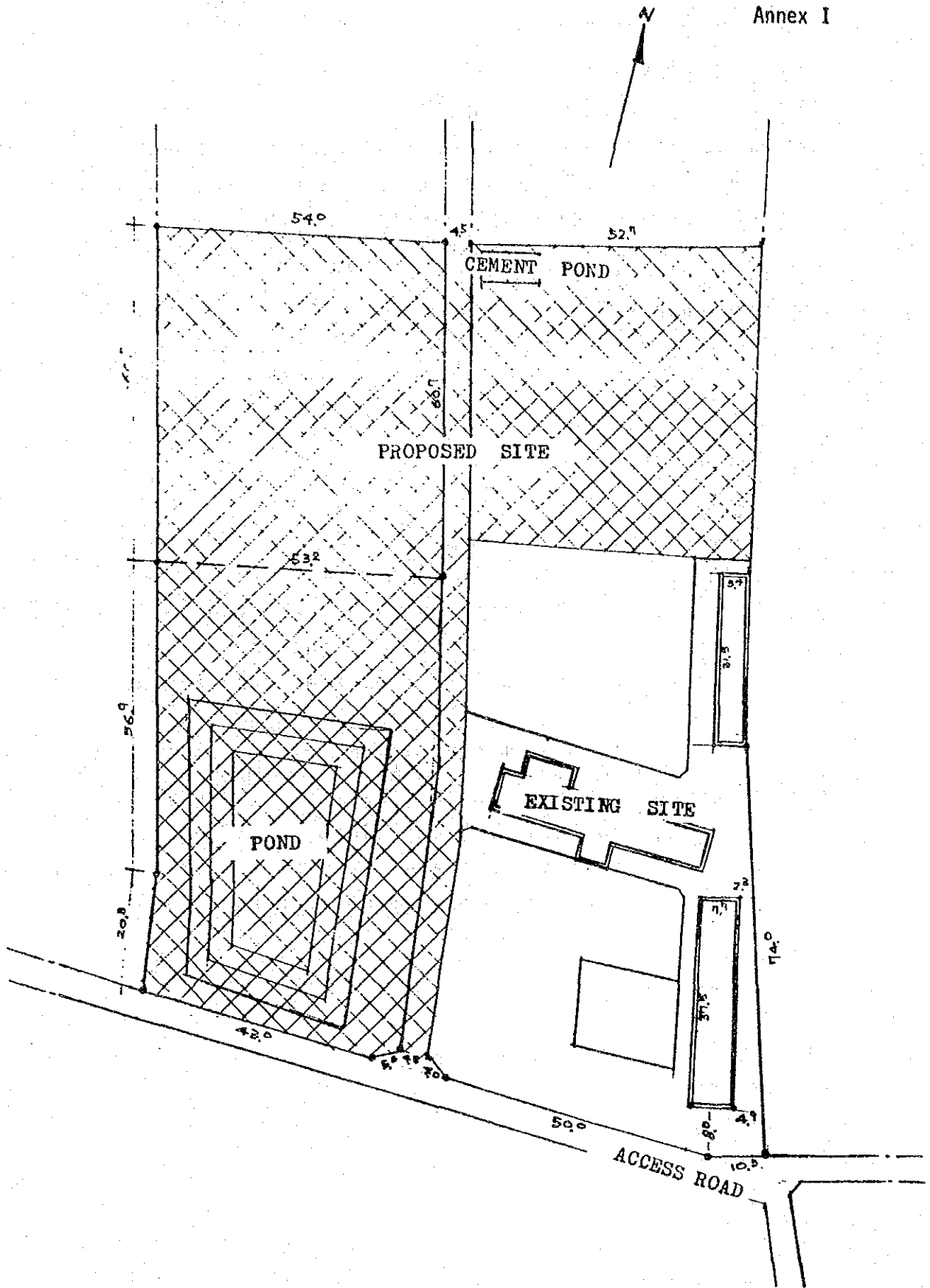
  
\_\_\_\_\_  
Mr. A.K.M. Hedayetul HUQ  
Secretary,  
Ministry of Social Welfare &  
Women's Affairs.

- A T T A C H M E N T -

1. The objective of the Project is to provide women folk with training opportunities so as to help them participate more effectively in the socio-economic development and become self-reliant.
2. The proposed site of Agriculture Training Center for Women (hereinafter referred to as "the Center") is within the site of OISCA-IDB. (JAPAN) located at Narashingpur, Upazila Savar, District Dhaka, as shown in Annex I.
3. The Bangladesh side proposed to conduct training courses in the Center as shown in Annex II.
4. The organization chart of the Center is attached in Annex III.
5. The Ministry of Social Welfare and Women's Affairs will be the executing organization responsible for the implementation of the preparatory work and construction work of the Center.
6. The operation and management of the Center will be undertaken by OISCA-IDB. (JAPAN) in cooperation with the Ministry of Social Welfare and Women's Affairs.
7. The Japanese study team will convey to the Government of Japan the desire of the Government of the People's Republic of Bangladesh that the former takes necessary measures to cooperate in implementing the Project and bears the cost of the facilities and equipment requested by the latter listed in Annex IV within the scope of Japanese economic cooperation in grant form.
8. The Government of Bangladesh will take necessary measures listed in Annex V under the condition that the grant aid by the Government of Japan is extended to the Project.
9. Both parties confirmed that the study team explained Japan's Grant Aid Program and the Bangladesh side understood it.

*lit*

*ES*



The proposed site of the Agriculture Training Center for Women  
 ( Narashingpur, Upazila Savar, District Dhaka )  
 SCALE : 1/1000

*Handwritten signature/initials*

*Handwritten mark (possibly 'CS')*

Proposed Training Program

1. Types and duration of courses

- 1) Long term course (one year)
  - Aiming at producing women leaders
- 2) Short term course (one week - 10-15 times/year)
  - Aiming at producing self-reliant women

2. Number of participants

- 1) Long term course      20 persons
- 2) Short term course      30 persons

3. Curriculum

1) Long term course

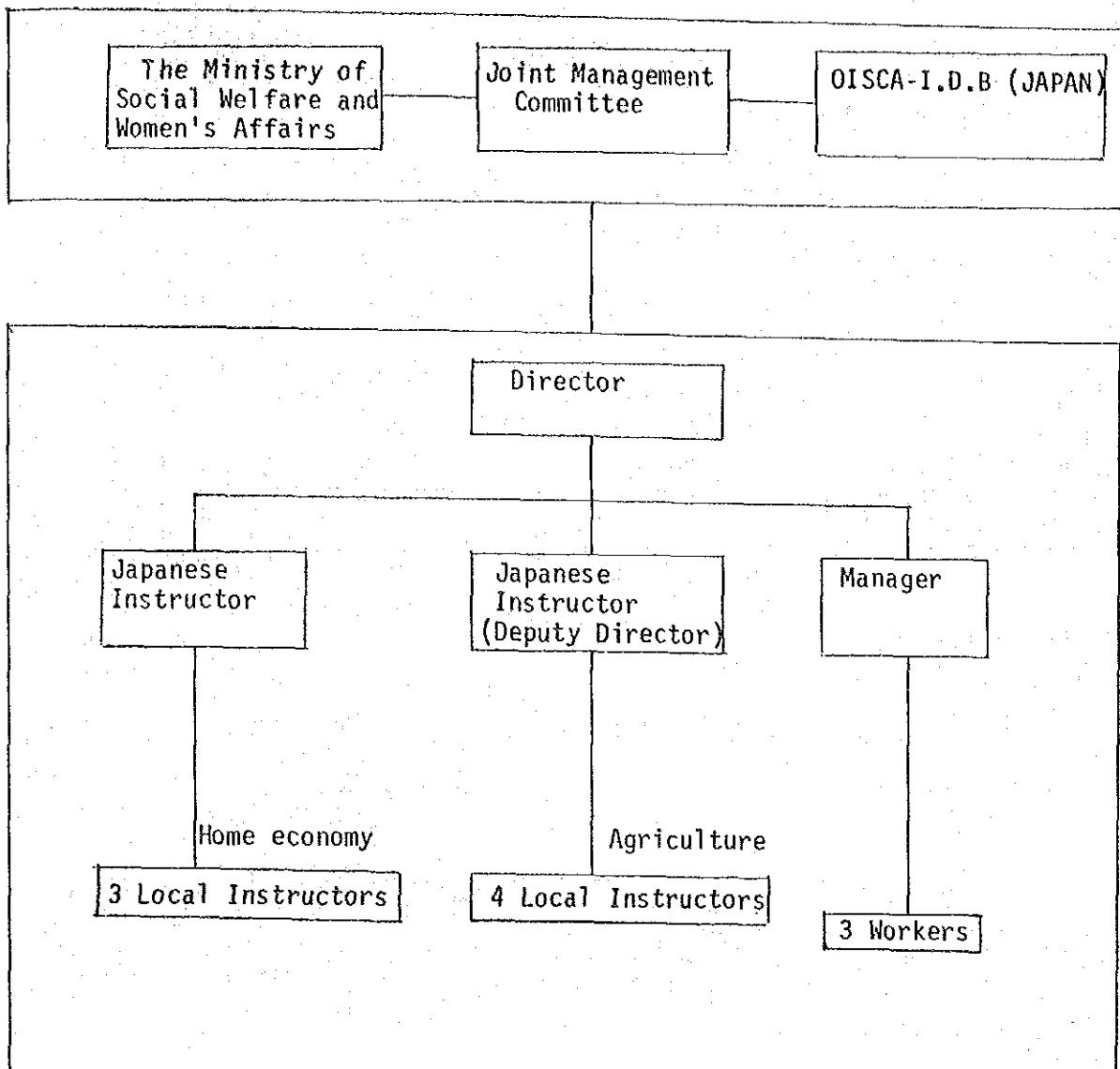
- cultivation
- livestock rearing
- pisciculture
- home economy (dress making, knitting, cooking, handcraft, health and sanitation)
- general knowledge (general knowledge of Bangladesh, study on rural development, mathematics, Japanese language, family planning)

2) Short term course: four courses, each one including general knowledge of Bangladesh, rural development, Japanese language, primary health care and nutrition improvement with particular emphasis on the following subjects:

- (a)-rice culture and management  
    livestock rearing
- (b)-vegetable culture and management  
    floriculture  
    pisciculture
- (c)-dress making  
    seasonal cultivation  
    child care
- (d)-knitting  
    seasonal cultivation  
    child care

*litag*

*16*



litag

26

Requested facilities and equipment of the Project by the Government of Bangladesh are as follows:

- (1) Main building
  - a. Administration rooms
  - b. Lecture and training rooms
  - c. Dormitory
- (2) Other necessary facilities for training
  - a. Livestock barn
  - b. Workshop and storage
  - c. Pond
  - d. Well

## (3) Equipment

Items	Remarks	No.	Priority
1. Type writer	Bengali	1	A
2. Type writer	English	1	B
3. Photo copy machine		1	A
4. Printing machine		1	A
5. Amplifier	W/radio, tape recorder and speaker	1 set	A
6. Slide projector	W/screen, camera	1	A
7. Sewing machine	W/accessory manual	30	A
8. Knitting machine	W/accessory manual	30	A
9. Portable medical instrument		1 set	A
10. Refrigerator		1	A
11. Portable pump		1	A
12. Trawl net	3mm, 20mm	1 set	A
13. Tractor	W/attachment, 35HP	1	A
14. Power tiller	W/attachment, 10HP	1	A
15. Small power tiller	W/attachment	1	A
16. Power sprayer		1	A
17. Handy sprayer		1	A
18. Mowing machine		1	C
19. Threshing machine		1	A
20. Hulling & polishing machine		1	A
21. Incubator		1	A
22. Water tank	W/accessory	6	A
23. Electrical welding		1	A
24. Wheel barrows		10	A
25. Cycle trailer		2	B
26. Mixer		1	A
27. Truck	2t, 4WD	1	A
28. Micro-bus	26 persons	1	B
29. Motorcycle	125 cc	1	B
30. Pick up car	4WD	1	A
31. Generator		1	A
32. Pump		2	A
33. Video set		1	C

Note: Priority A: High  
B: Middle  
C: Low

Annex V

Major undertakings to be taken by the Government of the People's Republic of Bangladesh are as follows:

1. To secure a lot of land.
2. To clear, level and reclaim the site when needed.
3. To construct the gate and fence around the site.
4. To construct the road outside the site.
5. To provide the distributing line for electricity to the site.
6. To provide the drainage line to the site.
7. To bear commission to the Japanese foreign exchange bank for the banking services based upon the Banking Arrangement.
8. To ensure tax exemption and customs clearance of the products at the port of disembarkation.
9. To accord Japanese nationals whose services may be required in connection with the supply of the products and services under the verified contract such facilities as may be necessary for their entry into Bangladesh and stay therein for the performance of their work.
10. To maintain and use properly and effectively that the facilities constructed and equipment purchased under the Grant.
11. To bear other incidental expenses, if any, other than those to be borne by the Grant, necessary for construction of the facilities as well as for the transportation and the installation of the equipment.

Wing

ES



## 2. 面会者リスト

### バングラデシュ人民共和国政府及び関係機関

Mr. M. AKHTAR ALI	大蔵省外資局	JOINT SECRETARY
Mr. A. K. M. SALAMAT ULLAH	大蔵省外資局	DEPUTY SECRETARY
Mr. KAMAL	大蔵省外資局	RESEARCH OFFICER
Mr. AHMED REZA	大蔵省外資局	SENIOR SCALE SECTION OFFICER
Mrs. SALMA KHAM	計画委員会	JOINT CHIEF
Mr. A. K. M. HEDAYETUL HUQ	社会福祉婦人省	SECRETARY
Mr. ENAMUL HAQUE	社会福祉婦人省	JOINT SECRETARY
Mr. SHAIK MOFIZUDDI AHMED	社会福祉婦人省	DEPUTY SECRETARY
Mr. NAZRUL ISLAM BHUIYAN	社会福祉婦人省	PLANNING & DEVELOPMENT CELL ASST. CHIEF
Mr. G. M. MOULA	社会福祉婦人省	DIRECTORATE OF WOMEN'S AFFAIRS DIRECTOR
Mr. MUKHLESUR RAHMAN	社会福祉婦人省	DIRECTORATE OF WOMEN'S AFFAIRS ASST & PROJECT DIRECTOR
Mrs. MOBAS WARE BEGUN	社会福祉婦人省	SECTION OFFICER
Mr. EZAZUL HAQUE	農業省	JOINT SECRETARY
岡村 郁夫	OISCA I. D. B. (JAPAN)	所 長
宮島 秀雄	OISCA I. D. B. (JAPAN)	インストラクター
東海林 稔	OISCA I. D. B. (JAPAN)	インストラクター
中居 メイ	OISCA I. D. B. (JAPAN)	インストラクター
Mr. AHMED ALI SHAIK	OISCA I. D. B. (JAPAN)	PRINCIPAL
Mr. ALAUDDIN	OISCA I. D. B. (JAPAN)	DHAKA 事務所長
Mr. WAZIULLAH	UPAZILA SAVAR	CHIEF EXECUTIVE OFFICER ( 郡長 )
Mr. MOSHARAS HOSSAIN	UPAZILA SAVAR	EDUCATION OFFICER
Mr. F. H. ABED	BANGLADESH RURAL ADVANCEMENT COMMITTEE(BRAC)	EXECUTIVE DIRECTOR
Mrs. EVA RAHMAN	ASSOCIATION OF DEVELOPMENT AGENCIES IN BANGLADESH(ADAB)	
吉田 志朗	シャブラニール	バングラデシュ駐在員

## 日本政府及び関係機関

林 安秀	日本大使館	臨時代理大使
大橋 巧	日本大使館	一等書記官
岡田 雄二	日本大使館	二等書記官
江崎 政久	JICAダッカ事務所	所長
石田 幸男	JICAダッカ事務所	職員

### 3. 基本設計調査団員リスト

田中 和夫	総括	外務省経済協力局政策課
友田 和臣	研修計画	(財)オイスカ産業開発協力団
寺西 義英	計画管理	国際協力事業団
大橋 昇	施設計画	(株)OAC設計
猪股 篤雄	建築設計	(株)OAC設計
曾川 正敏	設備・機材計画	(株)OAC設計

4. 現地調査作業日報

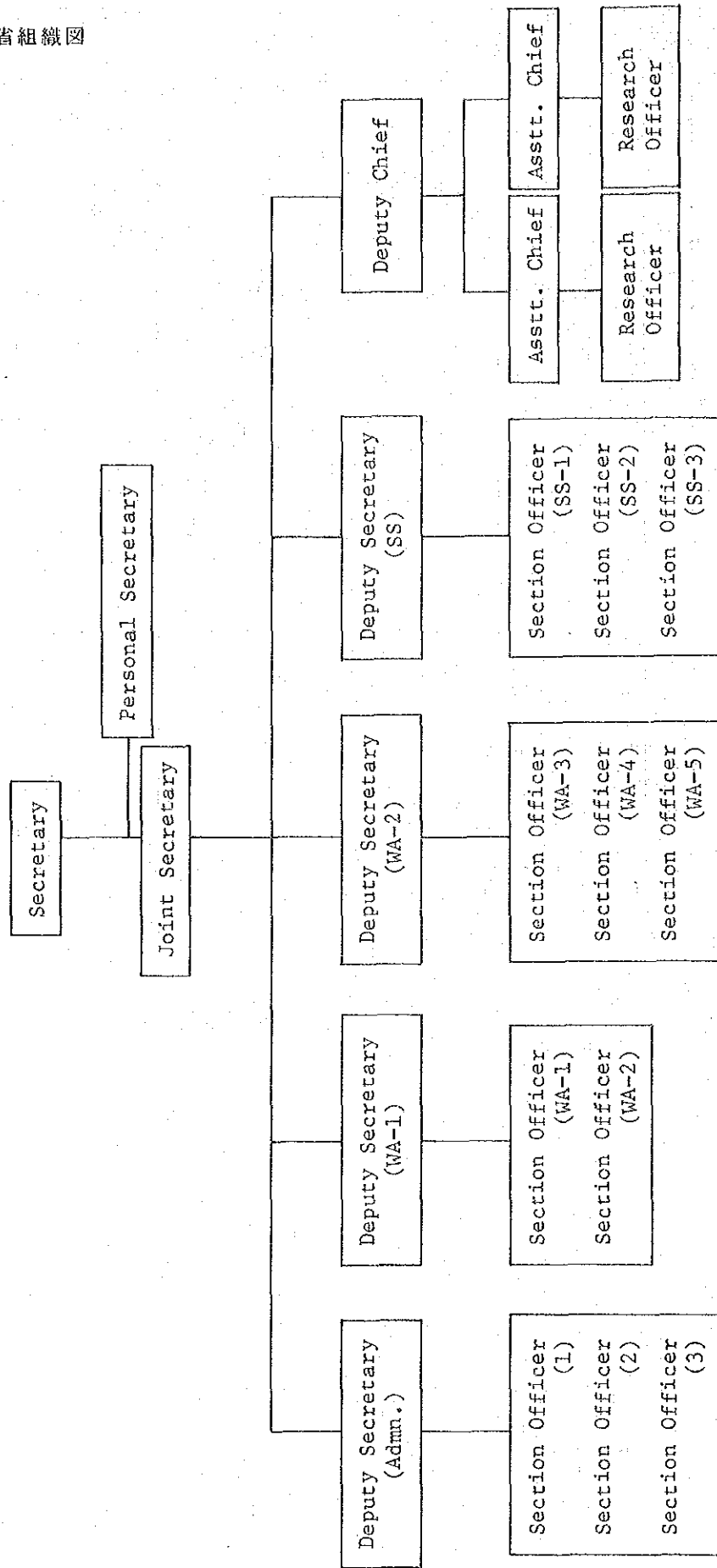
月 日	曜	滞在地	内 容	
3月				
21	木	バンコク	出国(団長除く5名)友田、寺西、大橋、猪股、曾川	
22	金	ダッカ	ダッカJICA、オイスカと日程打合せ	
23	土	〃	ダッカJICA、大蔵省外資局、計画委員会、社会福祉婦人省 表敬打合せ、団内打合せ	
24	日	〃	社会福祉婦人省と協議、日本大使館表敬打合せ 団内打合せ	
25	月	〃	デイリーファーム、ダニダファーム及びオイスカトレーニングセンター 視察、団内打合せ	
26	火	〃	田中和夫団長到着	サイト調査、団内打合せ
27	水	〃	大蔵省外資局、計画委員会、 農業省 日本大使館表敬打合せ	社会福祉婦人省と打合せ
28	木	〃	官ベース	建 築
			社会福祉婦人省と協議 日本大使館に報告	資料購入
29	金	〃	ダニダファーム、オイスカ トレーニングセンター及び サイト視察	ダニダファーム視察、 サイト調査
30	土	〃	社会福祉婦人省と協議	大蔵省外資局と打合せ、公共事 業省訪問、建設事情調査
31	日	〃	NGO訪問	建設事情調査、資料購入

4月				
1	月	ダ ッ カ	社会福祉婦人省と協議 日本大使館、ダ ッ カ J I C A へ経過報告	社会福祉婦人省で打合せ、 D . I . T ・ 訪問、公共事業省 訪問
				国内打合せ
2	火	"	ミニッツ調印、バンコクにて 日本大使館、J I C A、N G O と懇談会	N G O 訪問、建設事情調査
3	水	"	帰国 田中団長、友田、寺西	設備調査、サバール郡役所 訪問、建設事情調査
4	木	"		社会福祉婦人省と協議、建 築事情調査、日本大使館に 経過報告
5	金	"		資料整理
6	土	"		ダ ッ カ J I C A に経過報告
7	日	バンコク		
8	月	東 京		帰国 大橋、猪股、曾川

5. 社会福祉婦人省組織図

MINISTRY OF SOCIAL WELFARE AND WOMEN'S AFFAIRS

ORGANOGRAM



NOTES: 1. WA : WOMEN'S AFFAIRS  
 2. SS : SOCIAL SERVICES

1985年4月、今までの DEPARTMENT OF SOCIAL WELFARE が DEPARTMENT OF SOCIAL SERVICES と名称変更された。但し、MINISTRY の名称は今まで通り

" MINISTRY OF SOCIAL WELFARE AND WOMENS AFFAIRS "

1.	MRS. BARISSER RABIA BHUYAN	( MINISTER OF SOCIAL WELFARE & WOMENS AFFAIRS )
2.	MR. EMDAD HOSSAIN	( PRIVATE SECRETARY )
3.	MR. MOSHIUR RAHAMAN	( INFORMATION OFFICER )
4.	MR. A.K.M. HAYDAITUL HAQUE	( SECRETARY )
5.	MR. SAMSUDDIN AHAMED	( PRIVATE SECRETARY )
6.	MR. ENAMUL HAQUE	( JOINT SECRETARY )
7.	MR. S.M. MAZIBAR RAHAMAN	( DEPUTY SECRETARY ) (1)
⑧	MR. MOFIUZZUDDIN AHAMED	( DEPUTY SECRETARY ) (2)
9.	MR. RAFIQUUL ISLAM BHUYAN	( DEPUTY SECRETARY ) (3) ADMN.
10.	MR. M.A. SIDDIQUE	( DEPUTY SECRETARY ) (4) ADMN.
11.	MR. A.F.M. ANAMUL HAQUE	( SECTION OFFICER )
12.	MR. MATIUR RAHAMAN	( SECTION OFFICER )
13.	MRS. BEGUM RAUSHAN ARA RAHMAN	( SECTION OFFICER )
14.	MRS. MOBASSARA BEGUM	( SECTION OFFICER )
15.	MR. BADOR HOSSAIN	( SECTION OFFICER )
16.	MRS. ANJOMAN ARA BEGUM	( SECTION OFFICER )
17.	MR. M. KHABIR UDDIN	( SECTION OFFICER )
18.	MR. BORHAN UDDIN	( SECTION OFFICER )
19.	MRS. JAHANARA BEGUM	( SECTION OFFICER )

注) ○印は、本プロジェクトに任命されている Project Director

Government of the People's Republic of Bangladesh  
Ministry of Social Welfare & Women's Affairs  
Planning and Development Cell  
Bangladesh Secretariat  
Dhaka

No. MSW&WA/PG-115/84

Dated :- 3/10/84

NOTIFICATION

The undersigned is directed to inform that the Govt. have been pleased to appoint the following pre officers as project Directors in respect of the various development projects as noted against their names under the Ministry of Social Welfare and Women's Affairs and this will be effective from the date of issue of this Notification :-

Sl.No.	Name and designation of the project Director	Name of the project
20.	Janab Rafiqul Islam Bhuiyan, Dy. Sec. (M-II), M/O, Social Welfare	Strengthening the Information base for Women's Development Services.
21.	Begum Sadequa Shafiqullah, Director, Bangladesh Shishu Academy	Establishment of the branches of the Bangladesh Shishu Academy at district & Sub-divisional levels
	Janab Sheikh Mafizuddin, Ahmed, Dy. Secretary (M-I), M/SW&WA	Agriculture Training Centre for Women's in Bangladesh.

Sd/-  
( A.K.M. Hedayatul Haq )  
Secretary,  
Ministry of Social Welfare and  
Women's Affairs .

No. M/SW&WA/PG-115/84 - 22 (6) Dated, Dhaka, the 29th Sept. 1984

Copy forwarded for information and necessary action to :-

1. The director general, Deptt. of Social Services, 74, Bijoy Nagar, Dhaka .
2. The Director, Deptt. of Women's Affairs, Eskaton Road, Dhaka
3. The Chairman, Bangladesh Shishu Academy, Old High Court Area, Dhaka .
4. P.S. to the Secretary, Ministry of Social Welfare and Women's Affairs .
5. P.A. to the Joint Secretary, ( Admn. ), Dy. Secretary, ( Social Welfare ), Dy. Secretary ( M.I&M-II ), M/O, Ministry of Social Welfare & Women's Affairs .

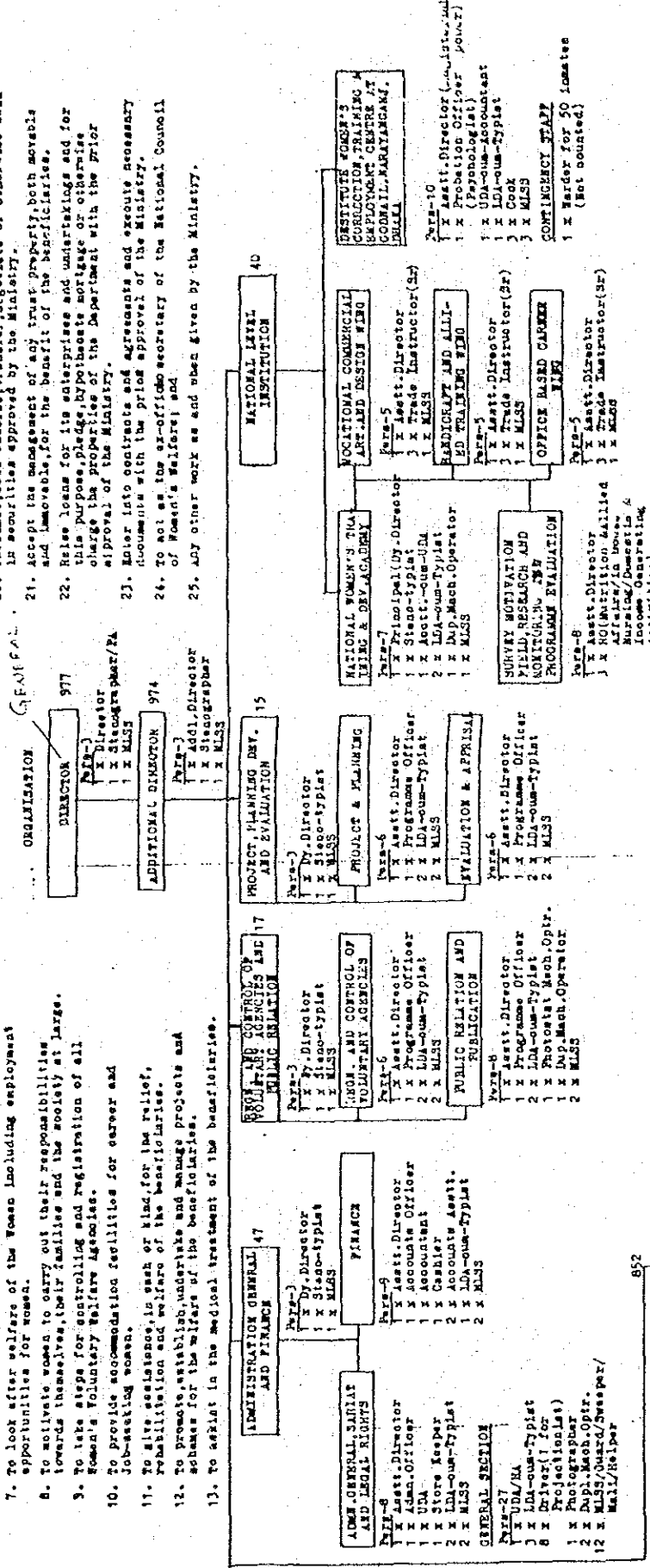
( Shyam Sundar Nath )  
Deputy Chief

DEPARTMENT OF WOMEN'S AFFAIRS  
MINISTRY OF SOCIAL WELFARE AND WOMEN'S AFFAIRS

**FUNCTIONS**

1. Department of Women's Affairs acts as the Principal field Office of the Women's Affairs Sector of the Ministry of Social Welfare & Women's Affairs.
2. To help the Ministry in deciding principles on women's Affairs & to help the Ministry in implementing those principles.
3. To implement and evaluate the projects which the Ministry requires the Directorate to perform.
4. To look after matters relating to women's status, Charities and other legal and social rights.
5. To attend to the problems and affairs of women.
6. To organize women in such a manner so that they may participate effectively in its Socio-economic Development opportunities for women.
7. To look after welfare of the women including employment towards themselves, their families and the society at large.
8. To take steps for controlling and registration of all women's voluntary welfare agencies.
9. To provide accommodation facilities for career and job-seeking women.
10. To give assistance, in such or kind, for the relief, Rehabilitation and welfare of the beneficiaries.
11. To promote, establish, undertake and manage projects and schemes for the welfare of the beneficiaries.
12. To assist in the medical treatment of the beneficiaries.

14. To establish and maintain rehabilitation and training centres and homes for the beneficiaries.
15. To provide Vocational training facilities to the beneficiaries.
16. To award scholarships and stipends to deserving beneficiaries for prosecution of studies.
17. To establish, own, manage, maintain and disposed of, any industrial or commercial undertaking for the benefit of the beneficiaries.
18. Invest moneys and very investments as and when it seems proper.
19. Acquire money, securities, instruments or any other movable or immovable property for and on behalf of the Department.
20. Purchase, sell, endorse, transfer, negotiate or otherwise deal in securities approved by the Ministry.
21. Accept the management of any trust property, both movable and immovable, for the benefit of the beneficiaries.
22. Raise loans for its enterprises and undertakings and for this purpose, pledge, hypothecate mortgage or otherwise charge the assets of the Department with the prior approval of the Ministry.
23. Enter into contracts and agreements and execute necessary documents with the prior approval of the Ministry.
24. To act as the ex-officio secretary of the National Council of Women's Welfare; and
25. Any other work as and when given by the Ministry.



**SUMMARY OF MANPOWER**

No.	Name of the post	Grade	Posts	Revised
<b>CLASS-I</b>				
1.	Director	3	2	1
2.	Adgl. Director	1	1	1
3.	Deputy Director	2	-	3
4.	Principal Academy (DD)	-	-	1
5.	Director Academy	1	1	-
6.	Assistant Director	10	3	11
7.	Silla Women's Affairs Officer (AU)	-	-	22
8.	Hostel Superintendent	-	-	22
9.	Senior Accounts Officer	1	1	-
10.	Research Officer	1	1	-
Total Class-I				
Total Class-II				
Total Class-III				
Total Class-IV				
GRAND TOTAL				

BRIGADIER  
(GENERAL MANAGER)  
CHAIRMAN, NATIONAL LAW COMMITTEE  
ON ORGANISATIONAL SET-UP OF  
MINISTRIES/DIVISIONS AND DEPARTMENTS

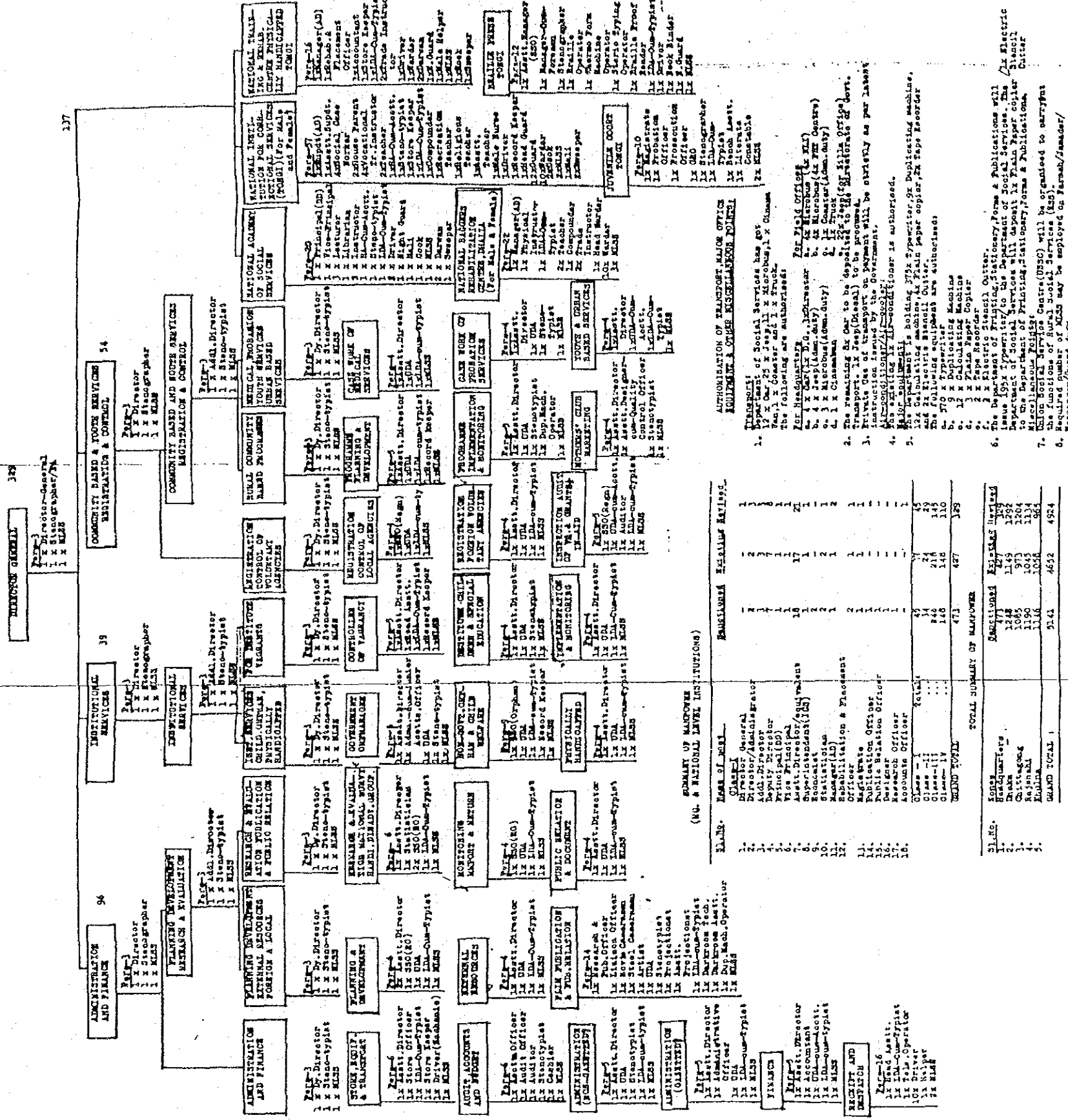


DEPARTMENT OF SOCIAL SERVICES AND WOMEN'S SERVICES

- FUNCTIONS:**
1. To organize and run Community Development Programs both in urban and rural areas.
  2. To look after Care, Protection, Education, Training and Rehabilitation of orphans and destitute children.
  3. To run Education, Training and Rehabilitation Services for the Physically Handicapped persons.
  4. To run Programmes for Correction and Rehabilitation of Socially Handicapped persons including Juvenile Delinquents and After-Care of Released prisoners.
  5. To run activities of National Council of Social Welfare.
  6. To provide Grants-in-aid to Voluntary Social Welfare Agencies.

7. To take steps for controlling Vagrancy and Rehabilitation of Vagrants.
8. To run Youth Welfare activities (including youth hostels).
9. To organize youth festivals, camp work etc.
10. To organize Programmes for Prevention of Juvenile Delinquency and After-Care Programmes.
11. To conduct survey and research and organize seminar etc. on social welfare and related matters.
12. To register and control of Voluntary Social Welfare Agencies both local and foreign as per provision of the concerned Act and Ordinances.

ORGANIZATION



- ABBREVIATIONS:**
- 1. MLI ... National Level Institutions
  - 2. SSO ... Social Services Officer
  - 3. VA ... Voluntary Agencies
  - 4. ICU ... Institute of Correctional Services

*Signature*

QUALIFIED NATIONAL LAW COMMITTEE ON ORGANIZATIONAL SET-UP OF MINISTRIES/DIVISIONS AND DEPARTMENTS

**SUMMARY OF MANPOWER (NO. & NATIONAL LEVEL INSTITUTIONS)**

Sl. No.	NAME OF POST	MANPOWER	ESTIMATED EXPENDITURE
1.	Director General	1	1248
2.	Asst. Director	1	1149
3.	Asst. Director	1	1262
4.	Asst. Director	1	1262
5.	Asst. Director	1	1262
6.	Asst. Director	1	1262
7.	Asst. Director	1	1262
8.	Asst. Director	1	1262
9.	Asst. Director	1	1262
10.	Asst. Director	1	1262
11.	Asst. Director	1	1262
12.	Asst. Director	1	1262
13.	Asst. Director	1	1262
14.	Asst. Director	1	1262
15.	Asst. Director	1	1262
16.	Asst. Director	1	1262
17.	Asst. Director	1	1262
18.	Asst. Director	1	1262
19.	Asst. Director	1	1262
20.	Asst. Director	1	1262
21.	Asst. Director	1	1262
22.	Asst. Director	1	1262
23.	Asst. Director	1	1262
24.	Asst. Director	1	1262
25.	Asst. Director	1	1262
26.	Asst. Director	1	1262
27.	Asst. Director	1	1262
28.	Asst. Director	1	1262
29.	Asst. Director	1	1262
30.	Asst. Director	1	1262
31.	Asst. Director	1	1262
32.	Asst. Director	1	1262
33.	Asst. Director	1	1262
34.	Asst. Director	1	1262
35.	Asst. Director	1	1262
36.	Asst. Director	1	1262
37.	Asst. Director	1	1262
38.	Asst. Director	1	1262
39.	Asst. Director	1	1262
40.	Asst. Director	1	1262
41.	Asst. Director	1	1262
42.	Asst. Director	1	1262
43.	Asst. Director	1	1262
44.	Asst. Director	1	1262
45.	Asst. Director	1	1262
46.	Asst. Director	1	1262
47.	Asst. Director	1	1262
48.	Asst. Director	1	1262
49.	Asst. Director	1	1262
50.	Asst. Director	1	1262
51.	Asst. Director	1	1262
52.	Asst. Director	1	1262
53.	Asst. Director	1	1262
54.	Asst. Director	1	1262
55.	Asst. Director	1	1262
56.	Asst. Director	1	1262
57.	Asst. Director	1	1262
58.	Asst. Director	1	1262
59.	Asst. Director	1	1262
60.	Asst. Director	1	1262
61.	Asst. Director	1	1262
62.	Asst. Director	1	1262
63.	Asst. Director	1	1262
64.	Asst. Director	1	1262
65.	Asst. Director	1	1262
66.	Asst. Director	1	1262
67.	Asst. Director	1	1262
68.	Asst. Director	1	1262
69.	Asst. Director	1	1262
70.	Asst. Director	1	1262
71.	Asst. Director	1	1262
72.	Asst. Director	1	1262
73.	Asst. Director	1	1262
74.	Asst. Director	1	1262
75.	Asst. Director	1	1262
76.	Asst. Director	1	1262
77.	Asst. Director	1	1262
78.	Asst. Director	1	1262
79.	Asst. Director	1	1262
80.	Asst. Director	1	1262
81.	Asst. Director	1	1262
82.	Asst. Director	1	1262
83.	Asst. Director	1	1262
84.	Asst. Director	1	1262
85.	Asst. Director	1	1262
86.	Asst. Director	1	1262
87.	Asst. Director	1	1262
88.	Asst. Director	1	1262
89.	Asst. Director	1	1262
90.	Asst. Director	1	1262
91.	Asst. Director	1	1262
92.	Asst. Director	1	1262
93.	Asst. Director	1	1262
94.	Asst. Director	1	1262
95.	Asst. Director	1	1262
96.	Asst. Director	1	1262
97.	Asst. Director	1	1262
98.	Asst. Director	1	1262
99.	Asst. Director	1	1262
100.	Asst. Director	1	1262
101.	Asst. Director	1	1262
102.	Asst. Director	1	1262
103.	Asst. Director	1	1262
104.	Asst. Director	1	1262
105.	Asst. Director	1	1262
106.	Asst. Director	1	1262
107.	Asst. Director	1	1262
108.	Asst. Director	1	1262
109.	Asst. Director	1	1262
110.	Asst. Director	1	1262
111.	Asst. Director	1	1262
112.	Asst. Director	1	1262
113.	Asst. Director	1	1262
114.	Asst. Director	1	1262
115.	Asst. Director	1	1262
116.	Asst. Director	1	1262
117.	Asst. Director	1	1262
118.	Asst. Director	1	1262
119.	Asst. Director	1	1262
120.	Asst. Director	1	1262
121.	Asst. Director	1	1262
122.	Asst. Director	1	1262
123.	Asst. Director	1	1262
124.	Asst. Director	1	1262
125.	Asst. Director	1	1262
126.	Asst. Director	1	1262
127.	Asst. Director	1	1262
128.	Asst. Director	1	1262
129.	Asst. Director	1	1262
130.	Asst. Director	1	1262
131.	Asst. Director	1	1262
132.	Asst. Director	1	1262
133.	Asst. Director	1	1262
134.	Asst. Director	1	1262
135.	Asst. Director	1	1262
136.	Asst. Director	1	1262
137.	Asst. Director	1	1262
138.	Asst. Director	1	1262
139.	Asst. Director	1	1262
140.	Asst. Director	1	1262
141.	Asst. Director	1	1262
142.	Asst. Director	1	1262
143.	Asst. Director	1	1262
144.	Asst. Director	1	1262
145.	Asst. Director	1	1262
146.	Asst. Director	1	1262
147.	Asst. Director	1	1262
148.	Asst. Director	1	1262
149.	Asst. Director	1	1262
150.	Asst. Director	1	1262
151.	Asst. Director	1	1262
152.	Asst. Director	1	1262
153.	Asst. Director	1	1262
154.	Asst. Director	1	1262
155.	Asst. Director	1	1262
156.	Asst. Director	1	1262
157.	Asst. Director	1	1262
158.	Asst. Director	1	1262
159.	Asst. Director	1	1262
160.	Asst. Director	1	1262
161.	Asst. Director	1	1262
162.	Asst. Director	1	1262
163.	Asst. Director	1	1262
164.	Asst. Director	1	1262
165.	Asst. Director	1	1262
166.	Asst. Director	1	1262
167.	Asst. Director	1	1262
168.	Asst. Director	1	1262
169.	Asst. Director	1	1262
170.	Asst. Director	1	1262
171.	Asst. Director	1	1262
172.	Asst. Director	1	1262
173.	Asst. Director	1	1262
174.	Asst. Director	1	1262
175.	Asst. Director	1	1262
176.	Asst. Director	1	1262
177.	Asst. Director	1	1262
178.	Asst. Director	1	1262
179.	Asst. Director	1	1262
180.	Asst. Director	1	1262
181.	Asst. Director	1	1262
182.	Asst. Director	1	1262
183.	Asst. Director	1	1262
184.	Asst. Director	1	1262
185.	Asst. Director	1	1262
186.	Asst. Director	1	1262
187.	Asst. Director	1	1262
188.	Asst. Director	1	1262
189.	Asst. Director	1	1262
190.	Asst. Director	1	1262
191.	Asst. Director	1	1262
192.	Asst. Director	1	1262
193.	Asst. Director	1	1262
194.	Asst. Director	1	1262
195.	Asst. Director	1	1262
196.	Asst. Director	1	1262
197.	Asst. Director	1	1262
198.	Asst. Director	1	1262
199.	Asst. Director	1	1262
200.	Asst. Director	1	1262



SELECTED BASIC FACTS OF BANGLADESH  
AT A GLANCE

1. Geographical location: Between 20°34' and 26°38' north latitude and between 88°01' and 92°41' east longitude.
2. Boundary: North : India, West : India, South : Bay of Bengal, East : India and Burma
3. Area: 55,598 Sq. miles or 143,998 Sq.k.m. Territorial waters: 12 nautical miles Economic zone: Up to 200 nautical miles in the high seas measured from the base lines.

## 4. Administrative and other units:

	No. of units	Average pop. (1981) per unit
Divisions	4	21.78 (Mill.)
Regions (Former Districts)	21	4.14 "
Districts	64	1.36 "
(Former Sub-divisions)		
Upazila/Thanas	495	176.0 (thous.)
Union councils	4472	19.4 "
Mouzas	60215	1.4 "
villages	85650*	1.0 "
households	14785048	6

\* Less than 50 household = 20163  
50 or more household = 65487

\* Position as on June, 1984

No. of municipalities : 80  
Total Numbers of urban localities (1981) : 500 (approx.)  
Total urban population (1981): 13.0 million

5. Capital: Dhaka Area: 160 sq. miles (Metro. Dhaka)  
Popn 1981: 3.4 million (approx.)

6. Other principal towns with population in 1981:  
Chittagong (1391877) Khulna (646359) Rajshahi (25 3740)  
Sylhet (168371) Comilla (184132) Mymensingh (190911)

7. Main seasons : Winter (Nov.-Feb.)  
Summer (Mar.-June.)  
Monsoon (July-Oct.)

8. Climate : Winter temp. avege max. 84°F  
" min. 52.1°F  
Summer " " max. 94.1°F  
" min. 69.6°F

Monsoon, average rainfall 47" to 136"  
Humidity- highest 99% July  
lowest 36% December

9. Principal rivers: Padma, Meghna, Jamuna, Brahmaputra, Madhumati, Surma and Karnaphuli (in all 230 rivers including tributaries and branches)

(contd.)

10. Principal crops :	Rice, wheat, jute, tea, tobacco, sugarcane, pulses, oilseeds, spices, potatoes, vegetables, banana mango, cocoanut and jackfruit.
11. Principal industries :	Jute, cotton textile, tea, paper, newsprint, cement, chemical fertilizers engineering and electric cables.
12. Principal minerals :	Natural gas, lignite coal, limestones ceramic clay and glass sand.
13. Principal exports :	Raw jute, jute manufactures, tea, hides and skins, newsprint and fish.
14. Seaports :	Chittagong and Chalna.
15. Airports :	Dhaka, Chittagong, Jessore, Ishwardi Sylhet, Comilla, Cox's Bazar, Thakurgaon and Syedpur.
16. Of which International :	Zia International air port, Dhaka, Chittagong, Sylhet.
17. Radio stations :	Dhaka, Chittagong, Rajshahi, Khulna, Rangpur, Sylhet and Rangamati.
Broadcasting (in addition to Begali) :	English, Urdu, Hindi, Arabic and Nepali.
17. Television stations :	Dhaka, Chittagong, Sylhet, Khulna, Natore, Mymensingh and Rangpur.
Broadcasting :	Black & white as well as programmes in colour.
18. Telecommunication Satellite stations :	Betbunia and Talibabad (for International telecommunication through tel-sat.)

(contd.)

19. Population :	94.7 million in March, 1983 (estimated)	
	48.7 " male	
	46.0 " female	
Growth rate : (1983) :	2.26% per annum	
Sex ratio : 106 males per 100 females.		
Density :	1703 per sq. miles	
P. C. of urban popn :	15.2 (approx. in 1981)	
" rural " :	84.8 "	
P. C. of population of age group (1981)		
Age group	Male	Female
0-4	16.6	17.4
5-9	16.0	16.5
10-14	13.9	12.8
15-24	16.4	17.9
25-34	12.8	13.3
35-44	8.5	9.1
45-59	8.7	7.7
60+	8.1	5.1
Total	51.3	48.4
P. C. of literacy 5 years and above (1981) :		
Both sexes	23.8	
Male	31.0	
Female "	16.0	
P. C. of civilian labour force (1982) :		
Both sexes	34.60	
Male	33.03	
Female	1.57	
Life expectancy at birth :	55 (1982)	

20. Education : (1982)	No. of Universities : 6 (4 general and 2 technical) No. of Medical colleges : 10 (including 1 post-graduate Medical college and 1 Dental college) No. of Engineering colleges : 4 No. of Colleges : 595 No. of Polytechnic institutes : 17 No. of Secondary schools : 8656 No. of Primary schools : 42683 University enrolment : 39699 College enrolment : 396109 Secondary school enrolment 2.5Mill. Primary school enrolment 8.7 "	Electricity : 268(p) (1982-83) Natural gas : 245 (p) (1982-83)
21. Health : (1983)	No. of Hospitals : 724 No. of Hospital beds : 25038 Person per Hospital bed : 3736 No. of registered Physician : 11496 Persons per Physician 8144 Household per physicians 1286	Wholesale prices of agri. and ind. prod. 643 (1982-83) Consumer prices 758 (1982-83) (Dhaka)
22. National income : and GDP	The provisional G.D.P. in 1983-84 at (1972-73) constant factor cost : 72.4 Billion taka and at current Market price : 316.1 Billion Taka. Per capita G.N.P. at 1972-73 factor cost : taka 788 (1983-84) (P) and at current market prices : taka 3211	Money supply : 26.6 Billion taka (Narrow) Scheduled banks' time deposits 33.6 Billion taka. Scheduled banks' advance : 49.9 Billion taka. Revenue receipt : 27.1 Revenue expenditure : 21.1 Public sector development exp. : 29.6 Foreign exchange reserve (as on June 30, 1983) 8.6 Commodity Export (f.o.b.) : 18.0 Billion taka. Commodity Import (c.i.f.) : 37.5 Billion taka. Gross disbursement : 32.9 Billion taka Debt. repayment : 3.2 Billion taka. Principal : 2.0 Billion taka. Interest : 1.2 Billion taka.
23. Agricultural crop index :	(1972-73=100) 136.0 (1982-83)	
24. Energy production index : (1973-74=100)		
25. Price indices : (1969-70=100)		
26. Money and credit : (June, 1983)		
27. Govt. finance : (1982-83) (Billion Taka)		
28. Foreign trade : (1982-83)		
29. Foreign aid : (1982-83)		

(contd.)

(contd.)

## (2) 地域別人口増加率

3.59—contd.

Growth of urban population by district, 1891 to 1981.

(Thousand)

Former District	1941				1951			
	Urban	Rural	Total	Urban %	Urban	Rural	Total	Urban %
Chittagong ...	98	2055	2153	4.55	296	2216	2512	11.78
Chittagong H.T. ...	—	247	247	—	—	287	287	—
Comilla ...	125	2733	2858	4.37	117	3675	3792	3.09
Noakhali ...	24	2193	2217	1.08	22	2050	2072	1.06
Sylhet ...	56	2488	2544	2.20	77	2998	3059	2.52
Dhaka ...	276	3916	4192	6.58	411	3661	4072	10.09
Faridpur ...	61	2827	2888	2.11	58	2652	2710	2.14
Jamalpur ...	—	—	—	—	—	—	—	—
Mymensingh ...	200	5824	6024	3.32	160	4398	4558	3.51
Tangail ...	—	—	—	—	22	1205	1227	1.79
Barisal ...	104	2444	2548	4.08	122	2514	2636	4.63
Jessore ...	38	1791	1829	2.08	37	1666	1703	2.17
Khulna ...	66	1878	1944	3.39	59	2006	2075	2.84
Kushtia ...	—	—	—	—	40	844	884	4.52
Patuakhali ...	—	—	—	—	10	996	1006	9.99
Bogra ...	27	1234	1261	2.14	36	1242	1278	2.82
Dinajpur ...	42	1885	1927	2.18	77	1278	1355	5.68
Pabna ...	74	1631	1705	4.34	69	1515	1584	4.36
Rajshahi ...	61	1510	1571	3.88	85	2120	2205	3.85
Rangpur ...	93	2784	2877	3.23	128	2789	2917	4.39
Bangladesh	1345	38440	39785	3.38	1820	40112	41932	4.34

(Thousand)

1961			1974				1981				
Urban	Rural	Total	Urban %	Urban	Rural	Total	Urban %	Urban	Rural	Total	Urban %
373	2610	2983	12.50	905	3410	4315	20.97	1710	3781	5491	31.14
23	362	385	5.97	52	456	508	10.24	213	538	751	28.36
139	4250	4389	3.17	247	5572	5819	4.24	559	6322	6881	8.12
34	2349	2383	1.42	69	3165	3234	2.13	412	3404	3816	10.80
71	3419	3490	2.03	131	4628	4759	2.75	495	5161	5656	8.75
754	4342	5096	14.79	2250	5361	7611	29.56	3857	6157	10014	38.52
79	3110	3179	2.48	117	3943	4060	2.88	331	4433	4764	6.95
—	—	—	—	—	—	—	—	214	2238	2452	8.73
216	5315	5531	3.91	424	7143	7567	5.60	659	5909	6568	10.03
24	1463	1487	1.61	109	1969	2078	5.25	185	2259	2444	7.57
107	2961	3068	3.49	154	3774	3928	3.92	558	4109	4667	11.96
75	2115	2190	3.42	181	3146	3327	5.44	435	3585	4020	10.82
173	2276	2449	7.06	520	3037	3557	14.62	970	3359	4329	22.41
63	1103	1166	5.40	157	1727	1884	8.33	333	1959	2292	14.53
12	1181	1193	1.00	37	1462	1499	2.47	166	1677	1843	9.00
47	1527	1574	2.98	83	2148	2231	3.72	203	2525	2728	7.44
72	1638	1710	4.21	113	2458	2571	4.40	274	2926	3200	8.56
100	1860	1959	5.10	215	2600	2815	7.64	399	3025	3424	11.65
120	2691	2811	4.27	247	4021	4268	5.79	545	4725	5270	10.34
159	3637	3796	4.19	262	5185	5447	4.81	710	5800	6510	10.91
2641	48199	50841	5.19	6273	65205	71478	8.78	13228	73892	87120	15.18

Notes : The urban figures for the year 1981 represent unadjusted census counts.

(a) Included in Mymensingh district from 1891 to 1941. \*Census population (unadjusted)

(b) Sylhet district was a part of undivided province of Assam in India and data for some census years could not be shown

(c) Included in Barisal district from 1891 to 1941.

## URBANIZATION

In the 1981 Population Census an urban area has the following connotation. The term (urban area) will normally includes places having Municipality (Pourashava), a Town Committee (Shahar Committee) or a Cantonment Board. In general an urban area will be a concentration of population of at least 5,000 persons in continuous collection of houses where the community sense is well developed and the community maintains public utilities, such as, roads, street lightings, water supply, sanitary arrangements, etc. These places are generally non-agricultural and having non-agricultural labour concentration and a high literacy rate. An area which has urban characteristics but has less than 5,000 population may in special cases be treated as an urban area. All thana head quarters irrespective of their area and level of urbanization and hat and bazar with electricity, not covered under the above definition, have also been considered as urban area in 1981 population census.

Source: Statistical Yearbook of Bangladesh, 1983-84

## (3) 平均寿命

## 3.55 Estimates of life expectancy at birth by sex--selected periods, 1974 to 1981.

Source and Year of period	Life expectancy at birth		
	Both Sexes	Male	Female
Bangladesh Retrospective Survey of Fertility and Mortality, 1974	46.2	45.3	46.6
National Academy of Sciences, 1973-74	50.7	51.6	49.7
ICDDR, 1979 Matlab	54.5	56.1	52.3
BLDS, BBS 1980			
National	56.9	57.0	57.1
Urban	61.9	62.6	60.9
Rural	56.6	56.5	54.9
VRS, BBS 1981			
National	54.8	55.3	54.4
Urban	60.1	59.8	60.5
Rural	54.3	54.9	53.8
VRS, BBS 1982			
National	54.5	54.5	54.8
Urban	60.6	58.8	62.9
Rural	53.9	54.0	54.0

Source : B.B.S.

Source: Statistical Yearbook of Bangladesh, 1983-84

## (4) ঢাকা DISTRICT ০ UNION, MOUZA ০ ৳

## 1.01 Thanawise Area, No. of Unions and Moazas.

Thanas	Area in sq. miles (Including water areas)	Number of Unions	Number of Moazas
Dhamrai	119	16	307
Dohar	71	8	103
Keraniganj	65	11	109
Nawabganj	95	14	196
Savar	108	14	274
Dhaka Metropolitan area	160	9	71
Dhaka Sadar Sub-Division	618	72	1060
Joydebpur	171	5	154
Kaliakair	120	9	180
Kaliganj	76	7	127
Kapasia	136	11	166
Sreepur	178	9	80
Tongi	11	2	31
Gazipur Sub-Division	692	43	738
Daulatpur	87	8	198
Ghior	55	7	182
Harirampur	95	13	208
Manikganj	80	9	241
Saturia	62	10	202
Shivalaya	75	7	221
Singair	81	11	141
Manikganj Sub-Division	535	65	1393
Gazaria	48	8	115
Lohaganj	49	12	115
Munshiganj	68	9	112
Serajdikhan	69	14	124
Sreenagar	84	14	102
Tongibari	63	12	124
Munshiganj Sub-Division	381	69	692
Araihazar	65	12	185
Baiddyer bazar	60	11	353
Bandar	20	5	102
Fatullah	22	5	39
Narayanganj	5	2	07
Rupganj	91	11	202
Siddhirgonj	10	3	9
Narayanganj Sub-Division	273	49	897
Monohardi	96	14	164
Narsingdi	86	14	161
Palash	34	5	64
Raipura	139	28	132
Shibpur	80	9	124
Narsingdi Sub-Division	435	70	645
Dhaka District (D.D)	2934	368	5425
Bangladesh	55598	4472	60315
Dhaka dist. as a % of BD	5.3	8.2	9.0

Note : i) Dhaka Metropolitan Area Comprises 12 Thanas namely Cantonment, Demra, Dhanmondi, Gulshan, Kotwali, Lalbag, Mirpur, Mohammadpur, Motijheel, Ramna, Sutrapur and Tejgaon. But Demra, Gulshan, Mirpur and Mohammadpur Thanas Possess 9 rural unions outside Municipal Corporation Area.

ii) Unions exclude Pourashava area.

(1) Census of Pakistan Population 1961 Vol.-2 East Pakistan

(2) Bangladesh Population Census 1974 union population statistics.

(3) Bangladesh Population Census 1961 Preliminary Report.

Source : B.B.S.

Source: Dhaka District Statistics, 1983



## (5) 地区別人口密度

## 3.3

## Density of population by district in census years.

(Per sq. mile)

Former District	1901	1911	1921	1931	1941	1951	1961	1974	1981
Chittagong	527	587	637	699	838	902	1139	1549	1907
Chittagong H. T.	25	31	35	43	49	57	75	100	148
Comilla	845	970	1065	1208	1525	1500	1794	2245	2701
Noakhali	715	816	922	1068	1388	1424	1468	1591	1810
Sylhet	416	459	471	505	580	628	737	995	1152
Dhaka	955	1069	1157	1258	1541	1492	1909	2643	3472
Faridpur	689	758	786	837	1026	1051	1311	1521	1793
Jamalpur	—	—	—	—	—	—	—	1511	1896
Mymensingh	630	727	777	824	968	917	1093	1488	1760
Tangail	—	—	—	—	—	943	1143	1587	1860
Barisal	615	647	704	791	943	1031	1176	1407	1656
Jessore	633	614	611	596	651	656	877	1288	1584
Khulna	264	287	306	339	404	432	600	768	922
Kushtia	646	614	517	489	671	647	882	1404	1726
Patuakhali	—	—	—	—	—	680	732	895	1166
Bogra	599	689	734	761	855	868	1075	1486	1817
Dinajpur	444	461	481	587	527	544	659	985	1262
Pabna	776	780	759	788	929	869	1157	1477	1874
Rajshahi	523	550	558	548	604	608	788	1168	1443
Rangpur	595	658	601	715	790	792	1130	1472	1757
Bangladesh	534	583	614	656	776	761	922	1286	1567*

Notes: 1. From 1901 to 1941 Patuakhali was included under Barisal and Tangail was included under Mymensingh district. Jamalpur was under Mymensingh district. 2. Population density based on unadjusted census population and total area.

Source: B. B. S.

Source: Statistical Yearbook of Bangladesh 1983-84

\* 1mile<sup>2</sup> = 2.5898 ㎞<sup>2</sup>より 606人/㎞<sup>2</sup>となる (1981年)

## (6) ঢাকা DISTRICT の世帯数、人口及び人口密度

## 1.02 Thanawise households, population and density—1981

Thanas	No. of Households	Population—1981			Average size of household	Density per sq. mile
		Male	Female	Both sex		
Dhamrai	43,524	1,33,238	1,31,879	2,65,117	6.1	2227
Dohar	25,447	71,526	73,677	1,45,203	5.7	2042
Keraniganj	56,795	1,90,519	1,58,982	3,49,501	6.2	5385
Navabganj	41,061	1,17,970	1,23,791	2,41,761	5.9	2547
Savar	42,150	1,41,797	1,19,170	2,60,957	6.2	2417
Cantonment	24,656	72,120	44,046	1,16,166	4.7	8286
Demra	62,039	1,87,591	1,38,532	3,26,123	5.3	14818
Gulshan	36,225	1,20,969	94,360	2,15,329	5.9	6935
Kotwali	25,651	1,15,464	73,162	1,88,626	7.4	47250
Lalbagh	46,567	1,67,719	1,26,940	2,94,659	6.3	59000
Mirpur	56,128	1,76,835	1,70,581	3,47,416	6.2	15087
Mohammadpur	37,004	1,23,081	96,325	2,19,406	5.9	36500
Motijheel	55,458	1,99,491	1,44,330	3,43,821	6.2	38222
Ramna	16,376	79,987	39,312	1,19,299	7.3	7438
Sutrapur	46,969	1,77,333	1,30,168	3,07,501	6.5	51335
Dhanmandi	20,901	84,939	57,823	1,42,762	6.8	15889
Tejgaon	29,319	1,14,956	71,162	1,86,118	6.3	12400
Dhaka Sdr.S.Dn.	6,66,270	22,75,525	94,240	40,69,765	6.1	6585
Joydebpur	40,601	1,33,383	1,22,981	2,56,364	6.3	1497
Kaliakair	26,344	34,782	80,646	1,64,928	6.3	1375
Kaliganj	29,309	88,219	80,367	1,68,586	5.8	2224
Kapasia	46,097	1,27,680	1,23,044	2,50,724	5.4	1846
Sreepur	41,316	1,21,161	1,16,598	2,37,759	5.8	1337
Tongi	17,673	57,958	36,196	94,154	5.3	8545
Gazipur S.Dn.	2,01,340	6,13,185	5,59,832	11,73,015	5.8	1695
Daulatpur	24,542	68,630	70,512	1,39,142	5.7	1598
Ghior	19,386	54,692	54,445	1,09,137	5.6	1982
Harirampur	28,978	79,580	82,907	1,62,487	5.6	1705
Manikganj	34,689	97,502	95,520	1,96,022	5.6	2425
Saturia	24,358	67,819	68,792	1,36,611	5.6	2210
Shivalaya	20,352	60,488	56,707	1,17,195	5.8	1560
Singair	35,308	1,00,549	1,00,531	2,10,080	5.7	2481
Manikganj S.Dn.	1,87,613	5,29,260	5,30,414	10,59,674	5.6	1979
Gazaria	19,733	56,901	56,026	1,12,927	5.7	2354
Lohajang	25,127	76,922	71,186	1,48,108	5.9	2020
Munshiganj	41,536	1,27,835	1,17,352	2,45,187	5.9	3603
Serajdikhan	31,781	98,232	99,936	1,98,168	6.2	2870
Sreenagar	31,916	94,773	96,296	1,91,069	6.0	2274
Tongibari	27,687	85,505	83,502	1,69,007	6.1	2683
Munshigonj S.Dn.	1,77,780	5,40,168	5,24,298	10,64,466	6.0	2793
Araihazar	42,589	1,19,515	1,12,857	2,32,372	5.5	3569
Baiddyer bazar	35,342	1,07,258	1,00,681	2,07,939	5.9	3467
Bandar	35,232	1,07,711	91,129	1,98,840	5.6	9950
Fatullah	21,493	71,663	61,104	1,32,767	6.2	6045
*Narayanganj	32,153	1,09,451	86,688	1,96,139	6.1	49000
Rupganj	49,405	1,55,270	1,37,917	2,93,187	5.9	3220
Siddhirganj	17,953	58,947	34,235	93,182	5.2	9300
Narayanganj S. Dn.	2,34,167	7,29,815	6,24,611	13,54,426	5.8	4960
Monohardi	47,405	1,23,849	1,21,172	2,45,021	5.2	2552
Narsingdi	55,702	1,73,178	1,54,066	3,27,244	5.9	3802
Palash	22,206	68,082	56,625	1,24,707	5.9	3676
Raipura	77,633	2,25,037	2,11,258	4,36,295	5.6	3137
Shibpur	2,35,808	98,170	96,208	1,94,378	5.4	2425
Narsingdi S.Dn.	2,37,754	6,88,316	6,39,329	13,27,645	5.6	3051
Dhaka District (D.D.)	17,04,924	53,76,267	46,72,724	1,00,48,991	5.9	3511
Bangladesh (000)	15135	44850	42202	87052	5.8	1566
D.D. as a % of B.D.	11.3	12.0	11.1	11.5	102.0	224.0

Note ; \*Excludes Rural Area ; Bangladesh Population Census, 1981 Preliminary Report.  
Source : B.B.S.

Source: Dhaka District Statistics, 1983

## (7) ঢাকা DISTRICT の人口推移と増減率

## 1.03 Thanawise Population in 1961, 1974, 1981 and their variation

Thanas	1961	1974	1981	1974 as % variation of 1961	1981 as % variation of 1974	1981 as % variation of 1961 %
Dhamrai	1,77,852	2,28,877	2,65,117	28.69	15.83	49.10
Dohar	97,165	1,25,482	1,45,203	29.14	15.72	49.44
Keraniganj	1,70,489	2,58,274	3,49,501	51.49	35.32	105.00
Nawabganj	1,61,149	1,98,384	2,41,761	23.11	21.87	50.02
Savar	1,48,936	2,04,908	2,60,957	37.58	27.35	75.21
Dhaka Metro- politan Area	7,09,471	17,39,913	28,07,226	145.24	61.34	295.68
Dhaka Sadar						
*Sub-division	17,65,062	27,55,918	40,65,765	56.14	47.53	130.35
Joydebpur	91,651	1,48,341	2,56,364	61.85	72.82	179.72
Kaliakair	75,136	1,36,005	1,64,928	81.02	21.27	11.95
Kaliganj	99,683	1,39,940	1,68,586	40.39	20.47	69.12
Kapasia	1,54,535	2,09,137	2,50,724	35.33	19.89	62.24
Steepur	1,25,587	1,97,421	2,37,759	57.20	20.43	89.32
Tongi	33,389	67,420	94,154	101.92	39.65	181.99
Gazipur						
Sub-division	5,99,991	8,98,264	11,73,015	49.71	30.59	95.51
Daulatpur	91,606	1,19,385	1,39,142	30.32	16.55	51.89
Ghior	74,332	95,364	1,09,137	28.29	14.44	46.82
Harirampur	1,16,175	1,37,163	1,62,487	18.07	18.46	39.86
Manikganj	1,21,915	1,61,134	1,94,022	32.17	20.41	59.15
Saturia	96,670	1,24,903	1,36,611	29.21	9.37	41.32
Shivalaya	72,847	99,979	1,17,195	37.25	17.22	60.88
Singair	1,27,848	1,67,163	2,01,080	30.75	20.29	57.28
Manikganj						
Sub-division	7,01,393	9,05,091	10,59,674	29.04	17.08	51.08
Gazaria	73,113	94,552	1,12,927	29.32	19.43	54.46
Lohajang	1,19,047	1,24,244	1,48,108	4.37	19.21	24.41
Munshiganj	1,56,192	2,11,772	2,45,187	35.58	15.78	56.98
Serajdikhan	1,33,745	1,70,279	1,98,168	27.32	16.38	48.17
Sreenagar	1,36,951	1,61,423	1,91,069	17.87	18.37	39.52
Tongibari	1,11,339	1,46,084	1,69,007	31.21	15.69	51.79
Munshiganj						
Sub-division	7,30,387	9,08,285	10,64,466	24.36	17.20	45.74
Araihazar	1,52,673	1,94,763	2,32,372	27.57	19.31	52.20
Baiddyer bazar	1,34,252	1,73,748	2,07,939	29.42	19.68	54.89
Bandar	70,248	93,289	1,98,840	32.80	113.14	113.05
Fatullah	58,999	91,045	1,32,767	54.32	45.83	125.03
**Narayanganj	1,40,362	1,97,936*	1,96,139	41.02	—	—
Rupganj	1,61,010	2,27,003	2,93,187	40.99	29.16	82.09
Siddhirganj	50,483	65,311	93,182	29.37	42.67	84.59
Narayanganj						
Sub-division	7,68,027	10,43,095	13,54,426	35.81	29.59	76.35
Monohardi	1,63,704	2,06,597	2,45,021	26.20	18.60	49.67
Narsingdi	1,85,750	2,64,472	3,27,244	42.38	23.73	76.17
Palash	69,570	1,05,193	1,79,707	50.20	70.84	158.55
Raipura	2,73,828	3,62,006	4,36,295	32.20	20.52	59.33
Shibpur	1,32,083	1,62,886	1,94,378	23.32	19.33	47.16
Narsingdi						
Sub-division	8,30,885	11,01,154	13,27,645	32.53	20.57	59.79
Dhaka District	50,95,745	76,11,807	1,00,48,991	49.38	32.02	97.20
Bangladesh(000)	50840	71479	87052	40.6	21.8	71.2
D.D. as a % B.D.	10.0	10.6	11.5	—	—	—

\*\* See foot note to table 1.01

\* Excludes rural population, which has been included in bandar thana.

- Note :
1. Census of Pakistan population 1961 Vo.-2 East Pakistan.
  2. Bangladesh population Census 1974 Union Population Statistics.
  3. Bangladesh Population Census 1981 Preliminary Report.

Source : B.B.S.

Source: Dhaka District Statistics, 1983